



教科目概要

2024年度

越谷保育専門学校

幼稚園教諭保育士養成学科 1年
教科目概要

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 科目配当表（2024年度入学生）

2024.4.1現在

教養科目卒業要件：9単位以上履修

幼稚園教諭2種免許取得要件：8単位（日本国憲法2・体育2・英語コミュニケーション2・情報機器の操作2）

保育士資格取得要件：8単位（体育講義1・体育実技1・体育以外から6以上）

区分		授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考	
								1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期		
教養科目	教 養 科 目	倫理学	講義	2			⑥単位以上履修				30		
		文学	講義	2							30		
		英語コミュニケーション	演習	2	○	○		30					
		日本国憲法	講義	2	○	○		30					
		社会学	講義	2							30		
		生き物	演習	1	○			30					
		情報機器の操作	演習	2	○	○		30					
		体育講義	講義	1	○	○		15					
		体育実技	実技	1	○	○		○				30	
		小計				15				135	120		
卒業必要単位及び時間				9			135	30	(165時間)				

専門教育科目卒業要件：73単位以上履修（必修72単位以上及び選択1単位以上）

幼稚園教諭2種免許取得要件：31単位

保育士資格取得要件：62単位（必修53単位 *から9単位以上（保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱ含む））

（専門教育科目）

区分			授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考
									1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	
専門教育科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	・領域に関する専門的事項	子どもの健康とあそび	演習	1	○	○	○	30				
			子どもと人間関係	演習	1	○	○	○		30			
			子どもと環境	演習	1	○	○	○	30				
			子どもの文化と言葉	演習	1	○	○		30				
			子どもの言語文化表現	演習	1	○	○	○		30			
			子どもの音楽基礎演習	演習	1	○	○	○	30				
			子どもの発達と音楽表現	演習	1	○	○	*		30			
			子どもの発達と造形表現Ⅰ	演習	1	○	○	○	30				
			子どもの総合表現	演習	1	○	○	*			30		
		・保育の内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容健康	演習	1	○	○	○		30			
			保育内容人間関係	演習	1	○	○	○			30		
			保育内容環境	演習	1	○	○	○		30			
			保育内容言葉	演習	1	○	○	○		30			
			保育内容表現（音楽）	演習	1	○	○	○			30		
			保育内容表現（造形）	演習	1	○	○	*			30		
	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教育原理	講義	2	○	○	○	30				
			保育・教職論	講義	2	○	○	○	30				
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	幼児教育経営学	講義	2	○	○				30		
			発達心理学	講義	2	○	○	○		30			
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援保育	演習	1	○	○	○		30			
			保育・教育課程論	講義	2	○	○	○			30		
		・教育課程の意義および編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	幼児教育の方法及び技術	演習	1	○	○	*		30			
			子ども理解の理論及び方法	演習	1	○	○	○		30			
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の理論及び方法	演習	2	○	○				30		

	授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考
							1年	1年	2年	2年	
							前期	後期	前期	後期	
教育実践に関する科目	保育・教職実践演習	演習	2	○	○	○				60	
	教育実習指導	演習	1	○	○		30				
	教育実習Ⅰ	実習	2	○	○			60			1年生9月実施
	教育実習Ⅱ	実習	2	○	○				60		1年生9月実施
・保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	○		○	30				
	子ども家庭福祉	講義	2	○		○	30				
	社会福祉	講義	2	○		○	30				
	子ども家庭支援論	講義	2	○		○			30		
	社会的養護Ⅰ	講義	2	○		○			30		
	自立支援とライフデザイン	講義	2			*				30	
・保育の対象の理解に関する科目	子ども家庭支援の心理学	講義	2	○		○		30			
	子どもの保健	講義	2	○		○		30			
	子どもの食と栄養A	演習	1	○		○			30		
	子どもの食と栄養B	演習	1	○		○				30	
	教育心理学	講義	2			*				30	
・保育の内容・方法に関する科目	保育内容総論	演習	1	○		○				30	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	○		○		30			
	乳児保育Ⅱ	演習	1	○		○			30		
	社会的養護Ⅱ	演習	1	○		○				30	
	子育て支援	演習	1	○		○				30	
	子どもの健康と安全	演習	1	○		○			30		
	特別支援保育Ⅱ	演習	1	○		○			30		
	子どもの発達と造形表現Ⅱ	演習	1	○		*		30			
	子どもの発達と造形表現Ⅲ	演習	1			*				30	
	音楽実技演習	演習	1	○			30				
	子どもの弾き語り演習Ⅰ	演習	1			*		30			
	子どもの弾き語り演習Ⅱ	演習	1			*			30		
	子どもの運動あそび	演習	1			*			30		
	保育教材（ペープサート・パネルシアター）	演習	1			*		30			
	保育教材（パペット・エフロンシアター）	演習	1			*			30		
	こどもとおもちゃ	演習	1			*			30		
保育実習	保育実習ⅠA	実習	2	○		○			80		1年生2月（保育）*
	保育実習ⅠB	実習	2	○		○			80		1年生3月（保育）*
	保育実習Ⅱ	実習	2	○		*			80		2年生8月（保育）
	保育実習指導ⅠA	演習	1	○		○		30			
	保育実習指導ⅠB	演習	1	○		○		30			
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	○		*			30		
専門科目 開講単位数・開講時間小計			83					960	1110		
教養科目及び専門科目 開講単位数・開講時間合計			98					1,095	1,230		
卒業必要単位及び時間数（選択1単位を30時間2年次前期選択として換算）			82					1,035	930		1,995
専門科目72単位＋選択1単位＋教養9単位：合計82単位											

* 保育実習ⅠA、保育実習ⅠBの単位認定は2年次になります。

実習時期は、原則決められた時期に実施予定。ただし、新型コロナウイルス感染の状況など、受け入れ先の都合で時期を変更せざる得ない場合があります。

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 開講科目一覧（2024年入学生）

番号	教科目名	担当講師名	開講年次
1	倫理学	次年度開講	2
2	文学	次年度開講	2
3	英語コミュニケーション	鈴木孝義	1
4	日本国憲法	針谷重輝	1
5	社会学	次年度開講	2
6	生き物	三澤善道	1
7	情報機器の操作	生山 浩	1
8	体育講義	会田秀樹	1
9	体育実技	次年度開講	2
10	子どもの健康とあそび	坂田康之	1
11	子どもと人間関係	相川怜美	1
12	子どもと環境	石河信雅	1
13	子どもの文化と言葉	山崎英二	1
14	子どもの言語文化表現	横関由紀	1
15	子どもの音楽基礎演習	永島靖美・渋谷るり子	1
16	子どもの発達と音楽表現	渋谷るり子	1
17	子どもの発達と造形表現Ⅰ	森高光広	1
18	子どもの総合表現	次年度開講	2
19	保育内容健康	会田秀樹	1
20	保育内容人間関係	次年度開講	2
21	保育内容環境	石河信雅	1
22	保育内容言葉	山崎英二	1
23	保育内容表現（音楽）	次年度開講	2
24	保育内容表現（造形）	次年度開講	2
25	教育原理	元木 廉	1
26	保育・教職論	狩野浩二	1
27	幼児教育経営学	次年度開講	2
28	発達心理学	殿塚貴史	1
29	特別支援保育	山田陽子	1
30	保育・教育課程論	次年度開講	2
31	幼児教育の方法及び技術	星野敦子	1
32	子ども理解の理論及び方法	未定	1
33	教育相談の理論及び方法	次年度開講	2
34	保育・教職実践演習	次年度開講	2
35	教育実習指導	渋谷るり子	1
36	教育実習Ⅰ	渋谷るり子 他専任	1
37	教育実習Ⅱ	次年度開講	2
38	保育原理	相川怜美	1
39	子ども家庭福祉	船澤修一	1
40	社会福祉	石坂公俊	1
41	子ども家庭支援論	次年度開講	2
42	社会的養護Ⅰ	次年度開講	2
43	自立支援とライフデザイン	次年度開講	2
44	子ども家庭支援の心理学	蓮井千恵子	1
45	子どもの保健	中村千景	1

番号	教科目名	担当講師名	開講年次
46	子どもの食と栄養A	次年度開講	2
47	子どもの食と栄養B	次年度開講	2
48	教育心理学	次年度開講	2
49	保育内容総論	次年度開講	2
50	乳児保育Ⅰ	百名真紀子	1
51	乳児保育Ⅱ	次年度開講	2
52	社会的養護Ⅱ	次年度開講	2
53	子育て支援	次年度開講	2
54	子どもの健康と安全	次年度開講	2
55	特別支援保育Ⅱ	次年度開講	2
56	子どもの発達と造形表現Ⅱ	森高光広	1
57	子どもの発達と造形表現Ⅲ	次年度開講	2
58	音楽実技演習	横関由紀・永島靖美・渋谷るり子・羽金恵子・川上由美・前田佳代	1
59	子どもの弾き語り演習Ⅰ		1
60	子どもの弾き語り演習Ⅱ	次年度開講	2
61	子どもの運動あそび	次年度開講	2
62	保育教材（ペープサート・パネルシアター）	新井恵美子	1
63	保育教材（パペット・エプロンシアター）	次年度開講	2
64	こどもとおもちや	次年度開講	2
65	保育実習ⅠA	相川怜美 他専任	1
66	保育実習ⅠB	相川怜美 他専任	1
67	保育実習Ⅱ	次年度開講	2
68	保育実習指導ⅠA	相川怜美	1
69	保育実習指導ⅠB	相川怜美	1
70	保育実習指導Ⅱ	次年度開講	2

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
3	英語コミュニケーション	演習	2	■				○	○	○	鈴木孝義	該当しない	
科目区分		教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目 / 教養科目（外国語）									担当形態	単独	
ディヴィーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	国際化の進展に伴い、多くの外国人の子どもが保育園等に入園してくることが予想される。将来幼児教育を目指す学生に、「保育に関する英語」を身につけさせていく。併せて一般的な「国際語としての英語」を習得させていく。			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
カリキュラムとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	《キーワード》 保育英語 English Grammar 自学自習			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○				
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								○				
《一般目標》 ・保育現場における国際化に対応して、保育に関する英語表現や英単語等を理解し、使えることができる。 ・会話表現を学んで、初歩的な英会話ができる。 ・習得した英文法や英単語等に関する知識を活用して、自発的に学習する習慣を身につけることができる。				《到達目標（行動目標）》 ・保育に関する英語表現や英単語などを習得する。 ・英会話に必要な表現や音声面の知識を習得する。 ・中学校や高校で学んできた英語の基本的な文法事項を復習・確認する。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	授業についての説明（授業内容、評価方法等） Unit 1（保育の英会話への第一歩）、発音(母音の発音)										教科書の最初にある「はじめに」を読んでくる 復習（英単語等の暗記、発音練習）		
②	小テスト Unit 2（みなと保育園ようこそ）、発音(子音の発音)、英語の歌										復習（英単語等の暗記、発音練習）		
③	小テスト Unit 7（保育者の仕事）、辞書の引き方										復習（英単語等の暗記）		
④	小テスト Unit 5（クラスメイトとの出会い）、基本的な英文法(be動詞)										復習（英単語等の暗記、文法の確認）		
⑤	小テスト Unit 6（ディヴィーの登園と降園）、基本的な英文法(現在完了)										復習（英単語等の暗記、文法の確認）		
⑥	小テスト Unit 8（昼食）、基本的な英文法(仮定法：ていねいな表現)										復習（英単語等の暗記、文法の確認）		
⑦	小テスト Unit 9（排泄に関する会話）、基本的な英文法(5文型)、英語の歌										復習（英単語等の暗記、文法の確認）		
⑧	小テスト Unit 10（けんか）、基本的な英文法(助動詞、命令文)										復習（英単語等の暗記、文法の確認）		
⑨	小テスト Unit 11（けがと病気）、基本的な英文法(接続詞、代名詞)										復習（英単語等の暗記、文法の確認）		
⑩	小テスト Unit 12（電話での応対）、基本的な英文法(関係代名詞)										復習（英単語等の暗記、文法の確認）		
⑪	小テスト Unit 13（遠足）、基本的な英文法(間接疑問)										復習（英単語等の暗記、文法の確認）		
⑫	小テスト Unit 3（時間と数）、基本的な英文法(比較)										復習（英単語等の暗記、文法の確認）		
⑬	小テスト Unit 4（地図と道案内）、基本的な英文法(動名詞、不定詞、分詞)										復習（英単語等の暗記、文法の確認）		
⑭	小テスト Unit 14（赤ちゃんのケア）、最後のまとめ(単語と重要構文)										復習（英単語等・重要構文の総復習）		
⑮	小テスト Unit 15（卒園）、最後のまとめ(英文法他)、英語の歌										復習（英単語等・文法の総復習）		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考						
	50%	30%	評価に加えず	5%	評価に加えず	15%							
使用教科書	「保育の英会話」(Childcare English)(第2版) 赤松直子・久富陽子著、 萌文書林						参考図書	毎回プリントを配布する					
学生へのメッセージ	保育に関する英語を楽しみながら学びましょう。また、生涯学習という視点から英語を自学自習する態度を身につけましょう。						履修上の注意	毎時間実施する小テストに集中すること 発表時には積極的に参加すること					
実務経験と科目の関連													

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
4	日本国憲法	講義	2	■				○	○	○	針谷重輝	該当しない
科目区分		教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目 / 教養科目（外国語・体育以外）									担当形態	単独
ディパ ホリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	憲法は、国が守らなければならない国民の権利や国のしくみについて定めているルールである。授業では、日本国憲法の根本理念と内容を事例を取り上げて解説したり、課題解決をし	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										たりして、学びを積み重ねていく。	
カキヲ ホリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	日本国憲法	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										国民主権	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										基本的人権の尊重	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	平和主義	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
○日本国憲法の必要性を理解する。				○日本国憲法の必要性を理解することができる。								
○一人一人の権利が守られるための憲法を理解する。				○一人一人の権利が守られるための憲法を理解することができる。								
○安心・安全な生活を送ることができるための憲法を理解する。				○安心・安全な生活を送ることができるための憲法を理解することがで								
○世界の人々が平和に暮らすことができるための憲法を理解する。				きる。								
○課題解決のための思考力・判断力・表現力を育成する。				○世界の人々が平和に暮らすことができるための憲法を理解することがで								
				きる。								
				○課題解決のための思考力・判断力・表現力を身に着けることができる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	授業ガイダンス・憲法の歴史と概要										日本国憲法の前文と全文	
②	大日本帝国憲法と日本国憲法										日本国憲法の前文と全文	
③	日本国憲法(国民主権)										前文・第1章	
④	日本国憲法(基本的人権の尊重)										第13条～15条・第19条～26条	
⑤	日本国憲法(平和主義)										第2章	
⑥	基本的人権の尊重(個人の尊重と差別禁止)										第13条～14条	
⑦	基本的人権の尊重(表現の自由)										第21条	
⑧	基本的人権の尊重(内心の自由と信教の自由)										第19条～20条	
⑨	基本的人権の尊重(参政権・生存権・教育を受ける権利)										第15条・25条・26条	
⑩	国民の権利と義務①（事例研究と概要）										第3章	
⑪	国民の権利と義務②（事例研究と人権保障）										第3章	
⑫	立法権と国会										第4章	
⑬	行政権と内閣										第5章	
⑭	司法権と裁判所										第7章	
⑮	地方自治・まとめ										第8章	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	50%	評価に加えず	30%	10%	評価に加えず	10%						
使用教科書	授業ごとに資料を配布予定					参考図書		「こども六法」山崎聡一郎著(弘文堂) 中学校や高等学校で使用した社会科公的分野等の教科書で日本国憲法全文の記載されている書籍				
学生へのメッセージ	日本国憲法を自分の生活と関連付けて身近に理解していきましょう。					履修上の注意		日本国憲法を自分の生活と関連付けて理解できるように努めてください。				
実務経験と科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
6	生き物	演習	1	■				○		○	三澤 善道	該当しない
科目区分		教養科目（外国語・体育以外）									担当形態	単独
ディバ ホ'リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										身近な生き物を観察し、動植物の理解を深めるとともに、環境に適応して進化してきた生命の神秘を	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										学習させる。	
カキム ホ'リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	毎回の講義では課題（実習等ではレポート）を完成し提出させる。	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										《キーワード》	
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										生き物って不思議	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》					《到達目標（行動目標）》							
○生物の基本的知識を身につけ、幼児教育者としての教養を深める。					・身近な生き物の名前を覚える。							
○子どもたちに身近な自然との接し方、生命の大切さをわかりやすく伝えられるようにするために、実習を通して生き物の扱い方を身につける。					・ヒトを含め身近な生き物の特徴を子どもに分かりやすく説明できる。							
					・身近な生き物の飼育・栽培方法を説明できる。							
					・自然の植物を使った遊びを列挙できる。							
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	生き物って何か、考えよう										予習：生物の普遍的な特徴を調べる。 復習：生きていることを体感する。	
②	魚を観察しよう										予習：好きな魚について調べる。 復習：メダカの飼育をまとめる。	
③	草花のつくりを調べよう										予習：植物の体のつくりを調べる。 復習：身近な植物の観察・レポート提出。	
④	野外観察のすすめ										野外学習（帽子、あれば虫メガネ） 復習：野外観察のレポート提出。	
⑤	野菜を見よう										予習：野菜について調べる。 復習：野菜の栽培をまとめる。	
⑥	虫（主に昆虫）について調べよう										予習：昆虫の特徴を調べる。 復習：学習した虫を観察しまとめる。	
⑦	葉をじっくり見よう										実習室（古歯ブラシ・葉 持参） 復習：実験レポートを完成する。	
⑧	身近な植物を調べよう										予習：各県の木と花を調べる。 復習：調べた雑草をまとめる。	
⑨	身近な鳥の特徴を知ろう										予習：鳥の特徴を調べる。 復習：身近な鳥を観察しまとめる。	
⑩	カタツムリ博士になろう										予習：カタツムリの特徴を調べる。 復習：カタツムリの飼育をまとめる。	
⑪	ダンゴムシ博士になろう										予習：ダンゴムシとワラジムシを区別する。 復習：ダンゴムシの飼育をまとめる。	
⑫	生き物の色の不思議さを体感しよう										予習：アントシアンを含む植物を調べる。 実習室、復習：実験レポートを完成する。	
⑬	愛玩動物や世界の動物についてまとめよう										予習：好きな動物の生態を調べる。 復習：生き物カード（レポート）をつくる。	
⑭	ヒトの体を理解しよう（体のつくり）										予習：五臓六腑について調べる。 復習：肝臓・腎臓についてまとめる。	
⑮	ヒトの体を理解しよう（感覚）										予習：五感についてまとめる。 復習：錯覚についてまとめる。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	20%	評価に加えず	60%	20%						
使用教科書	特に指定しない。 （プリントを配布します。）					参考図書		適宜紹介します。				
学生へのメッセージ	子どもの目線で生き物を見てみよう。					履修上の注意		色鉛筆・ハサミを用意。天候や実習室の都合等で、授業内容の順番を変更することがあります。				
実務経験と科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
7	情報機器の操作	演習	2	■				○	○	○	生山 浩	該当しない	
科目区分		教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目 / 教養科目（外国語・体育以外）									担当形態	単独	
ディブ・ホリスとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	現場での情報機器の活用を想定し、学級事務のお手紙やメディアを活用した補助教材を		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○	MicrosoftOffice（Word、Excel、PowerPoint）で作成していきます。		
カキム・ホリスとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										教材制作、メディア作成、文書作成、図表作成、情報作成、情報集計、プレゼンテーション、パソコン		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
・情報機器を活用するために必要な専門用語を理解するとともにコンピュータに慣れ親しむことを目標にする。 ・制作物の目標や目的に合わせて、使用するソフトウェアの選択や目標とする制作物を独力で制作できる技能の修得を目指す。				・情報機器を単体で使用するだけでなく、パソコン、インターネット、スマホ、プリンターなどを組み合わせて使用できるよう、情報機器に慣れ親しむことを第1の目標とする。 ・お手紙、出席簿や成長記録、イラストやアニメーションなどを作成できるようMicrosoftOffice（Word、Excel、PowerPoint）の使い方を修得する。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	・ガイダンス：授業の受け方や評価方法について解説する。・基本操作：パソコンの起動、Windowsの基本操作、パソコン、スマホ、インターネット、USBメモリーについて解説する。										USBメモリーを持参		
②	・PowerPointの基本操作：スライドレイアウト、スライドの作成、アウトライン表示、スライドショー、発表者ツール、スライドの切り替えアニメーションなど										前週に出てきた専門用語の確認		
③	・PowerPointによるイラストの作成（図形の重ね合わせでイラストを作成）：図形の配置、図形の変形・枠線・塗りつぶしの設定、図形の重なり、著作権について解説										前週に出てきた専門用語の確認		
④	・PowerPointによる教材制作①：オブジェクトのクリックとアニメーション、アニメーションのタイミング設定、アニメーションの効果の設定										前週に出てきた専門用語の確認		
⑤	・PowerPointによる教材制作②：音声の録音とトリミング、スライドの表示と音声の再生タイミングの設定、オブジェクトのクリックと音声の再生										前週に出てきた専門用語の確認		
⑥	・PowerPointによる教材制作③：教材「○○ど〜れ？」の制作 ・Teamsを使った提出										前週に出てきた専門用語の確認		
⑦	・Excelの基本操作：表の作成（データ入力、罫線、列幅調整、行高さ調整）、オートフィルによる連番、計算式の入力、計算式のコピーで参照位置の更新など										前週に出てきた専門用語の確認		
⑧	・Excelによるクラスデータの作成：名簿の作成、表の作成（データ入力、列幅調整、罫線）、表の計算（計算式の入力、関数の利用）										前週に出てきた専門用語の確認		
⑨	・Excelによる住所録の作成：郵便番号を使った住所入力、新しいシートの作成+データのコピーと貼り付け、シートの複製										前週に出てきた専門用語の確認		
⑩	・Excelによる出席簿の作成：関数を使って曜日を自動表示、データの入力規則（テーブル）の設定、関数による欠席日数や出席率の計算										前週に出てきた専門用語の確認		
⑪	・Excelによる身体測定記録の作成：単位（cm、kg）の設定、関数によるクラスの平均値計算、クラス単位の棒グラフの作成、個人の推移折れ線グラフの作成、Teamsを使った提出										前週に出てきた専門用語の確認		
⑫	・Wordを使ったフォーマルなお手紙（入園式の案内書）の作り方：日付の入力と配置、宛先の入力と配置、送り主の入力と配置、タイトルの入力と配置、あいさつ文の挿入と編集										前週に出てきた専門用語の確認		
⑬	・Wordを使ったフォーマルなお手紙（入園式の案内書）の作り方：記書きの入力、キャンバスに図形を配置形成して簡易地図を作成										前週に出てきた専門用語の確認		
⑭	・Wordを使ったフォーマルなお手紙（入園式の案内書）の作り方：表の挿入、罫線の設定、切り取り線の作成、印刷、PDFの作成、Teamsを使った提出										前週に出てきた専門用語の確認		
⑮	・テスト：情報機器を扱う用語の理解度を確認する筆記テスト												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考		なし				
	評価に加えず	50%	評価に加えず	評価に加えず	30%	20%							
使用教科書	教科書は無し					参考図書		なし					
学生へのメッセージ	園児に興味・関心を持ってもらうために、パソコンに慣れ親しみ、専門用語、使い方を理解していきましょう！					履修上の注意		授業にはUSBメモリーを持参すること					
実務経験と科目の関連													

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	初2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
8	体育講義	講義	1	■				○	○	○	会田秀樹	該当しない
科目区分		教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目 / 教養科目（体育）									担当形態	単独
ディプロマ ホリ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	教育者（保育者）として必要な体育（運動生理学・運動心理学・運動栄養学・体育史）の教養を深め、自己の健康管理（維持増進）ができるようにする。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
キャリア ホリ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
運動効果を正しく得るために、運動によって起こる心身の特性を理解する。				○運動時及び運動後の心身の生理的、心理的变化について分かる。 ○応急処置の方法を分かる。 ○ウォーミングアップとクーリングダウンの重要性について分かる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	運動とストレス										自身のストレス度を自覚し、ストレス解消に運動を取り入れられるようにする。	
②	老化に伴う身体諸機能の変化と運動										健康寿命を理解し日々の生活に運動を取り入れるようにする。	
③	活性酸素と運動										健康寿命を理解し日々の生活に運動を取り入れるようにする。	
④	運動の種類と筋肉の関係										目的あった運動実践ができるようにする。	
⑤	ATPの再合成										スポーツ栄養を理解し、バランスの良い食事を実践に取り組む。	
⑥	運動に関する外相予防 水分摂取の重要性										RICEの有効性を理解し実践に生かせるよう復習する。	
⑦	ストレッチ										傷害予防を理解し日々の生活で実践する。	
⑧	運動の効果										運動の効果を理解し、自分に合った運動を日々の生活に取り入れ実践する。	
⑨	以下余白											
⑩												
⑪												
⑫												
⑬												
⑭												
⑮												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考	小テストは8回目授業後半に行う。				
	評価に加えず	80%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	20%						
使用教科書	指定しない					参考図書		特になし				
学生への メッセージ	運動が心身に及ぼす効果を理解し、毎日の生活に取り入れよう。					履修上の注意		講義1単位に履修ですので、6回以上の出席が必要です。				
実務経験と 科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
10	子どもの健康とあそび	演習	1	■				○	○	○	坂田康之	該当する
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（健康）										担当形態	単独
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》 健康で安全な生活ができる知識を学ぶ。幼児の運動あそび全般として、発達に応じた遊び方の知識、補助の仕方、安全配慮、並びに運動会発表の方法を理解する。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										《キーワード》 健康、あそび、心、戸外、安全、模擬指導、怪我、食育、運動、縄跳び、ハルーン、組体操、一斉指導	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》 ・あそびを通して、子どもの心を優先した保育ができる。 ・あそびを通して、子ども達が戸外で体を動かせるように援助できる。 ・危険なあそび、危険な場所、災害時の行動等を理解する。 ・発達に応じてあそびの内容を理解する。 ・運動会で役に立つ競技の種目の指導法を身につける。						《到達目標（行動目標）》 ・領域「健康」に関する心身の発達を理解する。 ・子ども達の発達に応じた特徴と意義を理解する。 ・幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解する。 ・安全教育、怪我や病気の予防を理解する。 ・各年齢にあった運動あそびの考案ができる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	領域「健康」のねらいと内容について 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わうあそび										領域「健康」に関する部分を読む	
②	仲間づくり・挑戦する心を育てるあそび 健康な心と体を育むとは 園生活での安全配慮に関する事例										園生活での安全配慮を考えよう	
③	危険な場所、危険なあそび方、災害時などの行動の仕方、安全に配慮した保育者の援助 幼児期に起こりやすい怪我の特徴とその対応										子どもを戸外であそばせる工夫	
④	自然の中で伸び伸びと体を動かす。身近な環境や遊具などを活用したあそび 幼児期に多様な動きを獲得する意義について											
⑤	乳幼児期の生活習慣の形成について（着脱衣・食事・睡眠・清潔・排泄）											
⑥	乳幼児の心身の発達のな特徴 ①身体の発達について 生活上の留意点											
⑦	乳幼児の心身の発達のな特徴 ②心の発達について											
⑧	発達に応じたあそびについて 幼児期運動指針の指導ポイント										グループワーク	
⑨	意欲を高めるあそび（道徳性・規範意識の芽生えを育てる）											
⑩	仲間と協力して取り組むあそび（協同性と自立心の芽生えを育てる）											
⑪	忍耐力を養うあそび											
⑫	子どもの安全管理・怪我・食育について											
⑬	仲間づくり、挑戦する心を育てるあそびの模擬実践										模擬指導に向けての準備	
⑭	意欲を高めるあそびの模擬指導										模擬指導に向けての準備	
⑮	仲間と協力して取り組むあそびの模擬指導										模擬指導についての課題を整理する	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	20%	50%	20%	10%						
使用教科書	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説 プリントを適宜配付						参考図書		幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
学生へのメッセージ	楽しく真剣に取り組んで下さい！						履修上の注意					
実務経験と科目の関連	幼稚園副園長として、幼稚園生活全体における保健指導、安全指導に関わるとともに、幼稚園での正課活動や運動会、体育指導を長くおこなっている教員による授業であり、領域『健康』における、子どもの発達や健康、安全について、運動あそびを通して理解する。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
11	子どもと人間関係	演習	1		■			○	○	○	相川怜美	該当する	
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（人間関係）										担当形態	単独	
ディ プロ マ ーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》 現代の子どもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解するとともに、領域「人間関係」の指導の基礎として、人間関係の発達、他者との関係、協同性の育ち、道徳性及規範意識など、その後の人生を支える力になることを理解する。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。												
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
カリ キュ ラム ーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》 人間関係 信頼関係 発達 協同性 道徳性及規範意識	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。												
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》 領域「人間関係」のねらいと内容を理解する 人と関わる力の育ちについて理解する 人間関係の発達について理解する 子どもの人間関係をとりまく現代的課題を理解する						《到達目標（行動目標）》 ・ 幼児を取り巻く人間関係における現代的課題や社会背景を理解したうえで、幼児期の人間関係の発達について理解する ・ 領域「人間関係」の指導・援助の基盤となる、乳幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける ・ 映像資料や事例などによる具体的な保育場面や乳幼児期の姿を通して、人間関係の発達や保育者の役割を理解し、説明できる ・ 愛着形成の重要性を理解し、説明することができる							
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	領域「人間関係」のねらいと内容について										シラバスを精読し、分からない用語について調べておく。		
②	子どもと人間関係における現代的課題とは										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
③	乳児期から育つ人と関わる力の発達について										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
④	乳幼児期の遊びや生活の中で見られる人との関わる力の発達（保育者との関係や役割）										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
⑤	乳幼児期の遊びや生活の中で見られる人との関わる力の発達（友達との関係性）										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
⑥	乳幼児期の遊びや生活の中で見られる人との関わる力の発達（集団での関係）										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
⑦	乳幼児期の「自立心」の育ちと発達										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
⑧	幼児期の「協同性」の育ちと発達										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
⑨	幼児期の「協働性」「道徳性・規範意識」の芽生えと発達										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
⑩	幼児期の人間関係への広がりについて（家庭・園生活・地域）										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
⑪	地域社会との連携小学校との連携について（学童期以降の育ちのつながり）										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
⑫	人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支えることの理解										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
⑬	乳幼児期の人間関係の発達における保育者の役割										配布資料を精読し、自身の考えをワークシートにまとめる。		
⑭	テーマ（課題）に沿った指導計画主の作成										発表に向けた準備		
⑮	各グループの発表とディスカッション												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加えず	10%	45%	10%	20%	15%							
使用教科書	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説 その他レジュメ						参考図書		授業内で紹介する				
学生への メッセージ	領域は1領域のみで成立するものではありません。他の領域で学んだことを意識しながら「人間関係」について学びを深めていきましょう。事例や保育現場の資料を丁寧に読み解き、関わりの中で幼児や保育者の心情や援助について、主体的に目的対話的に学んでいきましょう。						履修上の注意						
実務経験と 科目の関連	インターナショナルスクール幼児部、小学校での勤務経験を活かし、保育現場における事例や現場での事例などを題材とした講義・演習を行いながら、人と関わる力の育ちや発達、保育者の役割について教授する。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士				
				前期	後期	前期	後期							
12	子どもと環境	演習	1	■					○	○	○	石河信雅	該当する	
科目区分		領域及び保育内容の指導法に関する科目		必要事項		領域に関する専門的事項（環境）						担当形態	単独	
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》				
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	保育内容「環境」の指導で必要となる感性を養い、「環境」に関する知識技能を身に付ける				
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○					
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									《キーワード》				
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。													
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	・5領域 ・10の姿 ・人的環境・物的環境				
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								○	・自然環境・社会的環境 ・環境にかかわる子どもの姿				
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》								
・子どもを取り巻く環境（物的・人的・安全等）とその重要性について理解する ・環境に関する子どもの思考・認知的発達・科学的発達の特徴を理解する ・子どもを取り巻く望ましい環境が具体的に想定できる						・子どもの身近な環境の種類や特徴・性質及びその重要性を列挙できる ・子どもの環境に関する専門的概念が説明できる ・保育実践を想定し、子どもの望ましい環境について具体的な計画と提案できる								
授業回数	授業計画											授業外学習及び準備等		
①	オリエンテーション 「環境」とは何か													
②	子どもを取り巻く環境①〔物的・人的・状況〕											第2章全般 第5章p.115		
③	子どもを取り巻く環境②〔安全安心・ESD〕													
④	子どもの心が動く環境①〔能動性・有能感・好奇心〕											第3章p.67-74		
⑤	子どもの心が動く環境②〔アフォードンス〕													
⑥	子どもの認知①〔発達段階〕											第2章p.44-52		
⑦	子どもの認知②〔模倣・表象・三項関係〕													
⑧	自然的環境①〔飼育・栽培〕											第4章p.76-83		
⑨	自然的環境②〔地域・天候〕											第4章p.76-83		
⑩	物理的環境①〔道具・素材〕											第4章p.84-94		
⑪	物理的環境②〔文字・数量・図形〕											第3章p.53-66		
⑫	社会的環境①〔情報・標識〕													
⑬	ワーク①『幼稚園を設計しよう』													
⑭	ワーク②教材研究発表会													
⑮	まとめ 環境構成と保育者の役割													
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考							
	評価に加えず	評価に加えず	30%	30%	30%	10%								
使用教科書	高山静子「学びを支える保育環境づくり」小学館、2017						参考図書		・高山静子「改訂環境構成の理論と実践」郁洋舎 ・幼稚園教育要領ー平成29年告示 フレーベル館 ・保育所保育指針ー平成29年告示 フレーベル館 ・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領ー平成29年告示 フレーベル館					
学生へのメッセージ	子どもが経験から学びを得られる望ましい環境と一緒に学びましょう。						履修上の注意		子どもの目標になって、自らの日常生活にある身近な環境に目を向けましょう。提出期限を遵守し、模擬保育では積極的に取り組みましょう					
実務経験と科目の関連	幼稚園教諭の経験にもとづき、保育現場での環境構成の事例や活用、その重要性について講義・演習を行いながら、子どもを取り巻く望ましい環境について教授する。													

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
13	子どもの文化と言葉	演習	1	■				○	○	○	山崎英二	該当しない
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（言葉）										担当形態	単独
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	①言葉の意義と機能を理解するための基礎的知識を解説する。②幼児が豊かな言葉を身につけ、想像する楽しさを広げるための知識を解説する。③幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする児童文化財の知識と実践方法を解説する。
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	①言葉の意義と機能 ②言葉に対する感覚 ③言葉の楽しさ ④想像する楽しさ ⑤児童文化財
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○	
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
①人にとっての言葉の意義と機能を理解する。②乳幼児の言葉の発達過程において、乳幼児が自らの言葉の機能に気付く道筋を理解する。③幼児が言葉に対する感覚を豊かにし、言葉の楽しさを実感できるような活動を理解し実践に生かす。④乳幼児の豊かな言葉の獲得に役立つ児童文化財の意義を理解し活用法を理解して実践に生かす。				①言葉の意義と機能を理解し説明できる。②乳幼児の言葉の発達過程を理解し、乳幼児の言葉の機能の気付きを想定し説明できる。③児童文化財を教材とする保育実践を想定し、評価の高い名作絵本を分類し有効性を説明できる。④言葉を育て、楽しさを広げる児童文化財の意義を理解し、活用法と指導案を作成し実践できる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	＜領域「言葉」のねらい、内容の取扱いの解説＞ 領域「言葉」を踏まえ、幼児の言葉に対する感覚を豊かにする実践についての基礎的な知識について説明する。										領域「言葉」のねらいと内容の取扱いについてまとめる。	
②	＜言葉の意義と機能＞ 人にとって「言葉とは何か」を考える。										「言葉とは何か」について、自分の言葉でまとめる。	
③	＜言葉の特質と機能＞ 言葉の持つ「伝達」「認知」「行動調整」「自己表現」「共感」等の言葉のもつ特質と機能のついて考える。										言葉の特質と機能を分類する。	
④	＜言葉に対する感覚＞ 「幼児の言葉に対する感覚」とはどのようなものか、グループで検討し合い、発表する。										「幼児の言葉に対する感覚」について想定し、まとめる。	
⑤	＜言葉に対する感覚＞ 言葉の「楽しさ」と「美しさ」への気づきを、幼児にいかにか与えることができるかを検討し、グループでまとめ発表する。										言葉の楽しさと美しさについて、自分の言葉でまとめる。	
⑥	＜児童文化財の特質と意義＞ 言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の特質と意義を考える。										児童文化財の特質と意義についてまとめる。	
⑦	＜児童文化財の実際＞ 児童文化財の種類や歴史的経緯、保育への取り入れ方などについて説明する。										児童文化財の種類と歴史的経緯について理解し整理する。	
⑧	＜児童文化財を用いた保育の実践＞ 子どもと共に物語や絵本と触れ合う実践を想定し、これまで評価を受けて来た名作絵本を分類し、その有効性について考える。										学生自身の児童文化財との関わりに言及し、実践に活かす。	
⑨	＜乳幼児と音の理解に着目した児童文化財＞動きを誘発する言葉に特化した絵本を題材に、動きを誘発する言葉の表現方法をAV機器を用いて録画し、検討する。										乳幼児の音に対する感覚について理解し、まとめる。	
⑩	＜言葉の美しさに着目した児童文化財＞ 幼児が「言葉の美しさ」に気付く絵本を題材にし、理解を深める。										幼児が言葉の美しさに気付く機会について考える。	
⑪	＜擬人法を用いた児童文化財＞ 幼児の共感を得やすい技法の1つである擬人法について理解し、擬人法を活用した絵本を題材として検討する。										擬人法を活用した児童文化財の意義を理解しまとめる。	
⑫	＜登場人物が子どもである児童文化財＞ 登場人物が子どもである絵本を題材にし、絵本に描かれた「子ども」の姿を読み取り、「子ども」の理解を深める。										登場人物が子どもである児童文化財の意義を理解する。	
⑬	＜言葉の文化的背景と児童文化財＞ 日本の民話を絵本化した『たつのこたろう』を題材にし、言葉の背景にある人の日常の営みについて理解する。										言葉の文化的背景が示された児童文化財について理解する。	
⑭	＜幼児が仲間との一体感を感じる児童文化財＞ 共に鑑賞する仲間との一体感を生み、その後の言語表現をより豊かにする絵本を題材にし、理解を深める。										一体感と共感をもたらす児童文化財を理解する。	
⑮	＜本授業のふりかえり＞ 領域「言葉」のねらいと内容を再確認し、幼児が言葉の感覚を豊かにし、言葉の楽しさと美しさを実感できる実践について理解を深める。										言葉の意義、言葉に対する感覚、児童文化財について、まとめる。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	60%	評価に加えず	評価に加えず	30%	評価に加えず	10%						
使用教科書	指定しません					参考図書		『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指導解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』				
学生へのメッセージ	子どもの健やかな発達に「言葉」がいかに重要であるか、考えていきましょう。					履修上の注意		保育者としての言葉を再確認し、具体的な指導場面を想定することを心掛けてください。				
実務経験と科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
14	子どもの言語文化表現	演習	1		■			○	○	○	横関由紀	該当する	
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（言葉）										担当形態	単独	
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》 子どもが、豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な、領域「言葉」の理解につながる基礎的な知識を学ぶ。子どもが言葉を習得していく過程を学ぶだけでなく、保育を目指すものの自身の言葉に対する感覚を豊かにする必要がある。言葉を育て、想像を豊かにする児童文化財を通して、実践しながら理解を深める。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。												
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											《キーワード》 ①言葉の意義と機能 ②言葉に対する感覚 ③言葉の楽しさと美しさ ④お話づくり ⑤紙芝居 ⑥劇遊び	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。												
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○		
《一般目標》 ①言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する ②幼児にととの児童文化財の意義を理解する ③児童文化財を通して子どもと楽しむ読み語りを身に付ける ④想像力を豊かに広げ作品を作成し発表することで保育現場での実践力を身に付ける						《到達目標（行動目標）》 ①言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践を幼児の発達の姿と合わせて説明できる ②児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について基礎的な知識を身につける ③児童文化財を通してどのように保育に取り入れていくか理解し実践できる							
授業回数											授業外学習及び準備等		
①	子どもにとって「ことば」とは 子どもの言葉の発達過程から考えるオノマトペ（擬態語、擬音語）を使った気持ちの伝え方（言語表現）を学ぶ										教科書（42～54）		
②	どのように言葉を獲得していくか 言葉の美しさ、楽しさを感じよう（演習） わらべうた・伝承遊びを用いて										教科書（54～65）		
③	言葉に対する感覚を豊かにする実際とは（DVD鑑賞）「言葉あそび」の色々と保育への取り入れ方 3歳児の言葉遊びを事例から学ぶ										レポート		
④	言葉に対する感覚を豊かにする実践 子どもと楽しむ「言葉遊び」を考える 4歳児の言葉遊びを事例から学ぶ										教科書（185～192） レポート		
⑤	言葉を楽しむ お話の世界を楽しむために想像する楽しさを広げる「児童文化財」とは 5歳児の言葉遊びを事例から学ぶ										レポート		
⑥	絵本読み聞かせ 絵本の種類 読み聞かせを通して絵本についての理解を深める										教科書（119～120）		
⑦	絵本昔話 絵カードを用いたお話づくり 童話を題材に取り上げた歌（演習）										教科書（130～135）		
⑧	お話づくり 物語の続きを考えて話を作る 保育での取り入れ方を学び演習する												
⑨	お話づくり発表 表現法の工夫を考える 効果音を用いた音楽絵本・物語（鑑賞）										レポート		
⑩	紙芝居 紙芝居の種類と選び方、扱い方を学ぶ 読む・演じるを意識した演習										教科書（135～139）		
⑪	表現の世界を楽しむための劇のシナリオ作り 年齢に応じた言葉の表現を考える										教科書（154～157）		
⑫	劇遊びの小道具づくり 及び 構成調整												
⑬	劇遊び演習 舞台上の場面転換を考える												
⑭	劇遊び演習 リハーサル 携帯等を用いて録画し検討する												
⑮	劇発表 授業の振り返りとまとめ												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考						
	評価に加えず	評価に加えず	30%	30%	25%	15%							
使用教科書	改訂新版 保育内容「言葉」言葉とふれあい、言葉で育つ（東洋館出版社）						参考図書		授業内で必要に応じて紹介します。				
学生へのメッセージ	言葉に対する感覚を豊かにし、言葉で表現する楽しさを幼児の目線に立て一緒に考えましょう。日常の言葉遣いから、保育者らしい美しい言葉を使いましょう。						履修上の注意		移動教室の際、上履きが必要になる場合があります。				
実務経験と科目の関連	幼稚園教諭の経験をもとに、言葉遊びから児童文化財を用いた保育現場での活用法まで実践力が身につくよう教授する												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士				
				前期	後期	前期	後期							
15	子どもの音楽基礎演習	演習	1	■				○	○	○	永島晴美 渋谷り子	該当しない		
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（表現）										担当形態	オムニバス		
ディ・04 ホ・リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》 領域「表現」の基盤となる理論と実践について、身体、音楽の様々な表現について基礎的な知識と技能を学ぶ。子どもの表現を支えるため、学生自らも自身の表現を通して気づきや工夫をしながら、理解を深め様々な表現力を身につける。		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。													
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。													
か・04 ホ・リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》 歌唱・模倣あそび・リトミック リズムあそび		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。													
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。													
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》 表現に必要な、音楽の基礎知識を身につける 様々な表現活動の方法を知る。 保育者として必要な表現力を身につける				《到達目標（行動目標）》 子どもの表現を支えるため、学生自身の表現を豊かに活動する。 様々な表現活動について理解し、工夫することができる。 子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感するために、子どもの表現の姿を理解する。										
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等			
①	領域「表現」のねらいと内容・表現のための基礎知識（音符とリズム）										幼稚園教育要領解説 領域《表現》を読む			
②	表現のための基礎知識													
③	様々な表現活動（子どもの表現の実態）										幼稚園教育要領解説p240			
④	様々な表現活動（模倣あそび・言葉あそび・リズムあそび）										携帯等録画機能のある機器を持参			
⑤	3歳児の表現と発達（保育者の関わり）										幼稚園教育要領解説p238			
⑥	4歳児の表現と発達（保育者の関わり）													
⑦	5歳児の表現と発達（保育者の関わり）													
⑧	あそび歌の意義とわらべうた										幼稚園教育要領解説p240			
⑨	子どもと楽しむ歌唱表現と教材研究（生活のうた）													
⑩	子どもと楽しむ歌唱表現と教材研究（季節や行事のうた）													
⑪	子どもと歌唱表現するための伴奏とその導入・環境構成の工夫													
⑫	打楽器の音色を知る（打楽器の種類・演奏法）										幼稚園教育要領解説p240			
⑬	楽器による表現（子どもの即興演奏を引き出す）													
⑭	楽器による表現（リズム楽器アンサンブル）										携帯等録画機能のある機器を持参			
⑮	楽器による表現活動を工夫する													
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		授業担当 永島①～⑦ 渋谷⑧～⑭ ⑮は2人 授業テーマに関する気づきをまとめたもの（レポート・作品課題）など、学生自身の学びを可視化したものと、学生自身の表現への取り組みを中心に評価する。					
	評価に加えず	評価に加えず	30%	20%	35%	15%								
使用教科書	幼稚園教育要領解説 心を育む子どもの歌 適宜レジュメを配布					Colla Parte 入学前ピアノ講習会テキスト			参考図書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指解説				
学生への メッセージ	音楽の基礎知識を理解し、子どもの表現を受け止める感性を磨きましょう。					履修上の注意								
実務経験と 科目の関連														

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士						
				前期	後期	前期	後期									
16	子どもの発達と音楽表現	演習	1		■				○	○	○	渋谷るり子	該当しない			
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（表現）										担当形態	単独				
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》				
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											この授業は、領域《表現》における専門的事項を学ぶ科目です。前期に引き続き、領域《表現》のねらいと内容の理解を深めながら、さまざまな音楽に関する専門知識と豊かな感性と表現に関する活動を、自ら体験することを通して学びます。				
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。															
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》 領域表現・環境と音・器楽活動 身体表現				
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○					
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。															
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。															
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。															
《一般目標》 ○領域《表現》のねらいと内容を理解する ○音楽表現、身体表現の基礎的な知識と技能を修得する ○子どもの感性を養うための音楽活動の重要性や内容を理解する						《到達目標（行動目標）》 1）年齢ごとの音楽表現の発達を知る 2）年齢ごとの発達に即した音楽あそびや活動を知る 3）周囲の表現を受け止め、共感することができる 4）表現する楽しさを実感し、工夫することができる 5）協働して表現することができる 6）基礎知識を活かして子どもの表現活動を展開することができる										
授業回数	授業計画											授業外学習及び準備等				
①	領域「表現」のねらいと内容の理解 ノンバーバルコミュニケーション 要領・指針の位置づけと相互の共通点															
②	音への興味を育む活動 ～身近な物で音の出るもので遊ぶ～															
③	イメージを表現する ～音の色、形を考えよう～															
④	イメージを表現する ～音楽を聴いて表現する～ 【音楽鑑賞】															
⑤	環境と音 ～自然の中の音探し～ 【絵本】															
⑥	絵本と音楽表現 ～イメージを音に表現する～ 【絵本紹介】															
⑦	イメージにあった音を探そう（実践と発表）															
⑧	身体をつかった音楽表現 【絵本紹介】															
⑨	身体をつかった音楽表現 ～音楽を聴いて感じて～															
⑩	身体をつかった音楽表現 ～音楽を分析する、動きを創作する～															
⑪	身体をつかった音楽表現 ～動きを創作する～															
⑫	動きの創作の発表と振り返り															
⑬	器楽活動について ～ミュージックベルとトーンチャイム～															
⑭	器楽活動について ～鍵盤打楽器をもちいた 器楽合奏～															
⑮	器楽活動について ～指導のポイントと保育者の配慮 子どもの遊びを豊かにする表現～															
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		授業テーマに関する気づきをまとめたもの（レポート・作品課題）など、学生自身の学びを可視化したものと、学生自身の表現への取り組みを中心に評価する。							
	評価に加えず	評価に加えず	60%	25%	評価に加えず	15%										
使用教科書	保育者養成のための音楽表現（大学図書出版）						参考図書						幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説 わくわく音遊びでかんたん発表会（すずき出版）細田淳子			
学生へのメッセージ	自らの感性と五感を働かせて、取り組みましょう。						履修上の注意									
実務経験と科目の関連																

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
17	子どもの発達と造形表現Ⅰ	演習	1	■				○	○	○	森高光広	該当する	
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 領域に関する専門的事項（表現）										担当形態	単独	
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										乳幼児は自ら生きるための力を様々な経験や行動を通して獲得していく。5領域の中で「造形」の学びは大切である。子どもの感性を育み、主体性を大切に、自らの感性を駆使して楽しく制作することの大切さを再確認することを目的とする。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》 ・ 既成概念からの脱却 ・ 感じ、考え、試み、工夫する ・ 発達の段階による活動の違い ・ 主体的な活動の援助	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》 小学校の「図画工作」、中学校の「美術」などの過去の経験を踏まえ、乳幼児の発達や行動の中で「人間としての営み」として初めての行為である造形活動を支え、より豊かなものとするための援助ができるように、具体的な制作からその基礎・基本を自ら楽しく作る経験を通して学ぶ。現場に出ても自ら手立てを探り、探求するための基礎を学ぶ。				《到達目標（行動目標）》 大人の考えや方法を教えるのではなく、子どもが主体的に感じ、考えて自ら行動すること見守る大人が身近にいることは大切である。子どもを主体的な人間に育てていくために、子どもの造形活動でもその主体性を踏まえて援助ができるように、制作や活動の具体的な手立ての基礎を学び、教育現場でも応用できるための力を身につける。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	保育内容表現のねらいと内容 体験から学びを振り返る 〈ものとかかわることからの学びを再認識する。〉 ☆作品画像各自保存、随時確認します										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
②	体験的学び 紙素材－1 〈ちぎる・破く活動〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
③	体験的学び 紙素材－2 〈切る活動〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
④	体験的学び 紙素材－3 〈工作 平面の視点から〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑤	体験的学び 紙素材－4 〈工作 半立体面の視点から〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑥	体験的学び 描く－1 〈絵の具〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑦	体験的学び 描く－2 〈色鉛筆・クレヨン・色ペン〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑧	体験的学び イメージを広げる－1 〈季節のイメージから〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑨	体験的学び イメージを広げる－2 〈海のイメージから〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑩	体験的学び つくる－1 〈つくってあそぶ①〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑪	子ども理解をふまえた応用－1 〈子どもの意欲を引き出す設定①〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑫	体験的学び つくる－2 〈つくってあそぶ②〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑬	子ども理解をふまえた応用－2 〈子どもの意欲を引き出す設定②〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑭	体験的学び つくる－3 〈つくってあそぶ③〉										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
⑮	子ども理解をふまえた応用－3 〈子どもの意欲を引き出す設定③〉 まとめ										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。 ◆授業のまとめ		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考	欠席の場合、当日の課題レポートと欠席回分の制作の提出で加点します。締め切りについては要相談					
	評価に加えず	評価に加えず	35%	15%	35%	15%							
使用教科書	『造形表現Ⅰ』竹井史編著、森高光広・他(著)、一藝社、2200円 ISBN-13: 978-4-86359-155-4						参考図書	幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省） 幼児発達類型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府/文部科学省/厚生労働省）					
学生へのメッセージ	楽しく制作することを通して、子どもの目線で考えて具体的な造形活動の援助ができるように学びます。						履修上の注意	課題は時間内提出を基本とします。制作した作品などの画像は各自スマホで保存します。ICT活用を随時します。					
実務経験と科目の関連	小学校低学年児童、幼稚園や保育園での園児に対する造形活動の指導経験等を活かし、子どもの育ちと行動の理解及び発達に応じた造形活動とその援助について伝える												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士				
				前期	後期	前期	後期							
19	保育内容健康	演習	1		■				○	○	○	会田秀樹	該当する	
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び活用を含む）											担当形態	単独	
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。											《授業の概要》 幼児が自ら健康で、安全な生活を作り出す力を養うことができるように、幼児期に育みたい資質能力を理解し、遊びを通して発達に即した指導ができる方法を身につける。		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。													
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。													
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。													
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。													
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》 ○領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 ○領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育方法を身につける。						《到達目標（行動目標）》 ○ねらい内容について全体を理解する。幼児が経験して身に付ける内容について指導上の留意点を理解している。小学校との教科等とのつながりを理解している。 ○情報機器及び教材の活用を理解し活用できる。模擬保育や振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける。具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。								
授業回数	授業計画											授業外学習及び準備等		
①	健康の概念の把握													
②	領域「健康」のねらい、内容、内容の取扱いについて 幼児期終わりまでに育ってほしい姿											課題＊指定日に提出ができない場合評価は50%換算とする。		
③	幼児のからだの特徴について（身体的特徴・機能的特徴）											小テストもしくは課題＊小テストを欠席した者は課題とし評価は50%換算とする。		
④	幼児の心の特徴について（情緒・パーソナリティ・社会性・粘り強さ）											小テストもしくは課題＊小テストを欠席した者は課題とし評価は50%換算とする。		
⑤	基本的生活習慣（幼児の生活スタイル）「早寝早起き朝ご飯」 情報機器及び教材の活用方法											小テストもしくは課題＊小テストを欠席した者は課題とし評価は50%換算とする。		
⑥	戸外遊び・散歩の意義 戸外へと導く手段 お散歩マップの活用											お散歩マップの作成提出＊指定日に提出ができない場合評価は50%換算とする。		
⑦	安全指導 遊びの中で育む安全・計画的な指導で育む安全 ヒヤリハットの活用方法													
⑧	実践方法・活動から育む心身の健康 色々な遊び提供													
⑨	模擬保育1 伝承遊び かるたを題材として健康指導 小学校教育へのつなぎ													
⑩	ディスカッション・グループにて作製													
⑪	かるたの実際 健康指導につながる有効的な遊び方 振り返り 評価の仕方											作品提出＊指定日に提出ができない場合評価は50%換算とする。		
⑫	模擬保育2 すごろく遊び すごろくを題材として健康指導 小学校教育へのつなぎ													
⑬	作製													
⑭	すごろくの実際 健康指導につながる有効的な遊び方 振り返り 評価の仕方											作品提出＊指定日に提出ができない場合評価は50%換算とする。		
⑮	指導案作成・主体的な活動を育む遊び											課題提出＊指定日に提出ができない場合評価は50%換算とする。		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考							
	評価に加えず	30%	評価に加えず	評価に加えず	50%	20%								
使用教科書	事例で学ぶ保育内容 領域 健康 （萌文書林）						参考図書		幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					
学生へのメッセージ	先生は子どもたちの見本です。自身の健康管理をしっかり。						履修上の注意		教科書は授業期間内に読破すること。					
実務経験と科目の関連	幼稚園での正課及び課外の体育指導の経験から幼児期に育むべき資質能力の理解と、遊びを通した発達に即した指導方法が身につくよう伝える。													

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
21	保育内容環境	演習	1		■			○	○	○	石河信雅	該当する
科目区分		領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器の活用を含む）									担当形態	単独
ディパ ホリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	現代の幼児を取り巻く環境やその 在り方を追究し、領域「環境」の ねらいや内容について理解を深め る。具体的な指導場面を想定した 保育内容の計画・展開・評価につ いての方法を身に付ける	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
カキム ホリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分 野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》 ・5領域 ・10の姿 ・人的環境・物的環境 ・自然環境・社会的環境 ・環境にかかわる子どもの姿	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合さ せ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自 己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取 り組む力を育む。									○		
《一般目標》 ・保育内容「領域」のねらい及び内容、基本的構造を理解する ・子どもの取り巻く環境を理解し、経験して身に付ける環境と 指導上の留意点を理解する				《到達目標（行動目標）》 ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども 園教育・保育要領」に示された幼児教育の基本、保育内容 「環境」のねらい及び内容が説明できる ・子どもの発達や学びの過程を理解し、具体的な保育場面を想定 し、適切な保育の環境構成の知識と方法を身に付ける								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	幼児教育の基本と保育内容「環境」										<事前> 教科書第1部第1章通読 <事後> 環境の必要性をまとめる	
②	保育の環境構成の基本的構造の実践										<事前> 教科書第1部第2章通読 <事後> 環境構成の要素をまとめる	
③	保育内容「環境」のねらいと内容の展開の実践①（遊びの事例から）										<事前> 教科書第2部第1章通読 <事後> ねらいと内容をまとめる	
④	保育内容「環境」のねらいと内容の展開の実践②（生活の事例から）										<事前> 教科書第2部第2章通読 <事後> ねらいと内容をまとめる	
⑤	自然に親しみ、植物に触れる保育の実践<計画立案>グループワーク①（指導案作成）										<事前> 植物等について調べる <事後> 指導案作成	
⑥	自然に親しみ、植物に触れる保育の実践<教材研究>グループワーク②										<事前> 栽培について調べる <事後> グループで話し合う	
⑦	自然に親しみ、植物に触れる保育の実践<評価・省察>グループワーク③										<事前> 活動をまとめる <事後> 評価・省察を振り返る	
⑧	身近な素材や自然物を用いた保育の実践<計画立案>										<事前> 身近な自然を見つける <事後> 指導計画を作る	
⑨	身近な素材や自然物を用いた保育の実践<教材研究>（指導案作成）										<事前> 教材を研究する <事後> 指導案をまとめる	
⑩	身近な素材や自然物を用いた保育の実践<模擬保育>										模擬保育	
⑪	身近な素材や自然物を用いた保育の実践<評価・省察>										<事前> 模擬保育を振り返る <事後> 評価をまとめる	
⑫	環境にかかわる現代的課題と展望①<インクルーシブ保育、SDGS、伝統文化>										<事前> 教科書第2部第3章通読 <事後> 課題内容をまとめる	
⑬	環境にかかわる現代的課題と展望②<森のようちえん、ICTの活用>										<事前> 森のようちえんを調べる <事後> 課題内容をまとめる	
⑭	環境にかかわる現代的課題と展望③<プロジェクト保育、レッジョエミリア>										<事前> レッジョエミリアを調べる <事後> 課題内容をまとめる	
⑮	まとめ（保育と環境）										<事前> 領域「環境」通読	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	30%	30%	30%	10%						
使用教科書	・高山静子「改訂環境構成の理論と実践」郁洋舎 ・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領					参考図書		・高山静子「学びを支える保育環境づくり」小学館、2017				
学生への メッセージ	子どもが経験から学びを得られる望ましい環境と一緒に学 びましょう。					履修上の注意		子どもの目標になって、自らの日常生活にある身近な環境に目を向けましょう。 提出期限を遵守し、模擬保育では積極的に取り組みましょう				
実務経験と 科目の関連	幼稚園教諭の経験にもとづき、保育現場での環境構成の事例や活用、その重要性について講義・演習を行いながら、環境を通した保 育の指導法について教授する。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士				
				前期	後期	前期	後期							
22	保育内容言葉	演習	1		■			○	○	○	山崎英二	該当しない		
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び活用を含む）										担当形態	単独		
ディ・04 ホ・01との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○			
カキ・04 ホ・01との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。													
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○			
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》								
①幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉のねらい及び内容を理解する。②言葉の獲得の過程と、指導上の留意点を説明できる。③乳幼児の発達や学びの過程と、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を理解する。④言葉の獲得と幼児の体験との関連を考慮した教材の活用方法を理解し実践に生かす。						①領域「言葉」のねらいと内容を理解し、指導上の留意点、評価の考え方、小学校の教科ととの関連を説明できる。②幼児の心情、思考、動きを視野に入れた保育の構想を記述できる。③領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法と指導案の構成を発表できる。④模擬保育を通して保育を改善し、保育実践の動向から保育構想を向上する視点を説明できる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等			
①	<言葉の獲得について> 領域「言葉」の「ねらい」と「内容」を理解し、子どもと「言葉」との関わりを概観する。										保育内容言葉がいかに定められているかをまとめる。			
②	<言葉と愛着形成、音声模倣、共鳴動作> 非言語コミュニケーションの重要性を、録画機能を持つ情報機器を用いて理解する。（ICTの活用について）										愛着形成の重要性をまとめる。			
③	<初語と二語文について> 相手の話を聞き、自分の体験したことや考えを話す過程を理解する。										初語の特徴を列挙する。			
④	<命名機能と第一質問期> 相互に伝え合う喜びを味わうようになる過程を具体的な事例を通して理解し、保育者の援助の在り方を考える。										伝え合う喜びを味わうようになる過程を理解する。			
⑤	<原因と理由の因果関係> 言葉のすれ違いやもどかしさについて事例を通して理解し、幼児が互いの思いを伝え合うための援助の在り方を学ぶ。										言葉の獲得の過程における情緒をいかに扱うかを考える。			
⑥	<ごっこ遊びと言葉> 言葉のやりとりの中で仲間とイメージを共有し、遊びを楽しむための環境の構成や援助についてDVDによる事例を通して理解する。										言葉を獲得する過程での虚構の世界の意義を考える。			
⑦	<アニミズムについて> 幼児の特徴的な思考であるアニミズムを生かした絵本や物語の活用法を、録音・録画機能を持つ情報機器を用いて理解する。（ICTの活用について）										想像力の発達と言葉の獲得との関わりについて考える。			
⑧	<幼児と音の理解> オノマトペや動きを誘発する言葉、しりとりやなぞなぞ遊び等の具体例を通し、言葉に対する感覚を豊かにする活動について理解を深める。										言葉と音の関係を理解する。			
⑨	<「言葉」に着目した指導案の作成> 幼児が「言葉の楽しさや美しさ」に気付くような遊びについて、指導案を作成する。										幼児が言葉の楽しさや美しさに気付く機会について考える。			
⑩	<音の世界と文字の世界> 幼児が文字と関わる事例から、幼児が文字の有用性や必要性に気づき、文字で伝える楽しさを味わうための援助について考える。										幼児が文字といかに触れ合うべきかを考える。			
⑪	<小学校の教科とつながり> 学齢期までに、言葉による伝え合いをいかに育むべきか、それが小学校での学習にいかにつながるのか、グループで話し合う。										園での言語活動と小学校での学習との連携について考える。			
⑫	<保育実践の動向>言葉に遅れがある幼児の指導について、どのような配慮が必要とされているのか、DVDによる事例の説明を通して認識する。										保育者の援助の在り方を考える。			
⑬	<異文化の理解と言葉>異文化における生活様式が反映された童話をパワーポイントにより園児に示す方法を学び、園児が多文化理解を考える機会を考える。										多文化理解と言葉の発達との関わりについて考える。			
⑭	<言葉を育てる児童文化財について（１）>絵本や物語などの児童文化財を保育実践に取り入れる意義を明確にし、児童文化財と言葉の獲得との関わりを考える。										児童文化財と子どもの言葉の獲得との関わりを考える。			
⑮	<言葉を育てる児童文化財について（２）>児童文化財と保育実践の関係を考え、発達段階を考慮した保育を構想し模擬保育を実施し、振り返りを行なう。										絵本の活用の有効性を考察する。			
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考							
	60%	評価に加えず	30%	評価に加えず	評価に加えず	10%								
使用教科書	指定しません。										参考図書	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指導解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
学生へのメッセージ	子どもの健やかな発達に「言葉」がいかに重要であるか、考えていきましょう。										履修上の注意	保育者としての言葉を再確認し、具体的な指導場面を想定することを心掛けてください。		
実務経験と科目の関連														

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士				
				前期	後期	前期	後期							
25	教育原理	講義	2	■				○	○	○	元木 廉	該当する		
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					担当形態	単独		
ディ・ロ ボ・リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。							○		《授業の概要》				
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									①教育を受けていた者から教育を行う者へ。 ②教育者になるための第一歩は、「教育原理」の学習から始まる。				
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。							○		③教育の意義や目的、先人の教育観、教育理論や教育制度の歴史、教育指導の理論と実践、現代の教育と諸課題などを学ぶ。 ④アクティブラーニングを重視し、グループ協議と発表を実施し、対話をおした授業を展開する。				
カキム ボ・リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。							○		《キーワード》				
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。													
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。							○		①教育の意義と目的 ②教育の歴史 ③教育理論 ④教育制度 ⑤教育の実践				
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。														
《一般目標》														
①今日の教育にいたるまでの様々な教育観や理論、制度や指導方法等の歴史の変遷を理解する。 ②教育者に求められる基礎的な知識や資質、価値観等を理解する。 ③日常の教育問題に関心を持つ。 ④子どもに好かれ信頼される保育者となる。							《到達目標（行動目標）》 ①教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解する。子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解する。 ②家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立及び現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。 ③家庭や子どもに関わる教育の思想や学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想を理解する。							
授業回数		授業計画									授業外学習及び準備等			
①		授業計画説明・学習目標設定（教育者・保育者としての将来の夢と理由） 教育とは何か									教科書第1章P2～P10を通読しておく 課題：将来の夢と理由をまとめる			
②		教育と保育の意味と可能性 ・幼稚園と保育所に関する理解を深める									教科書第2章P11～P25を通読しておく 課題：幼稚園と保育園の違いをまとめる			
③		西洋の教育の歴史（古代・中世） ・古代ローマ時代の教育について									教科書第3章P26～P34を通読しておく 課題：現代の教育と比較してまとめる			
④		西洋の教育の歴史（近世） ・ルソー、バスターロッチら、人物に焦点を当てて									教科書第4章P35～P43を通読しておく 課題：任意の人物をまとめる			
⑤		西洋の教育の歴史（近代） ・モンテッソーリらの新教育運動の起こりとその背景									教科書第5章P44～P51を通読しておく 課題：任意の人物をまとめる			
⑥		西洋の教育の歴史（現代） ・第二次世界大戦後の教育改革を俯瞰して									教科書第6章P52～P62を通読しておく 課題：興味を持った政策をまとめる			
⑦		日本の教育の歴史（古代・中世） ・聖徳太子、足利学校の事例から学ぶ									教科書第7章P63～P75を通読しておく 課題：現代の教育と比較してまとめる			
⑧		日本の教育の歴史（近世） ・武士と庶民の教育観について									教科書第8章P76～P85を通読しておく 課題：現代の教育と比較してまとめる			
⑨		日本の教育の歴史（近代） ・沢柳政太郎らの大正自由教育運動について									教科書第9章P86～P99 ※通読しておく 課題：任意の人物をまとめる			
⑩		日本の教育の歴史（現代①：昭和期） ・戦後の教育改革について									教科書第10章P100～P110 ※通読しておく 課題：現代の教育と比較してまとめる			
⑪		日本の教育の歴史（現代②：平成期以降） ・平成中期の教育改革について									教科書第11章P111～P123 ※通読しておく 課題：興味を持った政策をまとめる			
⑫		教育課程とは ・学習指導要領の変遷とカリキュラムマネジメントを知る									教科書第12章P124～P132 ※通読しておく 課題：学習指導要領の変遷をまとめる			
⑬		「生徒指導」「生活指導」の教育実践について学ぶ ・学級づくりの実践を知る									教科書第13章P133～P143 ※通読しておく 課題：実践で興味を持った内容をまとめる			
⑭		教育制度と学校・学級経営 ・教育法令等から見る日本の教育制度を理解する									教科書第14章P144～P156 ※通読しておく 課題：日本の教育制度をまとめる			
⑮		キャリア教育とは 教師の専門性 講義のまとめ ・キャリアの充実を目指して									教科書第15章16章P157～P181※通読しておく 課題：※自らのキャリアの方向性をまとめる			
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		教育者・保育者としての専門的知識・実践力・発表力・事務能力・コミュニケーション能力などの観点と授業中の主体的・対話的・積極的な態度を評価する。グループ協議、小テスト、プリント、発表を評価する。				
		50%	10%	10%	評価に加えず	評価に加えず	30%							
使用教科書							参考図書		幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					
学生へのメッセージ							履修上の注意		チームスで適宜情報を発信します。双方向のやり取りができることを期待しています。					
実務経験と科目の関連		隣接科種である小学校教諭として、幼保小連携教育を行った経験をもとに、接続カリキュラムや交流の実態について言及し、理論的・実践的知識を教授する。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
26	保育・教職論	講義	2	■				○	○	○	狩野浩二	該当しない
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		教職の意義及び教員の役割・教職内容（チーム学校運営への対応を含む。）					担当形態	単独
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	○「教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）進路選択に資する各種の機会の提供等」を含む。教職への入門的な科目と考えてよい内容である。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	教員、保育者、学び続ける、資質、協働		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								○			
《一般目標》 ○今日の教育や教職の社会的意義を理解する。 ○教師・保育者に求められる役割や資質能力を理解する。 ○教師・保育者の職務内容の全体像や教師・保育者に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 ○内外の専門家との連携、分担のありかたについて理解する。						《到達目標（行動目標）》 ○公教育における教師・保育者の役割と今日の課題を理解している。 ○教職の職業的特徴とその特性を理解している。 ○教師・保育者に求められる基礎的な資質能力と学び続ける必要性を理解している。 ○教師・保育者の職務の全体像と組織的対応を理解している。 ○服務上・身分上の職務及び身分保障を理解している。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	教師、保育者とは何か、社会のなかの教師、保育者の位置／○班を編制し、PBL学習に備える○班ごとに担当する研究項目を検討する○発表の準備に取りかかる										テキスト全体の目次に目を通す。 担当する班の発表項目を検討する。	
②	前期の実習を想定し、教師、保育者の役割についてグループ研究をすすめる／○子どもと教師○保育者の関係、○教師、保育者と地域、関係機関との関係										前回の講義を振り返る。 教師、保育者の役割について考察する。	
③	教師・保育者が仕事にやりがいと魅力／○子どもとともに生きる喜び○子どもとともに夢を追う喜びと感動の共有○失敗を成功にかえる力										テキスト序章を読む。 教員・保育者のやりがいを考える。	
④	公教育と教職の意義／○近代公教育の成立と教職○公教育の理念と原理○公教育における教師の位置づけと役割										テキスト第1章を読む。 公教育と教職について考える。	
⑤	職業としての教師・保育者／○教師、保育者という職業○専門職としての教師、保育者の特色○専門職としての教師、保育者像とその揺らぎ										テキスト第2章を読む。 教職の本質を考える。	
⑥	教師・保育者として教壇に立つ／○教員免許制度の概要○教員養成制度改革の動向○高等教育における教員、保育者養成・教員、保育者採用選考○教員・保育者研修										テキスト第3章を読む。 教師教育について考える。	
⑦	教師観の変遷／○教師観の変遷と時代背景○高度専門職としての教師、保育者										テキスト第4章を読む。 教師観の変遷を考える。	
⑧	教師、保育者の仕事と役割／○教師、保育者と学校、園○授業、保育○学習指導と生徒指導○道徳、総合学習、特別活動、外国語活動○担任の1日、1年										テキスト第5章を読む。 教員・保育者の役割を考える。	
⑨	学校、園経営と管理職、ミドルリーダーの役割／○実態把握とビジョンの共有○管理職の役割○ミドルリーダーの役割										テキスト第6章を読む。 学校、園運営について考える。	
⑩	教員、保育者の任用と身分、服務／○教員、保育者の資格と採用○教員、保育者の配置と異動○教員、保育者の服務、分限・懲戒、評価										テキスト第7章を読む。 教員・保育者の服務等を考える。	
⑪	学び続ける教師／○人生100年時代の生き方○ある教師のライフストーリー										テキスト第8章を読む。 教員・保育者の研修を考える。	
⑫	教師、保育者の働き方改革、負担軽減策／○教員、保育者の勤務条件と多忙感○学校、園組織運営の効率化○校務情報化OSC.SSWとの連携○課外活動○メンタルヘルス										テキスト第9章を読む。 働き方について考える。	
⑬	学校、園改善とチーム学校、園運営／○学校改善○協働○学校と地域の関係史○チーム学校										テキスト第10章を読む。 チーム学校について考える。	
⑭	教育基本法を読みとく／○教育基本法とは○教育基本法の本質○教育基本法改正										テキスト第11章を読む。 教育基本法について考える。	
⑮	あなたのなりたい教師・保育者／○自己の教師観をつくる○これからの時代に求められる教師・保育者										テキスト終章を読む。 全講義内容を振り返る。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	30%	60%	評価に加えず	10%						
使用教科書	八尾坂修編著『新時代の教職概論 学校の役割を知る 教師の仕事を知る』シグアイ社、2018年、1,700円（＋税）						参考図書		『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社、2017年6月1日、540円（＋税）			
学生へのメッセージ	○オフィスアワーは授業の前後です。 ○「学ぶこと」は、「わかること」です。この授業を通して、新しい自分にかわってほしいと願っています。						履修上の注意		○グループを編成し、PBL（問題解決学習）型の授業となります。積極的、主体的に取り組ましましょう。 ○「分からない」「できない」が出発点です。ともに学びましょう。			
実務経験と科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士					
				前期	後期	前期	後期								
28	発達心理学	講義	2	■					○	○	○	殿塚貴史	該当する		
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程						担当形態	単独		
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》 本講では、生涯発達の特徴を概説した上で、発達心理学の知見（認知的側面、情動社会的側面、自我の側面など）が年齢とともに生活の場が広がり新たな経験を重ねることによりどのように発達していくのかを講義する。				
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。														
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。													○	
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○				
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。														
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。														
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○				
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。														
《一般目標》 保育や幼児教育を行っていく上で、乳幼児期を人間の一生のなかに位置づけ、人間の生涯にわたる発達を見通すことができるように、発達心理学の知見を整理、習得する。 発達をとらえる視点について理解し、心理学の基礎を習得しながら、養護・教育の一体性や援助の基本を理解する。 乳幼児の学び・学習過程や特性を理解する								《到達目標（行動目標）》 (1) 発達心理学の概念を説明することができる。 (2) 発達心理に関する主な理論を列挙することができる。 (3) 生涯の各段階における心理発達の特徴について述べる ことができる。 (4) 発達心理学の考え方や知識を保育・教育の場で出会う子ども達との関わりや援助に活かすことができる。							
授業回数	授業計画											授業外学習及び準備等			
①	オリエンテーション 発達心理学とは何か														
②	発達を規定する要因について 遺伝と環境														
③	発達段階論とは何か E.H.エリクソンの理論を中心に														
④	愛着と共感性の発達														
⑤	身体機能と運動機能の発達														
⑥	言語の発達														
⑦	認知機能の発達 ピアジェの理論を中心に														
⑧	遊びの発達と社会性の発達														
⑨	児童期の発達														
⑩	青年期の発達														
⑪	成人期及び老年期の発達														
⑫	S.フロイトやM.マラーなどの精神力動的自我発達理論														
⑬	発達障害とは何か														
⑭	アセスメントとは何か														
⑮	発達研究の方法														
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考								
	60%	評価に加え	30%	評価に加え	評価に加え	10%									
使用教科書	未定						参考図書		特になし						
学生へのメッセージ	講義が中心になりますが適宜、描画法や質問紙などの心理テストを実施して自己理解や自己分析を進めていく機会をお届けします。また自分の考えを持ち、伝え、相手の考えを尊重し、意欲的に参加してください。						履修上の注意		毎回の授業中に板書したことを必ずノートに取る。その内容が成績評価の1つになる。						
実務経験と科目の関連	中学校での心理相談員やメンタルクリニックでのインターンカーとしての心理アセスメントの経験に基づき、子どもや子どもを取り巻く環境の問題や課題について理論的かつ実践的知識を教授する														

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
29	特別支援保育	演習	1		■			○	○	○	山田陽子	該当する
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					担当形態	単独
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○		《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○		特別支援が必要な子どもについては障害の特性や心身の発達を理解し教育の内容や支援の方法を身に付ける。特別な教育的ニーズのある子どもについては子どもの姿を把握し活動や生活上の困難を理解して対応方法を工夫する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○			
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○		特別の支援を必要とする子ども 特別の教育的ニーズのある子ども	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										インクルーシブ教育	
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
・ 特別の支援を必要とする子どもの障害の特性および心身の発達を理解した上で、教育の内容や支援の方法を理解する。 ・ 特別の教育的ニーズのある子どもについて把握し、活動又は生活上の困難とその対応を理解する。 ・ すべての子どもを包み込む教育（インクルーシブ教育）の意義と内容及び支援の方法を理解する。				・ 発達障害をはじめとする様々な障害のある子どもについての基礎知識をもち、支援の方法を理解している。 ・ 特別の教育的ニーズのある子どもについて把握し、支援の必要性を理解している。 ・ 子ども一人ひとりの集団生活における教育的ニーズに応えることが、その子らしい自立も含めて子どもが生きる力を身に付けていくことにつながっていることを理解している。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	保育とは、特別支援保育・教育の理念と制度、子どもとはどういう存在か、療育施設と保育所・幼稚園の違い										1回目の復習と 配布資料およびP209～P213を通読する	
②	障害のある子どもへの日常の保育における保育者の援助についての理解 障害のある子ども一人一人のニーズに応じた支援の在り方と個別の指導計画の作成意義と方法										2回目の復習と配布資料を通読する	
③	障害のある子どもとそうでない子どもと一緒に園生活を営むことについての理解と支援の方法										3回目の復習とP63～P69を通読する	
④	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法―視覚障害										4回目の復習とP70～P76を通読する	
⑤	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法―視覚障害・聴覚障害										5回目の復習とP70～P76を通読する	
⑥	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法―聴覚障害										6回目の復習とP49～P 62を通読する	
⑦	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法―知的障害										7回目の復習とP34～P48 を通読する	
⑧	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法―知的障害・肢体不自由										8回目の復習とP104～P110を通読する	
⑨	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法―肢体不自由・脳性マヒ・病弱										9回目の復習とP111～P120 を通読する	
⑩	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法―発達障害・注意欠陥多動性障害										10回目の復習とP120～P136を通読する	
⑪	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法―限局性学習障害・自閉症スペクトラム障害										11回目の復習	
⑫	特別の支援を必要とする子どもの姿の理解と支援の方法―自閉症スペクトラム障害										12回目の復習と配布資料およびP145～P150 を通読する	
⑬	インクルーシブ保育についての理解、全ての子どもを含む保育（障害、母国語、貧困等）とはインクルーシブ保育を可能にする条件、保育者に求められる専門性										13回目の復習と配布資料を通読する	
⑭	インクルーシブ保育の中での子ども同士の関わり合いと育ち合い 障害のある子どもが主体的に自立活動に取り組むことへの理解と支援の方法										14回目の復習と配布資料を通読する	
⑮	事例から読み解く保護者や家族に対する理解と支援の方法・15回の授業のまとめ										15回目の復習	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	40%	評価に加えず	40%	20%						
使用教科書	尾野明美他2名編著「特別支援教育・保育概論―特別な配慮を要する子どもの理解と支援」萌文書林2020年					参考図書		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、認定こども園教育・保育要領解説				
学生へのメッセージ	毎回の授業を積み重ねることで結果として理解が進み知識が身に付きます。地道に学びましょう。					履修上の注意						
実務経験と科目の関連	幼稚園教諭として12年間、特別支援学校（幼稚園部と小学部のみ）教諭として11年間の実務経験から、支援を必要とする園児や子どもの障害の特性や心身の発達、支援の方法について教授する。幼稚園勤務の間、統合保育を実践してきた。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
31	幼児教育の方法及び技術	演習	1		■			○	○	*	星野敦子	該当しない
科目区分		道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		必要事項		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）					担当形態	単独
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										幼児教育現場において必要とされる教育方法理論と実践のための知識の獲得をめざ、アクティブラーニングやICTを活用した授業を通して、自ら意欲的に取り組み、教育現場で活かせる実践力が身につくような授業を行う。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										教育方法、ICT活用、環境構成、体験活動	
《一般目標》								《到達目標（行動目標）》				
1. 幼児教育のための基礎理論と実践方法について理解する								1. 幼稚園の授業における指導計画を立てることができる				
2. 幼児の主体的な学びを育む手法ならびに環境づくりについて理解する								2. 幼児の能力を伸ばせる環境づくりができる				
3. 情報機器を活用した授業の手法及び情報リテラシー教育について理解する								3. 情報機器を活用した授業を展開できる				
								4. 幼稚園教育要領の趣旨に沿った教育活動を実践できる				
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	保育方法の本質										テキスト第2章1項を通読	
②	保育・教育方法の歴史的変遷										テキスト第1章を通読	
③	幼稚園教育要領・保育所指針 改訂のポイント										保育所保育指針解説書、認定こども園教育・保育要領解説を通読	
④	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿										保育所保育指針解説書、認定こども園教育・保育要領解説を通読	
⑤	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（グループワーク）①企画づくり										発表資料の作成と発表練習	
⑥	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿（グループワーク）②発表										発表と振り返り	
⑦	モンテッソーリメソッド										モンテッソーリについて調べる	
⑧	モンテッソーリであそぼう										テキスト第4章を通読	
⑨	幼児の主体的な活動と 環境の構成										テキスト第8章を通読	
⑩	遊びの意義と保育										テキスト第5章を通読	
⑪	さまざまな保育形態とプロジェクト型保育										テキスト第6章を通読	
⑫	森のようちえんにみる保育の本質										テキスト第4章を通読	
⑬	幼児の活動と環境構成										テキスト第10章を通読	
⑭	保育におけるICTの活用										テキスト第9章を通読	
⑮	まとめと振り返り										第1回から第14回授業の復習	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	30%	30%	30%	10%						
使用教科書	新しい保育・幼児教育方法 広岡義之編著 ミネルヴァ書房						参考図書		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、認定こども園教育・保育要領解説			
学生へのメッセージ	アクティブラーニングを取り入れた授業を行います。積極的に参加してください。						履修上の注意					
実務経験と科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
32	子ども理解の理論及び方法	演習	1		■			○	○	○	未定	
科目区分		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		必要事項		幼児理解の理論及び方法					担当形態	単独
ディプロマ ポリシーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	子どもを理解する視点やまなざし		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○	を深め、より確かな理解に基づいた援助ができるようになっていくために必要な手がかりを授業を通して講義する。		
カリキュラム ポリシーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	子ども理解 人的環境としての保育者 個と集団		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									観察と記録・保護者理解		
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
(1) 子ども理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的な態度を理解する。						(1) 子ども理解の重要性を知り、そのために必要な保育者の基礎的な知識と援助のあり方を理解する。						
(2) 子ども理解の方法を理解し、具体的な援助のあり方を学ぶ。						(2) 様々な保育実践の事例を通して、個と集団の関係を捉える意義や方法を学び、子ども理解を深める。						
(3) 子育てにおける保護者の心情を深く理解する。						(3) 保護者の子育てに対する心情と対応の方法を理解する。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	授業ガイダンス・子ども理解の理論と方法への導入										子どもをめぐる諸問題について理解を深めておく	
②	演習：保育における子ども理解の意義										課題のレポートを次週に提出できるように作成する	
③	子どもの内面的な理解と保育										配布資料を復習して、子どもの内面的な理解を深める	
④	生活や遊びを通しての学び										子どもにとって遊びがなぜ大切なのかをまとめておく	
⑤	保育における個と集団の育ちと学び										子どもは「個」と「集団」の中でどのように育っていくのかを復習しておく	
⑥	演習：子どもを理解する視点と方法①「観察や記録の意義を考える」										実習で記録したことを読み返し、観察と記録の意義を考える	
⑦	演習：子どもを理解する視点と方法②「子ども同士のトラブルや葛藤などの事例から目的に応じた観察法を理解する										課題のレポートを次週に提出できるように作成する	
⑧	子どもを理解する視点と方法③「保育の省察と評価」										既習の内容について配布資料を活用して復習しておく	
⑨	特別な配慮を要するこどもの理解と援助①「子ども理解の3つの観点」										特別な配慮を要する子どもについて調べておく	
⑩	特別な配慮を要するこどもの理解と援助②「自閉症の子ども理解と具体的な援助」										自閉症について調べ、理解を深めた上で授業に臨むようにする	
⑪	子どもをもつ保護者の心理と現代的課題										保護者が抱える現代的問題について調べておく	
⑫	演習：保護者の子育ての理解と支援の方法										他の関連科目を復習し、保護者の心理について整理しておく	
⑬	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目と子ども理解 観察と記録を通して子ども理解の視点を学ぶ										「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目について調べておく	
⑭	幼小連携の意義と就学への支援										就学問題について、事前に調べて理解を深めておく	
⑮	全体のまとめと試験（まとめ：子ども理解・保護者への対応）										今までの授業を振り返っておくこと	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
使用教科書							参考図書		「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の解説書			
学生への メッセージ	子ども理解を通して幼児教育の重要性と保育者としての役割を学んでほしい						履修上の注意		子ども理解への関心を深め、自ら学ぶことが第一の履修条件である			
実務経験と 科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士						
				前期	後期	前期	後期									
35	教育実習指導	演習	1	■					○	○		渋谷るり子	該当しない			
科目区分		教育実践に関する科目										担当形態	単独			
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》				
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	教育実習の事前指導と準備だけでなく、本校独自のカリキュラムである実習体験と並行して実習への理解を深め、具体的に実習の準備をすすめていきます。実習で何を学びたいかなど実習課題を明確にもてるように準備をすすめていきます。				
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○					
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》				
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。															
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	実習意義と目的 幼児理解・幼稚園の機能 実習体験・実習記録 実習課題・保育技術				
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○					
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。															
《一般目標》							《到達目標（行動目標）》									
教育実習の意義・目的について理解する。 教育実習に必要な、知識・技能を身につける。 幼稚園教諭に求められる資質や能力を知る。							実習課題を明確に示す。正しく記録ノートに記入できる。実習体験において積極的に子どもと関わる。一日の視点（ねらい）をもって実習体験に参加する。子どもと一緒に楽しめる保育技術を考える。自己課題を省察し発表する。実習の課題を立てる。部分実習指導案を作成する。幼稚園教諭に求められる資質・能力について考え発表する。保育用語を正しく理解する。									
授業回数	授業計画											授業外学習及び準備等				
①	授業の進め方と教育実習について（教育実習Ⅰの希望届） 実習段階と実習目標 幼稚園の概要（個人票の下準備）															
②	幼稚園の生活（実習目線での一日の流れ） 幼稚園教諭の役割															
③	幼稚園での生活（あそびと保育内容） 子どもの前でする自己紹介について（教材づくりについて）															
④	実習記録について 書き方①															
⑤	実習体験の持ち物・留意点 実習の心構え・守秘義務・マナー・実習中の健康管理															
⑥	子どもの前でする自己紹介（実践）															
⑦	実習のねらいと観察のポイント 日誌の書き方②															
⑧	記録の添削と書き方③															
⑨	部分実習の計画と部分実習指導案															
⑩	記録の添削と日誌の書き方④															
⑪	部分実習指導案の作成と実践 保育における経験や活動の意味と、保育者の願い															
⑫	記録の添削と日誌の書き方⑤															
⑬	実習課題について 実習オリエンテーション 実習関係書類の書き方（健康管理・出勤簿・経路・お礼状）															
⑭	実習記録について															
⑮	実習前の準備 自己評価表															
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		この15回授業の他に事前指導の時間と実習体験の振り返りの時間を設定しています							
	評価に加えず	評価に加えず	45%	評価に加えず	34%	21%										
使用教科書	実習の日誌と指導案サポートブック（ナツメ社）幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、実習の手引き						参考図書						実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド（わかば社）			
学生へのメッセージ	積極的に話し合いに参加し、教育実習に繋がる学びにしましょう。						履修上の注意						教育実習指導の単位を修得しなければ、教育実習Ⅰは実施できません。			
実務経験と科目の関連																

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
36	教育実習Ⅰ	実習	2	9月				○	○		渋谷るり子 ほか専任教員	ホームページ一覧表参照
科目区分		教育実践に関する科目										
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	幼稚園教諭として求められている知識・技術について、『観察と参加』を通して実践的に学びます。視点をもって観察し、省察しながら自らの保育者像を思い描き、今後の学びに結び付けていくことに実習の意義があります。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○			
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○	観察、参加、部分実習 補助的役割・実践		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	部分実習指導案 幼稚園教諭の職務 自己評価		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
○幼稚園教諭として必要な『知識・技術』について実践的に学ぶ。 ○保育者の指導を受け、実習内容の理解を深める。						実習の意義や目的を理解し、準備する。 幼稚園教諭としての職務を担当保育者の指導のもと、補助的、部分的に実践する。 実習について省察し、自己評価できる。 Ⅱ期の実習に向けた自己課題を見つける。						
実習内容											準備等	
《実習の観点》 ・幼稚園の一日の保育の流れを知る ・年齢ごとの子どもの姿を理解する ・保育者の援助や保育の展開について補助的役割を通して学ぶ ・保育者の職務や役割を知る ・保育の環境のあり方について学ぶ 《実習の形態》 観察実習および参加実習（部分実習） 《教育実習Ⅰの評価》 ・実習園から評価60％ ・実習記録の内容・態度・実習関係書類の提出状況等40％として評価する。 《事後指導》 実習終了後は、事後指導・個人面談を受け、実習で学んだ事、反省した事などを生かして新たな課題を設定しⅡ期の実習への学びを深める。											実習の手引き 実習までの事前学習を参照	
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考				
		—	—	—	—	—	—					
使用教科書		なし					参考図書		実習の日誌と指導案 サポートブック（ナツメ社） 幼稚園教育要領解説 実習の手引き（学校作成）			
学生へのメッセージ		実習課題をしっかりと持ち、幼稚園教育の魅力を感じながら実習に臨みましょう。					履修上の注意		教育実習指導の単位を修得できていない場合、教育実習は実施できない			
実務経験と科目の関連		幼稚園（幼保連携型認定こども園・幼稚園型認定こども園を含む）に勤務する幼稚園教諭（保育教諭）が、これまでの実務経験を活かして、幼稚園で実習を指導する										

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
38	保育原理	講義	2	■				○		○	相川怜美	該当しない	
科目区分	保育の本質・目的に関する科目										担当形態	単独	
ディパ ボリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》 この授業では、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法、保育に関する知識のもとに保育者の役割、我が国の保育制度、保育の歴史や思想について学習する。内容に応じてアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ個人ワーク、グループワーク等を通して共有化する。保育の現状と課題点、子どもの心身の成長と発達について考察する。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
加わら ボリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》 ・保育 ・養護 ・教育 ・保育所保育指針 ・生命の保持 ・情緒の安定 ・5領域 ・10の姿	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》 ・保育の基礎的な原理、原則な学びを通して保育者としての使命感、倫理観を理解する。 ・保育所、幼稚園、認定こども園における保育の意義や目的、保育の内容とその方法、環境、計画、歴史、更に現状と課題について等、保育をする上での基本的事項を学び自分のなりたい保育者像をイメージできるようにする。				《到達目標（行動目標）》 ・現代社会における保育の意義と課題について考察し、自分なりの意見を述べることができる。 ・日本および諸外国の保育思想と歴史の変遷を理解し、説明することができる。 ・子どもにとってより良い育ちとは何かを考えながら、援助の意味や保育者の役割を説明することができる。 ・保育の原理を理解し、具体的な実践場面において活用することができる。									
	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	オリエンテーション、保育所の社会的機能と役割										テキスト第1章通読		
②	子どもと保育に関する法令										テキスト第2章通読		
③	保育の歴史										テキスト第11章通読		
④	保育の基本① 環境を通して行う保育										テキスト第6章通読		
⑤	保育の基本② 養護と教育の一体性										テキスト第3章通読		
⑥	保育の基本③ 遊びの中での学び										テキスト第4章通読		
⑦	保育の原理① 子どもの発達と多様化する保育形態										テキスト第5章通読		
⑧	保育の原理② 子育て家庭支援の必要性 ～3法令同時改訂とその背景～												
⑨	保育の原理③ 子どもの最善の利益とは												
⑩	保育者に求められる資質と専門性										テキスト第8章通読		
⑪	保育の計画と評価										テキスト第7章通読		
⑫	地域社会で行う子育て支援										テキスト第9章通読		
⑬	特別な配慮・障害児を受け入れる保育										テキスト第10章通読		
⑭	日本の保育の現状										テキスト第12章通読		
⑮	これからの保育に向けての保育者のあり方												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	40%	30%	20%	評価に加えず	評価に加えず	10%							
使用教科書	『保育原理 子どもの保育の基本理論の理解』 岡田耕一 編著 萌文書林 適宜レジュム、資料配布						参考図書		・保育所保育指針解説書 ・幼稚園教育要領解説 ・保育最新資料集2022				
学生への メッセージ	保育の実践の基本となる子ども理解の意義とその方法について学んでいきます。集団の中で一人一人の心身の発達状況を細やかに読み取り、必要な経験や学びを理解し、保育を構想する力を身に付けるために、演習を通して実践的に学んでいきますよう。						履修上の注意		授業で不明な点はそのままにせず、その場で質問してください。演習をたくさん取り入れていきます。積極的に受講してください。				
実務経験と 科目の関連													

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
39	子ども家庭福祉	講義	2	■				○		○	船澤修一	該当する
科目区分	保育の本質・目的に関する科目										担当形態	単独
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								子ども家庭福祉の課題と社会構造との関係について解説。歴史概観。ライフデザインのための現代家庭福祉の意義を講義。保育との関連性、人権、能動的権利、受動的権利を解説。実施体制と対策事業を講義。支援技術、保育士との連携を講義。子ども子育て支援の背景と法・制度について講義。児童福祉法と関連法、制度を講義。			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								《キーワード》			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
①現代社会の構造的課題を理解する。②子ども家庭福祉課題を家族のライフデザインから理解する。③人権に対する価値を理解する。④歴史について理解する。⑤法制度体系と法律を理解する。⑥対策について知る。⑦子ども子育て支援制度など新しい対策について理解する。⑧行政機関を知る。⑨実施機関を知る。⑩職種と専門的支援技術を理解する。⑪国際的問題を知る。⑫子どもの育ち、子育て環境のあり方を理解し、子育て支援の知識と技術を身につける。						①現代社会の構造的課題を説明できる。②ライフデザインについてその意義を説明できる。③子どもと家庭を定義し、理念や虐待他現代の課題が説明できる。④支援目標と対応する法律や制度を説明できる。⑤課題の社会への影響を解説できる。⑥対策を説明できる。⑦子ども子育て支援制度について説明できる。⑧支援実施体制や行政機構を説明できる。⑨職種と専門性について説明できる。⑩必要な支援技術と専門職の技術を理解し他職と協働できる。⑪国際的問題を説明できる。⑫保育者としての価値を理解しコミュニケーションや行動で示すことができる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	現代社会の子ども家庭福祉とは何か（講義、テキスト、資料）										テキスト第1講step1通読	
②	子どもの定義、人権、ライフデザインと子ども家庭福祉の目標（講義、テキスト、資料）										テキスト第1講step2・3通読	
③	子ども家庭福祉の現状と課題（講義、テキスト、資料）										資料参照テキスト第2講step2通読	
④	子ども家庭福祉の歴史Ⅰ古代から近世（講義、テキスト、資料）										資料参照テキスト第2講step2通読	
⑤	子ども家庭福祉の歴史Ⅱ近代から現代（講義、テキスト、資料）										事前配布資料参照	
⑥	子ども家庭福祉の歴史から学ぶ 慈恵から権利、自己実現										事前配布資料参照	
⑦	子ども家庭福祉の機構（講義、テキスト、資料）										テキスト第4講通読	
⑧	子ども家庭福祉の制度（講義、テキスト、資料）										テキスト第4講通読	
⑨	子ども家庭福祉の関係法令、宣言、条約（講義、テキスト、資料）										テキスト第1講step3・第3講通読	
⑩	子ども家庭福祉対策の事業概要と実施機関、子育て支援施策（講義、テキスト、資料）										テキスト第5～13講通読	
⑪	子ども家庭福祉の方法と支援技術（講義、テキスト、資料、VTR）										テキスト第5～13講通読	
⑫	子ども家庭福祉と関連諸科学（講義、資料）										事前配布資料参照テキスト第15講通読	
⑬	子ども家庭福祉の国際的課題（講義、資料）										事前配布資料参照	
⑭	社会福祉改革と子ども家庭福祉（講義、資料）										事前配布資料参照テキスト第14講通読	
⑮	子ども家庭福祉の今後の課題 自立 多様性 ライフデザイン（講義、資料）										振り返りと未来に向けての課題議論	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	80%	10%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	10%						
使用教科書	新・基本保育シリーズ3 子ども家庭福祉 第2版 中央法規					参考図書		現代社会と子ども・家庭に関する図書随時紹介				
学生へのメッセージ	権利主体者としての子ども、現代の社会、家庭福祉について理解しよう。					履修上の注意		積極的に考え、質問、議論する姿勢を求めます。				
実務経験と科目の関連	児童発達支援施設（早期療育）の相談、アセスメント、療育、ネットワーキングの経験から、対象者の思い、専門支援技術、方法（チームアプローチ）、連携を応用般化できるよう実践的、理論的に教授する。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
40	社会福祉	講義	2	■				○		○	石坂公俊	該当しない
科目区分		保育の本質・目的に関する科目									担当形態	単独
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》 基本的に講義形式で行いますが、VTR等も援用します。提出したリアクションペーパーを受講者で情報共有するケースもあります。講義だけでなく、演習を取り入れます。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》 人権、尊重、ノーマライゼーション、生活困窮、子どもの貧困	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》 社会福祉は多くの人々の生活に密接に関わっています。解決すべき問題は、個人、家族、社会の問題として現れます。講義内容の知識としての理解だけでなく、何が問題なのか、自分ならどう考えるかといった意見や疑問を持つことが重要です。本講義では、社会福祉の枠組み及び基礎的知識、課題や問題の理解などを学習することを目的としています。				《到達目標（行動目標）》 ①社会福祉の課題及びニーズを理解できる。 ②社会福祉の法制度・しくみを理解できる。 ③援助の方法・技術などを理解できる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	すべての人が自分らしく生きるために／生活を支える保育・福祉の専門職										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
②	社会福祉をとりまく状況／問題の背景を探る										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
③	専門職と自己理解										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
④	社会福祉の歴史／行政機関と民間施設										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑤	自己開示と他者理解										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑥	社会福祉の援助と方法／人々の生活と命を守るために										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑦	多様な価値観と共感的理解										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑧	社会保障・公的扶助／生活保護制度を中心に										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑨	コミュニケーション技術①（言語と非言語）										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑩	子ども家庭福祉／子どもを1人の固有の主体としてとらえる										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑪	コミュニケーション技術②（伝達トレーニングと姿勢）										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑫	高齢者福祉／生活の実態と保健福祉制度										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑬	障害者福祉／障害論と権利保障										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑭	地域福祉／ソーシャル・インクルージョンの実現										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
⑮	これからの社会福祉の課題／新しい社会福祉を目指して										授業後にレジュメ・配付資料等をまとめる	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考	特記事項なし				
	評価に加えず	評価に加えず	50%	評価に加えず	20%	30%						
使用教科書	使用しません。毎回レジュメ、資料等を配付します。						参考図書	講義時に適宜お伝えします。				
学生へのメッセージ	質問相談は随時受け付けます。遠慮なく聞いてください。						履修上の注意	主体的な参加をお願いします。				
実務経験と科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士				
				前期	後期	前期	後期							
44	子ども家庭支援の心理学	講義	2		■				○		○	蓮井千恵子	該当しない	
科目区分	保育の対象の理解に関する科目											担当形態	単独	
ディプロマ ポリシーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。											○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											○	子どもたちの心の健康に多大な影響を与える家族に対する支援を行う際に、保育者が気を付けておくべき点などについて説明する。子どもの心の健康に関わる症状についても説明する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。													
カリキュラム ポリシーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。												《キーワード》 生涯発達、初期経験、システム家族論、家族・家庭の意義・機能、ライフコース、子育て経験	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。													
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											○		
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》										
家庭支援は実際に行おうとするなら非常に難しい。学習者は、子どもと子どもを育てている保護者に対して、保育士としての適切な支援とはどういうことか、さらに支援する際注意しなければならない点を理解しなくてはならない。心理学をもとにした家庭支援を行うことについて、本講義を通して最低限必要な知識を身につける。				・家庭を取り巻く社会的状況と課題、生涯発達に関する基礎的知識、家族・家庭の意義や機能について説明できる。 ・自分の考えや意見を理由や背景を含めて、言葉で的確に表現することができる。 ・グループで話し合う際に他者の意見を取り入れて、自分の意見や経験を表現しまとめることができる。										
授業回数	授業計画											授業外学習及び準備等		
①	子ども家庭支援の心理学（オリエンテーション）乳児期の発達											教科書第一章		
②	乳幼児期の発達											教科書第一章		
③	児童期・青年期の発達											教科書第二・三章		
④	成人期・老年期までの発達											教科書第四・五章		
⑤	家族・家庭の意義と機能・親子関係・家族関係の機能											教科書第五・六章		
⑥	子育てを取り巻く社会状況、ライフコースと子育て											教科書第七・八章		
⑦	多様な家族の現状											教科書第九章		
⑧	配慮を要する家庭											教科書第十章		
⑨	配慮を要する家庭											教科書第十一章		
⑩	子どものストレス・睡眠食事排泄にかかわる症状											教科書十二・十三章		
⑪	子どもに見られるその他の症状											教科書十四章		
⑫	発達障害											教科書十五章		
⑬	家族機能に関するアセスメント											DVD学習		
⑭	家族システム論											DVD学習		
⑮	子ども家族支援についてのまとめ											DVD学習		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考							
	40%	30%	20%	評価に加えず	評価に加えず	10%								
使用教科書	杉崎雅子 スギ先生と考える 子ども家庭支援の心理学（萌文書林）						参考図書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説等、講義中適宜紹介する。						
学生へのメッセージ	保育士の仕事において、子どもの育つ家庭を支援することは、子どもが健康に成長するために必須です。初めて聞く内容もたくさんありますが、楽しみながら、一緒に学んでいきましょう。						履修上の注意	学ぶ順序が変更になることがあります。授業内容の変更の際は、事前に知らせます。						
実務経験と科目の関連														

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
45	子どもの保健	講義	2		■			○		○	中村千景	該当する
科目区分	保育の対象の理解に関する科目										担当形態	単独
ディパ ホリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》 体の生理や発育発達の過程などを学 び、子どもの成長を理解できるよう に講義します。子どもに多い疾病と その対応などを学び、健康を管理す るために必要な知識を身につけるこ とができるように講義します。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
カキム ホリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分 野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合さ せ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自 己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取 り組む力を育む。											
《一般目標》 ・子どもの発育発達の特徴を理解する。 ・子どもによく見られる病気を知り、健康観察の方法を 理解する。 ・集団保育における健康管理が適切にできるようになる。						《到達目標（行動目標）》 ・子どもの発育発達を正しく評価できる。 ・子どもの病気や異常に気づき、的確な対応ができる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	子どもの心と体の健康と保健の意義① 生命の保持と情緒の安定のための保健活動の意義と目的										・テキストのpp1-5を読む。 ・最近の子どもの健康問題を調べる。	
②	子どもの心と体の健康と保健の意義② 健康の概念と健康指標										・テキストのpp6-11を読む。 ・日本の人口動態推移を調べる。	
③	子どもの心と体の健康と保健の意義③ 子どもの健康の現状と課題、地域における保健活動と子ども虐待防止										・テキストのpp11-23を読む。 ・母子保健法について調べる。	
④	子どもの発育・発達と保健① わたしたちの体と身体発育										・テキストのpp24-33を読む。 ・ワークシート1ー①に取り組む。	
⑤	子どもの発育・発達と保健② 運動機能の発達										・テキストのpp33-39を読む。 ・原始反射の種類を調べる。	
⑥	子どもの発育・発達と保健③ 生理機能の発達										・テキストのpp39-46を読む。 ・生理機能の特徴を調べる。	
⑦	子どもの発育・発達と保健④ 感覚器の発達・精神機能の発達										・テキストのpp47-55を読む。 ・ワークシート1ー②に取り組む。	
⑧	子どもの心と体の健康状態の把握① 発育・発達の把握と健康診断										・テキストのpp56-70を読む。 ・健康診断の意義と特徴を調べる。	
⑨	子どもの心と体の健康状態の把握② 保護者との情報共有										・テキストのpp70-76を読む。 ・ワークシート3ー①②に取り組む。	
⑩	子どもの心と体の健康状態の把握③ 子どもの健康状態の観察と体調の良くない子どもへの対応										・テキストのpp76-90を読む。 ・ワークシート2-①②④①に取り組む。	
⑪	子どもの病気の予防と適切な対応① 子どものかかりやすい感染症										・テキストのpp91-111を読む。 ・ワークシート4ー②に取り組む。	
⑫	子どもの病気の予防と適切な対応② 感染症の予防と対応										・テキストのpp111-128を読む。 ・ワークシート5ー①②に取り組む。	
⑬	子どもの病気の予防と適切な対応③ アレルギー疾患										・テキストのpp129-145を読む。 ・ワークシート6ー①②に取り組む。	
⑭	子どもの病気の予防と適切な対応④ その他の病気と先天異常										・テキストのpp146-157を読む。 ・先天異常について調べる。	
⑮	保育における保健 職員の健康管理										・テキストのpp158-164を読む。 ・これまでの学びをまとめる。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	60%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	10%	30%						
使用教科書	「これだけはおさえたい! 保育者のための子どもの保健」 鈴木美枝子 他著（株式会社 創成社）						参考図書		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、 その他適宜紹介します。			
学生への メッセージ	子どもの健康や病気に関する話題があれば日頃から チェックする習慣を身につけましょう。						履修上の注意		教科書を丁寧に読み、補足プリントとあわせて理解を深めるようにし ましょう。また、配布物をその都度整理しておきましょう。			
実務経験と 科目の関連	保育園での勤務経験から、子どもの健康を守るために必要となる視点や、健康実態など、テキストだけでなく保育現場の実体験も織り交ぜながら教授する。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	初2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
50	乳児保育Ⅰ	講義	2		■			○		○	百名真紀子	該当する	
科目区分	保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独	
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	保育の専門家として乳児の生活と育ちを豊かにするために、乳児の保育に関する基礎的なことを講義する。			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○	特に乳児の成長や発達の理解、養護や教育などの援助や関わり、配慮などについては詳細に明らかにする。			
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	《キーワード》 乳児保育の意義・目的・歴史の変遷と役割、多様な保育の場、発達・発達、運営体制、連携・協働			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○				
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。								○				
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○				
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								○				
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》							
①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割を理解する。						①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割を説明する事ができる。							
②多様な場における乳児保育の現状と課題を理解する。						②多様な場における乳児保育の現状と課題を説明する事ができる。							
③3歳未満児の発達・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。						③3歳未満児の発達・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について記述する事ができる。							
④乳児保育における職員間や関係機関との連携・協働について理解する。						④乳児保育における職員間や関係機関との連携・協働について述べる事ができる。							
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	授業計画 学生の学習目標設定 乳児保育はなぜ必要か----社会的背景から考える										教科書（P2～5）通読		
②	乳児保育はなぜ必要か----社会的背景から考える										教科書（P2～5）通読		
③	乳児保育の歴史と現状										教科書（P6～21）通読		
④	知っておきたい法律のいろいろ---児童福祉法など ワークシート1										小テスト	教科書（P22～30）通読	
⑤	「保育所保育指針」とは										教科書（P 32～42）通読		
⑥	「保育所保育指針」とは ワークシート2・3 保育所保育指針解説書持参										教科書（P 32～42）通読		
⑦	「保育所保育指針」における乳児保育のポイント① ワークシート4・5										小テスト	教科書（P 44～49）通読	
⑧	「保育所保育指針」における乳児保育のポイント② ワークシート6・7										教科書（P50～58）通読		
⑨	人生の基礎としての乳児期…ホルツマンの考え方に学ぶ 乳児のこころの発達----身近な人との絆を育む過程										教科書（P60～69）通読		
⑩	乳児のことばの発達----思いを伝え合う手段を得る過程										小テスト	教科書（P70～77）通読	
⑪	乳児のからだ----からだの発達と運動機能の発達										教科書（P78～87）通読		
⑫	乳児保育における複数担任制---保育者同士の連携のあり方										教科書（P88～93）通読		
⑬	保育所で過ごす1日の流れ---年齢別デイリープログラム（日課表）作成										小テスト	教科書（P94～107）通読	
⑭	保護者との連携を考えよう----乳児をとりまく協力関係をめざして 発達の遅れとむき合う----保護者を支える										教科書（P108～128）通読		
⑮	実習…抱っこ・おむつ替え DVD視聴…「ことばを育てる 語りかけ育児」										資料配布		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考						
	50%	20%	15%	評価に加えず	評価に加えず	15%							
使用教科書	はじめて学ぶ乳児保育（同文書院）					参考図書		保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					
学生へのメッセージ	子どもが大好きという豊かな人間性と、子どもの行動を科学的に分析できる観察力と推論力を身につけてほしい。					履修上の注意		教科書の熟読・レポート提出期限の厳守					
実務経験と科目の関連	保育所・福祉施設勤務を経験し、発達相談員である経験を基に乳児保育の実態について言及し、乳児保育の重要性と乳児保育を担う心と知識、技術を備えた保育者を育てていく為に理論的・実践的知識を教授する。												

1
年

35

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
58	音楽実技演習	演習	1	■				○			横関由紀・永島晴美・ 川上由美・前田佳代	該当する
科目区分	保育の内容・方法に関する科目										担当形態	クラス分け
ディ・ア ボ・リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										幼児は生活の中で美しいものや心を動かす出来事に 触れ、イメージを豊かにしていきます。歌を歌い、 音楽と共に過ごす環境を作り、音楽に親しむ心を育 むことは重要です。この授業では、読譜に必要な基 本的な楽典を学びながら、簡単な弾き語りや保育現 場での生活の歌、ピアノの実技を習得します。発表 を通して実習での実践力を身につけ、必修曲の習得 を目指します。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	
かむら ボ・リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分 野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合さ せ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自 己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	ピアノ 楽典 弾き語り 実習曲
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取 り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
○日常の保育における歌の伴奏（弾き歌い）を 想定した、基本的な演奏技術を身につける。				①必修曲の習得（下記具体的な練習内容を含む）								
○読譜に必要な楽典知識を習得する。				②楽譜を理解して弾くことができる。								
				③歌いながら弾くことができる。								
				④子どもと一緒に歌う事をイメージして演奏する。								
				⑤中間・期末の課題曲を人前で演奏する。								
				⑥場面に応じた設定で導入を考え、子どもと一緒に歌うことを想定し発表す る。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	授業課題・習得目標・授業計画の説明 担当者と練習計画をたてる					バイエル14番まで おじぎの和音まで		ステップⅠ ステップⅡ		弾き語りは必ず歌って練習すること		
②	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					きらきらぼしまで		ステップⅢ				
③	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					音楽実技演習必修終了		ステップⅣ				
④	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					【具体的な練習内容】						
⑤	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					* 基本的な楽典知識を理解する （音符・休符・拍子・調整記号 臨時記号・ハ音記号の読譜）						
⑥	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					中間発表曲のリハーサル				中間発表の講評用紙提出		
⑦	中間発表会 及び 講評 （個人指導） 発表後の事後指導					* コード演奏を実施する						
⑧	中間発表の反省と今後の課題 個々の練習計画に沿って実技練習する					* 弾き語り（伴奏しながら歌う こと）に慣れる						
⑨	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					* 歌唱力を身につける						
⑩	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					* 歌に入るための合図の実践						
⑪	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					* 曲想や歌詞について理解する						
⑫	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					* ベダリングの習得						
⑬	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					* 実習曲（生活の歌）の習熟						
⑭	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					* 実習に適した演奏方法を身に つける						
⑮	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導					* 子どもが音楽に親しめるよう な環境づくりを考え発表にて 実践する				期末発表の講評用紙提出 受講カードの提出		
⑮	期末発表会 及び 講評 （個人指導） 個人指導 必修曲修得の確認											
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	備考		14回目授業終了時まで、期末発表曲を除いた全ての曲が合格している こと。2回の発表曲の合格、必修曲の習得が評価の条件となる。作品・課題 の中に必修曲の習得（合格）及び伴奏の形態、発表態度も含む。			
	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	30%	60%	10%						
使用教科書	2訂版 心を育む子どもの歌 （教育芸術社） Colla Parte（越谷保育専門学校）・入学前講習会テキスト					参考図書	子どものうた200・続こどものうた200（チャイルド本社）					
学生への メッセージ	毎日鍵盤に向かい弾くことが上達への一番の近道です。 演奏技術の基礎を楽しく学んでいきましょう。					履修上の注意	オリエンテーションの書類をしっかりと確認すること。					
科 実 務 経 験 履 達 と	横関由紀	幼稚園教諭の経験を活かし、保育現場におけるピアノの演奏の重要さと子どもの音楽活動の意義を学生に伝える。										
	永島晴美	音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。										
	川上由美	音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。										
	前田佳代	幼稚園の正課外活動でピアノを園児に定期的に指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義を学生に伝える。										

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
59	子どもの弾き語り演習Ⅰ	演習	1		■				選択	*	横関由紀・永島晴美・渋谷るり子・羽金恵子・川上由美・前田佳代	該当する	
科目区分	保育の内容・方法に関する科目										担当形態	クラス分け	
ディ・07 ホ・19との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										幼児は生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにしていきます。歌を歌い、音楽と共に過ごす環境を作り、音楽に親しむ心を育てることが重要です。この授業では、前期の音楽実技演習に引き続き、更にピアノの実技習得を目指します。また保育者自らの音楽性を磨き、子どもが音楽に親しみ楽しめる環境を想定し指導法の実践を学びます。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
かわらう ホ・19との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	ピアノ 楽典	
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											弾き語り ロールプレイ		
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
○日常の保育における歌の伴奏（弾き歌い）を想定した基本的演奏技術の習得。 ○子どもが音楽に親しみ、楽しめる環境づくりを身につける。				①必修曲の習得（下記具体的な練習内容を含む） ②歌と伴奏のバランスを考えて演奏する。③楽譜に表記されている演奏表現を理解する。④歌詞の情景をイメージして演奏する。⑤場面に応じた設定で導入を考え、子どもと一緒に歌うことを想定し発表する。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	授業課題・習得目標・授業計画の説明 担当者と練習計画をたてる										音楽実技演習必修終了	ステップⅣ	
②	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										さよならのうたまで	ステップⅤ	
③	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										まめまきまで	ステップⅥ	
④	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										うれしいひなまつりまで	ステップⅦ	
⑤	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										子どもの弾き語り演習Ⅰ終了		
⑥	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導											ステップⅧ	
⑦	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										以降、習熟度のレベルによりグレード表記	<i>mp</i> ～とする	
⑧	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										【具体的な練習内容】		
⑨	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										＊ペダリングの習得		
⑩	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										＊曲想に合った演奏方法の習得		
⑪	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										＊導入の方法を考える		
⑫	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										＊実践を想定し、導入から弾き歌いまでのロールプレイの発表をする		
⑬	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導										＊幼児が音楽に親しめるような環境づくりを考え発表にて実践する		
⑭	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
⑮	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
⑯	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
⑰	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
⑱	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
⑲	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
⑳	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉑	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉒	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉓	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉔	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉕	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉖	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉗	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉘	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉙	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉚	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉛	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉜	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉝	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉞	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㉟	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊱	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊲	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊳	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊴	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊵	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊶	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊷	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊸	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊹	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊺	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊻	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊼	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊽	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊾	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
㊿	個々の練習計画に沿って実技練習する 個人指導												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	備考	授業終了時までに全ての曲が合格していること。2回の発表曲の合格、必修曲の習得が評価の条件となる。作品・課題の中に必修曲の習得（合格）及び伴奏の形態、発表態度も含む。					
	評価に加えず	評価に加えず	10%	25%	55%	10%							
使用教科書	2訂版 心を育む子どもの歌（教育芸術社） Colla Parte（越谷保育専門学校）・入学前講習会テキスト										参考図書	子どものうた200・続こどものうた200（チャイルド本社）	
学生へのメッセージ	さらなる演奏技術を向上させ、音楽性を磨いていきましょう。授業内発表を通して、部分実習の実践力も身につけましょう。										履修上の注意	音楽実技演習が再履修となった学生も受講可能です。この科目を受講してなくても、2年次開講の子どもの弾き語り演習Ⅱは受講出来ますが、この科目も受講していることが望ましい。	
実務経験と科目の関連	横関由紀	幼稚園教諭の経験を活かし、保育現場におけるピアノの演奏の重要さと子どもの音楽活動の意義を学生に伝える。											
	永島晴美	音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。											
	渋谷るり子	音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。											
	羽金恵子	音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。											
	川上由美	音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。											
	前田佳代	幼稚園の正課外活動でピアノを園児に定期的に指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義を学生に伝える。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
62	保育教材 (ペープサート・パネルシアター)	演習	1		■			選択		*	新井恵美子	該当する	
科目区分	保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独	
ディ・ア ホ・リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》 養護と教育に関わる保育内容が、それぞれに関連性を持ち総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。また、現場実習を踏まえて子どもとの関わりに生かせるツールを作成し準備する。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
かきゅう ホ・リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》 ・保育者としての自覚 ・読み聞かせの楽しさを体験する	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○		
《一般目標》 発達段階に応じた保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。また、対象年齢を意識した保育教材制作の立案・作成を行い、ペープサート・パネルシアターの理解を深める。						《到達目標（行動目標）》 ①乳幼児期に適した題材を考え作成する ②制作物を発表し、皆で考察する ③乳児・幼児に対する発表の方法を考える ④発表に関するレポートを作成し提出する ⑤両制作物とも期限内に仕上げる							
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	ペープサートの歴史・活用法を学ぶ 乳幼児期に適した教材研究												
②	ペープサートの作成①										乳幼児に適した絵本等を用意する		
③	ペープサートの作成②										題材の内容を理解し、乳幼児にわかりやすい割り付けをする		
④	ペープサートの作成③												
⑤	ペープサートの作成④										乳幼児が興味を持てる導入方法を考える		
⑥	演じ方研究・乳幼児に適したペープサートの発表① レポート										ペープサートを演じた後の気づきや、改善点等のレポートを作成		
⑦	演じ方研究・乳幼児に適したペープサートの発表② レポート										ペープサートを演じた後の気づきや、改善点等のレポートを作成		
⑧	ミニパネルシアターの歴史・活用方法を学ぶ 乳幼児期に適した教材研究										乳幼児が興味を持ち想像力を養える題材を見つける		
⑨	ミニパネルシアターの作成①										乳幼児に適した絵本等を用意する		
⑩	ミニパネルシアターの作成②												
⑪	ミニパネルシアターの作成③												
⑫	ミニパネルシアターの作成④												
⑬	ミニパネルシアターの作成⑤										乳幼児が興味を持てる導入方法を考える		
⑭	演じ方研究・乳幼児に適したミニパネルシアターの発表②										ミニパネルシアターを演じた後の気づきや、改善点等のレポートを作成		
⑮	演じ方研究・乳幼児に適したミニパネルシアターの発表③ レポート										ミニパネルシアターを演じた後の気づきや、改善点等のレポートを作成		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加えず	評価に加えず	15%	20%	50%	15%							
使用教科書	テキストは使用しません パネルシアター用Pペーパー（20枚） くらりら 等教材を指定する					参考図書	パネルシアターやペープサートの書籍 保育雑誌等						
学生への メッセージ	実習前に自分にステキな宝物(教材)を作り、子どもたちに笑顔で演じられるよう頑張らましょね					履修上の注意	作品・レポート提出期限の厳守 欠席・遅刻・早退等も評価に関わります						
実務経験と 科目の関連	認可保育園での保育士・園長としての経験や絵本専門士として絵本の研究を活かし、各年代の子どもに合ったパネルシアター・ペープサートの作成と発表の指導。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士				
				前期	後期	前期	後期							
65	保育実習ⅠA	実習	2	2月				○		○	相川怜美 ほか専任教員	ホームページ一覧表参照		
科目区分	保育実習													
ディグ ホリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	保育所(園)での実習を行う中で、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所(園)の機能および保育士の職務について実践的に学ぶ。			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○				
カリ ホリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○	・観察、参加、部分実習 ・子ども理解 ・保育士の職務 ・守秘義務			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○				
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》										
・保育所(園)における保育の流れを理解し、主体的に保育に参加する。 ・保育所(園)の機能や役割について知り、保育士の職務の理解を深める。 ・礼儀、身だしなみ、挨拶、言葉遣い等における社会的な常識について改めて自覚する。				・乳幼児の育ちを理解し、それに応じた保育士の援助や役割を学ぶ。 ・講義を通して学んだ理論や技術を実践し、保育士として必要な専門的知識や技術を習得する。 ・保育計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解する。										
実習内容													準備等	
《実習施設／実習機関》														
公立保育所(園)（一部私立保育園） / 1年生 2月														
《実習内容》													※ 事前の準備	
・実習保育所(園)について理解する。 ・日々の観察や乳幼児とのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。 ・一日の保育の流れを把握し、保育士の役割について理解する。 ・保育課程、指導計画の基礎的な知識を深める。 ・保育の内容や援助の方法を学ぶ ・保育準備や環境構成などの実際を経験し、保育士としての自覚を深める。 ・保育士の職務内容を理解し、職員間の役割分担やチームワークについて理解する。 ・保育士の指導の下、生活や遊びの一部分を担当し保育技術を習得する。 ・保育士と保護者のかかわりの観察を通して、家庭・地域社会との連携を理解する。 ・保育士としての倫理を具体的に学ぶ。 ・安全および疾病予防への配慮について学ぶ。													・手遊び習得 ・ピアノ練習 ・絵本、紙芝居の読み聞かせ練習 ・自作の保育教材の実演練習	
《実習計画》													・健康診断受診 ・腸内細菌検査受診 ・麻疹風疹抗体検査または麻疹風疹予防接種受診	
①授業で【保育実習指導ⅠA】の受講 ②実習課題、心構えの設定 ③実習保育所(園)での事前オリエンテーション ④実習保育所(園)への提出物確認 ⑤実習記録、実習自己評価の提出 ⑥実習事後指導（個別面談）														
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		実習保育所(園)における実習評価及び実習態度、実習終了後の記録、自己評価等の提出状況などを基に総合的に評価する。					
	—	—	—	—	—	—								
使用教科書	指定しない						参考図書		実習の手引き2024年度版（学校作成） 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					
学生へのメッセージ	子どもたちとのかかわりや職務について、将来自分が保育者となった姿をイメージしながら、実習に取り組ましよう。						履修上の注意		保育実習指導ⅠAの単位を修得できていない場合、保育実習ⅠAは実施できない。					
実務経験と科目の関連	保育所(園)（幼保連携型認定こども園・保育所型認定こども園含む）に勤務している保育士(保育教諭)が、これまでの実務経験を活かして、認可保育所(園)における実習指導を行う。													

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士					
				前期	後期	前期	後期								
66	保育実習ⅠB	実習	2	3月				○		○	相川怜美 ほか専任教員	ホームページ一覧表参照			
科目区分	保育実習														
ディブ・オリとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》				
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	保育所以外の児童福祉施設等で、子どもや利用者とかかわることに より、授業で学んだ保育・福祉の知識、理論、技術を体験的に習得する。				
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○					
カリキュラム・オリとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》				
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。														
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○	・福祉の心 ・職業倫理				
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○					
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。														
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》											
・施設の生活に参加し、子どもや利用者を理解する。				・児童福祉施設等の役割や機能および施設等で働く保育士の業務内容や職業倫理、子どもの権利擁護について説明することができる。 ・子どもや利用者とかかわりや観察を通して、かかわり方の基本や生活支援を習得し、事例を通して専門者のかかわりを説明することができる。 ・保育・養護の計画、観察、記録および自己評価等について具体的に理解し、実践による技術、表現力を習得し、事例を通して専門者の役割を説明することができる。											
・施設の役割や機能、保育士の職務を理解する。															
実習内容														準備等	
《実習施設／実習期間》 1年次3月															
保育所以外のさまざまな種別の福祉施設															
乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設・障害児入所施設 児童発達支援センター（児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る）・児童心理治療施設・障害者支援施設 児童自立支援施設・児童相談所一時保護施設・独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のそみの園・指定障害福祉サービス事業所（生活介護、自立訓練、就労移行支援または就労継続支援を行うものに限る）															
《実習内容》														※ 事前の準備	
・実習施設について理解する。 ・対象児（者）とかかわりながら理解を深める。 ・施設養護の一日の流れを理解し、参加する。 ・職員間の役割分担やチームワークについて理解する。 ・生活や支援などの一部分を担当し、養護技術を習得する。 ・安全及び疾病予防への配慮について理解する。 ・保育士としての職業倫理を理解する。 ・児童福祉施設等の保育士に求められる資質を理解し、自己の適正を考える。														・実習施設レポート（種別、実習施設について） ・各施設に合わせた日誌の書き方の確認等 ・健康診断受診 ・細菌検査受診 ・麻疹風疹抗体検査または麻疹風疹予防接種受診	
《実習計画》															
①授業で【保育実習指導ⅠB】の受講 ②実習課題、心構えの設定 ③実習施設での事前オリエンテーション ④「実習施設について」レポート提出 ⑤実習施設への提出物確認 ⑥実習記録、実習自己評価の提出 ⑦実習事後指導（個別相談）															
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考		実習施設における実習評価及び実習態度、実習終了後の記録、自己評価等の提出状況などを基に総合的に評価する。						
	—	—	—	—	—	—									
使用教科書	指定しない						参考図書		「施設実習」北大路書房 実習の手引き 2024年度版 「福祉施設実習ハンドブック」（株）みらい 保育所保育指針解説書 認定こども園教育・保育要領解説						
学生へのメッセージ	体調管理に留意して実習を充実させましょう。						履修上の注意		保育実習指導ⅠBの単位を修得できていない場合、保育実習ⅠBは実施できない。						
実務経験と科目の関連	保育所以外の福祉施設に勤務する保育士が、これまでの実務経験を活かして、保育所以外の福祉施設における実習指導を行う。														

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目		
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士				
				前期	後期	前期	後期							
68	保育実習指導ⅠA	演習	1		■			○		○	相川怜美	該当しない		
科目区分	保育実習										担当形態	単独		
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										保育実習ⅠAに向けて、実習のねらいと目的、意義を理解し実習に必要な知識を身に付ける。また、保育所(園)の機能や役割、3歳未満児の発達と生活を確認し、実習生として必要な技術や記録の観点を学ぶ。			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○			
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	・生命の保持　・情緒の安定 ・養護　　　　　・子育て支援 ・保育を必要とする子ども		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》								
・保育実習の目的と意義、実習内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。						・保育所(園)の社会的役割や機能、保育士業務について理解し、子どもと適切にかかわることができる。								
・保育士に求められる資質や能力を知る。						・観察やかかわりを通して子ども理解を深め、適切に記録を作成することができる。								
						・自らの保育を評価・省察し、改善するとともに、自己課題を理解し、説明することができる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等			
①	授業オリエンテーション（保育実習の意義・目的・実習までの流れ）													
②	保育所の一日（保育所の役割と保育者の職務）										個人票・経路図等配布 証明写真の準備			
③	実習の内容と課題の明確化①										実習日誌を確認する			
④	実習の内容と課題の明確化②													
⑤	実習に際しての留意事項①　～子どもの人権と最善の利益の考慮～										個人票の清書を提出			
⑥	実習に際しての留意事項②　～プライバシーの保護と守秘義務～													
⑦	実習記録の書き方①　～0歳児クラスの日～													
⑧	実習記録の書き方②　～1歳児クラスの日～													
⑨	実習記録の書き方③　～2歳児クラスの日～													
⑩	オリエンテーション、細菌検査の必要性													
⑪	実習記録の書き方④　～日誌の必要性和日誌の書き方～													
⑫	実習記録の書き方⑤　～計画と実践、観察と記録および評価～										スケッチブックシアターと部分実習指導案の提出			
⑬	模擬保育①　～指導計画の意義作成～													
⑭	模擬保育②　～場面記録の作成と検討～										確認テスト			
⑮	実習に臨むにあたっての最終確認と実習後の流れ													
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考							
	評価に加えず	10%	40%	評価に加えず	40%	10%								
使用教科書	幼稚園・保育所。認定こども園パーフェクトガイド(わかば社)、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、実習の手引き						参考図書							
学生へのメッセージ	実習を通して、保育の実践を学ぶとともに、保育士としての自己課題を明らかにし、その後の学習につなげていきましょう。						履修上の注意					レポートや実習に関する書類等は提出期限を守りましょう。保育実習指導ⅠAの単位が修得できていない場合は、保育実習ⅠAは実施できない。		
実務経験と科目の関連														

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士				
				前期	後期	前期	後期							
69	保育実習指導ⅠB	演習	1		■				○		○	相川怜美	該当しない	
科目区分	保育実習											担当形態	単独	
ディプロマ ポリシーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。											《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											本授業では、施設実習の事前指導として、実習の目的・心構え、実習施設に関する法制度、施設の役割、施設の職員と専門性、利用児（者）の生活の実態、実習中の諸注意などを学ぶ。また、実習後においては自己評価を行い、保育士の役割や職業倫理を理解し次に活かせるようにする。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。													
カリキュラム ポリシーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											○	プライバシーの保護	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												守秘義務	
《一般目標》							《到達目標（行動目標）》							
・施設の社会的役割を知る。 ・利用児（者）の生活や心情を理解する。 ・実習の心得や態度を確認し、実習への意欲を高める。							・講義やDVD視聴を通してそれぞれの施設の役割を理解し、保育士の援助の仕方や、各施設における職務について知る。 ・自ら衣食住、挨拶等に関して望ましい生活習慣を身につける。 ・実習先の施設について、事前学習のレポートを作成する。 ・実習に必要な書類を準備する。							
授業回数	授業計画											授業外学習及び準備等		
①	授業オリエンテーション（福祉施設実習の目的・実習のスケジュール等）											実習希望先アンケート		
②	施設実習の目的・実習施設の目的・実習施設の理解（DVD視聴）													
③	施設入所の子ども・利用者の理解と保育士の役割													
④	実習生の立場と心構え（守秘義務・プライバシーの保護等）													
⑤	自分を知る（自己覚知）													
⑥	実習の流れと事前準備											実習関係書類を作成		
⑦	福祉施設実習の内容（観察実習・参加実習・指導実習）											自己紹介のための保育教材作成		
⑧	障害児・障害者施設の実習状況（DVD視聴）													
⑨	施設別の実習内容と記録の取り方 ① 児童養護施設													
⑩	施設別の実習内容と記録の取り方 ② 障害児・障害者系施設													
⑪	施設別の実習内容と記録の取り方 ③ その他の施設													
⑫	利用児（者）とのかかわりについて事例研究											グループ討議・発表		
⑬	児童福祉施設の実習状況（DVD視聴）													
⑭	実習に向けての様々な準備（生活習慣の見直し・挨拶・言葉遣い・礼状の書き方等）											確認テスト		
⑮	実習への心得、実習上の最終確認（持ち物・服装・実習記録等書類について）													
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考							
	評価に加えず	10%	40%	20%	15%	15%								
使用教科書	未定					参考図書		実習の手引き 2024年度版（学校作成） その他授業時紹介						
学生への メッセージ	様々な種別の施設について知り、自分が実習する施設以外についても学びを深めていきましょう。					履修上の注意		レポートや実習に関する書類等は提出期限を守りましょう。保育実習指導ⅠBの単位が修得できていない場合は、保育実習ⅠBは実施できない。						
実務経験と 科目の関連														

幼稚園教諭保育士養成学科 2年
教科目概要

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 科目配当表（2023年度入学生）

2024.4.1現在

教養科目卒業要件：9単位以上履修

幼稚園教諭2種免許取得要件：8単位（日本国憲法2・体育2・英語コミュニケーション2・情報機器の操作2）

保育士資格取得要件：8単位（体育講義1・体育実技1・体育以外から6以上）

区分		授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考
								1年	1年	2年	2年	
								前期	後期	前期	後期	
教養科目	教 養 科 目	倫理学	講義	2			⑥ 単 位 以 上 履 修				30	
		文学	講義	2							30	
		英語コミュニケーション	演習	2	○	○		30				
		日本国憲法	講義	2	○	○		30				
		社会学	講義	2							30	
		生き物	演習	1	○			30				
		情報機器の操作	演習	2	○	○		30				
		体育講義	講義	1	○	○		15				
		体育実技	実技	1	○	○					30	
		小計				15				135	120	
卒業必要単位及び時間				9			135	30	(165時間)			

専門教育科目卒業要件：73単位以上履修（必修72単位以上及び選択1単位以上）

幼稚園教諭2種免許取得要件：31単位

保育士資格取得要件：62単位（必修53単位 *から9単位以上（保育実習Ⅱ・保育実習指導Ⅱ含む））

（専門教育科目）

区分		授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考
								1年	1年	2年	2年	
								前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	・領域に関する専門的事項	子どもの健康とあそび	演習	1	○	○	○	30			
			子どもと人間関係	演習	1	○	○	○		30		
			子どもと環境	演習	1	○	○	○	30			
			子どもの文化と言葉	演習	1	○	○		30			
			子どもの言語文化表現	演習	1	○	○	○		30		
			子どもの音楽基礎演習	演習	1	○	○	○	30			
			子どもの発達と音楽表現	演習	1	○	○	*		30		
			子どもの発達と造形表現Ⅰ	演習	1	○	○	○	30			
			子どもの総合表現	演習	1	○	○	*			30	
		・保育の内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容健康	演習	1	○	○	○		30		
			保育内容人間関係	演習	1	○	○	○			30	
			保育内容環境	演習	1	○	○	○		30		
			保育内容言葉	演習	1	○	○	○		30		
			保育内容表現（音楽）	演習	1	○	○	○			30	
			保育内容表現（造形）	演習	1	○	○	*			30	
	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教育原理	講義	2	○	○	○	30			
			保育・教職論	講義	2	○	○	○	30			
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 ・教育課程の意義および編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	幼児教育経営学	講義	2	○	○			30		
			発達心理学	講義	2	○	○	○		30		
			特別支援保育	演習	1	○	○	○		30		
			保育・教育課程論	講義	2	○	○	○			30	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） ・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	幼児教育の方法及び技術	演習	1	○	○	*		30		
			子ども理解の理論及び方法	演習	1	○	○	○		30		
			教育相談の理論及び方法	演習	2	○	○			30		

	授業科目	授業形態	単位数	卒業	幼2種	保育士	開講時期・時間				備考
							1年	1年	2年	2年	
							前期	後期	前期	後期	
教育実践に関する科目	保育・教職実践演習	演習	2	○	○	○				60	
	教育実習指導	演習	1	○	○		30				
	教育実習Ⅰ	実習	2	○	○			60			1年生9月実施
	教育実習Ⅱ	実習	2	○	○				60		1年生9月実施
・保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	○		○	30				
	子ども家庭福祉	講義	2	○		○	30				
	社会福祉	講義	2	○		○	30				
	子ども家庭支援論	講義	2	○		○			30		
	社会的養護Ⅰ	講義	2	○		○			30		
	自立支援とライフデザイン	講義	2			*				30	
・保育の対象の理解に関する科目	子ども家庭支援の心理学	講義	2	○		○		30			
	子どもの保健	講義	2	○		○		30			
	子どもの食と栄養A	演習	1	○		○			30		
	子どもの食と栄養B	演習	1	○		○				30	
	教育心理学	講義	2			*				30	
・保育の内容・方法に関する科目	保育内容総論	演習	1	○		○				30	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	○		○		30			
	乳児保育Ⅱ	演習	1	○		○			30		
	社会的養護Ⅱ	演習	1	○		○				30	
	子育て支援	演習	1	○		○				30	
	子どもの健康と安全	演習	1	○		○			30		
	特別支援保育Ⅱ	演習	1	○		○			30		
	子どもの発達と造形表現Ⅱ	演習	1	○		*		30			
	子どもの発達と造形表現Ⅲ	演習	1			*				30	
	音楽実技演習	演習	1	○			30				
	子どもの弾き語り演習Ⅰ	演習	1			*		30			
	子どもの弾き語り演習Ⅱ	演習	1			*			30		
	子どもの運動あそび	演習	1			*			30		
	保育教材（ベアプサート・パネルシアター）	演習	1			*		30			
	保育教材（バベット・エフロンシアター）	演習	1			*			30		
	こどもとおもちゃ	演習	1			*			30		
保育実習	保育実習ⅠA	実習	2	○		○			80		1年生2月（保育）*
	保育実習ⅠB	実習	2	○		○			80		1年生3月（保育）*
	保育実習Ⅱ	実習	2	○		*			80		2年生8月（保育）
	保育実習指導ⅠA	演習	1	○		○		30			
	保育実習指導ⅠB	演習	1	○		○		30			
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	○		*			30		
専門科目 開講単位数・開講時間小計			83				960	1110			
教養科目及び専門科目 開講単位数・開講時間合計			98				1,095	1,230			
卒業必要単位及び時間数（選択1単位を30時間2年次前期選択として換算）			82				1,035	930			1,995
専門科目72単位＋選択1単位＋教養9単位：合計82単位											

* 保育実習ⅠA、保育実習ⅠBの単位認定は2年次になります。

実習時期は、原則決められた時期に実施予定。ただし、新型コロナウイルス感染の状況など、受け入れ先の都合で時期を変更せざる得ない場合があります。

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 開講科目一覧（2023年入学生）

番号	教科目名	担当講師名	開講年次
1	倫理学	吉田杉子	2
2	文学	山崎英二	2
3	英語コミュニケーション	開講済み	1
4	日本国憲法	開講済み	1
5	社会学	東海林礼子	2
6	生き物	開講済み	1
7	情報機器の操作	開講済み	1
8	体育講義	開講済み	1
9	体育実技	会田秀樹・東海林孝	2
10	子どもの健康とあそび	開講済み	1
11	子どもと人間関係	開講済み	1
12	子どもと環境	開講済み	1
13	子どもの文化と言葉	開講済み	1
14	子どもの言語文化表現	開講済み	1
15	子どもの音楽基礎演習	開講済み	1
16	子どもの発達と音楽表現	開講済み	1
17	子どもの発達と造形表現Ⅰ	開講済み	1
18	子どもの総合表現	横関由紀	2
19	保育内容健康	開講済み	1
20	保育内容人間関係	石河雅信	2
21	保育内容環境	開講済み	1
22	保育内容言葉	開講済み	1
23	保育内容表現（音楽）	渋谷るり子	2
24	保育内容表現（造形）	森高光広	2
25	教育原理	開講済み	1
26	保育・教職論	開講済み	1
27	幼児教育経営学	星野敦子	2
28	発達心理学	開講済み	1
29	特別支援保育	開講済み	1
30	保育・教育課程論	狩野浩二	2
31	幼児教育の方法及び技術	開講済み	1
32	子ども理解の理論及び方法	開講済み	1
33	教育相談の理論及び方法	殿塚貴史	2
34	保育・教職実践演習	元木 廉	2
35	教育実習指導	開講済み	1
36	教育実習Ⅰ	開講済み	1
37	教育実習Ⅱ	渋谷るり子 他専任	2
38	保育原理	開講済み	1
39	子ども家庭福祉	開講済み	1
40	社会福祉	開講済み	1
41	子ども家庭支援論	石河雅信	2
42	社会的養護Ⅰ	船澤修一	2
43	自立支援とライフデザイン	船澤修一	2
44	子ども家庭支援の心理学	開講済み	1
45	子どもの保健	開講済み	1

番号	教科目名	担当講師名	開講年次
46	子どもの食と栄養A	佐々木優美	2
47	子どもの食と栄養B	佐々木優美	2
48	教育心理学	殿塚貴史	2
49	保育内容総論	石河信雅	2
50	乳児保育Ⅰ	開講済み	1
51	乳児保育Ⅱ	百名真紀子	2
52	社会的養護Ⅱ	木村康平	2
53	子育て支援	石河信雅	2
54	子どもの健康と安全	中村千景	2
55	特別支援保育Ⅱ	西原彰宏	2
56	子どもの発達と造形表現Ⅱ	開講済み	1
57	子どもの発達と造形表現Ⅲ	森高光広	2
58	音楽実技演習	開講済み	1
59	子どもの弾き語り演習Ⅰ	開講済み	1
60	子どもの弾き語り演習Ⅱ	横関由紀・永島晴美他	2
61	子どもの運動あそび	東海林孝	2
62	保育教材（ペープサート・パネルシアター）	開講済み	1
63	保育教材（パペット・エプロンシアター）	武田真理恵	2
64	こどもとおもちゃ	武田真理恵	2
65	保育実習ⅠA	開講済み	1
66	保育実習ⅠB	開講済み	1
67	保育実習Ⅱ	相川怜美 他専任	2
68	保育実習指導ⅠA	開講済み	1
69	保育実習指導ⅠB	開講済み	1
70	保育実習指導Ⅱ	相川怜美	2

2023年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
1	倫理学	講義	2					■			吉田杉子	該当しない
科目区分		教養科目（選択）									担当形態	単独
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										毎日の生活や現代社会での倫理的な問題について、様々な考え方を説明する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										毎回異なるテーマに関する講義を行い、それによって受講者自身の思考力を養うことを目指す。	
加わらぬポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○	・価値の意味 ・善さ ・利己心 ・利他心 ・生きること ・個人 ・社会	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》				・倫理とは何か？という問いを掲げながら倫理思想史を概観する ・日常生活における倫理的な問題に関する様々な意見や考え方を知り自分自身の意見を考察する。 ・毎日の生活の中にある倫理的な問題を指摘できる。 ・授業で学んだ知識を元に、自分の立場で物事を考え、根拠を説明できる。 ・論理的な思考力を育て、社会生活で応用できる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	倫理学を学ぶ意味について										予習について： 事前に次回授業についての資料が配られている時は、よく読んでおくこと。 また、授業で扱われる内容について自分の意見や感想を考えておくこと。	
②	善く生きるとは何かーソクラテスの投げかけた問いについて考える											
③	価値について①ー美的判断はどのように成立するか（プラトンのイデア論を参考に）											
④	価値について②ー人間の価値判断について											
⑤	人間の探究①人間は利己的か利他的か										復習について： 授業に関する資料やノートをもう一度読み、どのような議論が紹介されたかを確認しておくこと。	
⑥	人間の探究②社会の中の個人という視点について											
⑦	人間の探究③人間と人間はどこまで理解し得るか											
⑧	人間の探究④「道徳感覚」という説を提唱したシャフツベリの思想											
⑨	人間の探究⑤アダム・スミスの説く「公平な観察者」と「共感」について											
⑩	人間の「感情」と「理性」と倫理について											
⑪	行為の動機と結果について①											
⑫	行為の動機と結果について②											
⑬	今までの授業で興味深いと感じた倫理的視点についての意見交換											
⑭	倫理と道徳の違いについて考える											
⑮	全体のまとめ											
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	55%	評価に加えず	評価に加えず	45%						
使用教科書	授業ごとに資料を配布予定					参考図書		授業内で必要があれば紹介する。				
学生へのメッセージ	倫理学に触れることは新しい発見があると思います。今後の社会生活に役に立つことを期待します。					履修上の注意		特になし				
実務経験と科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
2	文学	講義	2					■			山崎英二	該当しない
科目区分		教養科目（選択）									担当形態	単独
ディ プロ マ ーとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										登場人物に投影された作者の「思い」と、作家の実生活を考える価値を説明する。子どもをとりまく暮らしに焦点を当て、人が営む生活の価値が描かれている作品を紹介する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
か わ ら ぬ ポ リ ーとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》 ①子どもの暮らし ②作者の思い ③読者の日常生活 ④想像力と思いやり	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○		
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
①作者のメッセージを考察して、学習者が保育を志した契機、初心、子ども観と照らし合わせ、子どもの日常生活の価値を考え直す。 ②作品を通して、感動する心、相手を気遣う思いやりの心の重要性を再認識し、保育の現場で絵本や児童文学を有効に活用できる。						①文学作品に対する興味を深め、作品の内容だけでなく作家の思いや作家が生きた背景を理解し、その価値を説明できる。②保育者として自らの教育観を確認し、絵本や物語を子どもに提供する際、作者の思いを反映させ子どもの暮らしに生かす。③豊かな仮定世界を提供してくれる児童文学作品の存在意義を理解する。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	人はなぜ物語を好み、また必要とするのか（関連する学問領域も紹介する）										文学の存在意義を考える	
②	ミシシッピ川のカ 『トム・ソーヤの冒険』と作者マーク・トゥエイン										児童文学の舞台としての自然環境について考える。	
③	作品に描かれた道と街 物語の背景を探る										物語の背後に隠された真実を導き出し、新たな解釈を目指す。	
④	人はなぜ旅に出るのか 「ここではないどこかへ」 紀行文学、冒険小説の魅力										子どもの冒険への憧れ、大人の旅情や郷愁を考える。	
⑤	なぜその場所が描かれているのか 作品の舞台と作者の思い										作品の舞台を問題にし、ある場所に対する人の思いを考える。	
⑥	身近な動植物と人とが織り成すドラマ 厳しい自然を生き抜く動植物										作家が身近な動植物を主題とする意義を考える。	
⑦	作品に描かれた橋 人々をつなぐ橋 作品と建築物について										作家の発想が物語となる瞬間は、どこで訪れるのかを考える。	
⑧	なぜ名作が生まれたか 『グリム童話』 なぜ人々が受け入れるのか										グリム兄弟の時代背景、功績について考える。	
⑨	日頃持つことのない視点 『床下の小人たち』 メアリー・ノートン 作										視点、発想の転換を試みる。	
⑩	『アンデルセン童話』 作者アンデルセンの思いと社会背景										物語の背景である当時のデンマーク社会との関わりを考察する。	
⑪	『星の王子様』と作者 サン・テグジュペリ作 砂漠に取り残された経験										作家の実体験がどのように作品に生かされているのかを考える。	
⑫	なぜ民話を再話したのか 『鳥取の蒲団の話』 小泉八雲 作										先人たちに語り継がれて来た民話の価値を探る。	
⑬	言葉の持つ力 『朗読者』 ヘルンハルト・シュリンク 作										物語が持つ力を再確認する	
⑭	作品に描かれた、温かい思いやり 『祭りの晩』 宮沢賢治 作										賢治作品に描かれた、温かい思いやりについて考える	
⑮	児童文学の存在意義（豊かな仮定世界の伝え手として）										豊かな仮定世界とは何かを考える。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	40%	評価に加えず	評価に加えず	60%						
使用教科書	指定しません。						参考図書	授業内で適宜紹介します。				
学生への メッセージ	作家の心情を考えることを通して、子ども観、人生観を豊かにしていきたいと思います。						履修上の注意	親しみやすい作品を通して、自分たちの暮らしを振り返る機会としてください。				
実務経験と 科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	初2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
5	社会学	講義	2					■			東海林礼子	該当する
科目区分		教養科目（選択）									担当形態	単独
ディ・ロ・ボ・少との関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	親とは子どもが社会化した個人である。どのように社会化してきたのかによって、子育ても異なる。子どもが生まれれば自然と親になるのではなく、親も家族や各種の集団そして地域社会から現在も大いなる影響を受けて生活を営む。保育者が親に日々伝える内容として、何を素材に出来るのか。社会学の研究成果等をヒントに見出す。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
カキム・ボ・少との関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	地域社会、集団（血縁、地縁、職縁、知縁、仲間）、個人、ライフチャンス、ライフチョイス、家族、ライフサイクル、ライフコース、社会化、異常行動、登園拒否、いじめ、虐待
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
①これまでの研究成果を知ることで、“社会”についての想定範囲を増やす。 ②各家庭の生活の“クセ”を見抜けるようになる。 ③実際に親や子どもに充実したコミュニケーションを図れるようになる。						①園内で起こるさまざまなことが、社会と結びついていることが解る。 ②子どもや親の生活課題のストーリー性（背景）が見えるようになる。 ③現実にかざっていることの問題点や今後の課題が整理、説明できるようになる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	育児をなぜ「育てる側」と「育てられる側」との一方通行と考えたがるのか										「親になる」ということは、どうということなのかを考える	
②	子どもはどのように扱われてきたのか～親も愛する対象としなかった時代があった～										子どもが愛されなければならない理由を考える	
③	成績上位の息子と運動や音楽に才能を示す娘 ～「育てる側」が何を話せるか～										子どもが安心できる大人（親）像を考える	
④	危険と安全そして子殺しの論理 ～「社会化」抑止と愛着の暴走～										子どもは親の所有物ではないことを考える	
⑤	社会化のチャンスとチョイス ～異常行動、登園拒否、不登園、いじめはつくられる～										親と子がそれぞれにもつ人間関係の異を考える	
⑥	なぜは社会の迷惑なのか？ ～コロナ、インフル、溶連菌等感染症に対する社会的反応～										他者親子が迷惑となぜ考えるのかを考える	
⑦	病むを医者は解る ～原因不明の嘔吐や排便・おなら恐怖症そしてストレス解放～										例えば「頭が痛い」子は何を訴えたいのかを考える	
⑧	親の客観性には頼れない①器用・不器用										できない子がいる理由を考える	
⑨	親の客観性には頼れない②子どもの見聞										親が知らないこととは何かを考える	
⑩	親の客観性には頼れない③親の状況判断										親のできる情報収集には限度があることを考える	
⑪	親が子どもに話すこと ～子ども（親）は親（子ども）の状況を判断できずにいないか～										親の社会化（親）が子どもに影響しているかを考える	
⑫	普通の家族とは ～社会学の研究成果が語ること～										典型をふまえ、普通の家族があるのかを考える	
⑬	親の生活リズムやライフコース ～子どもに影響していることとは～										子どもが親に振り回されていることが何かを考える	
⑭	虐待の定義とその実情 ～親も気づかない、親も必死にもがいている～										何が虐待なのかを解ってもらうことを考える	
⑮	地域社会（社会資源）の中で、有意義な子育てができるということとは？										親とのコミュニケーションの重要性を再確認する	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	50%	評価に加えず	評価に加えず	50%						
使用教科書	講義時にプリントを配布します						参考図書	講義時に適宜お話しします				
学生へのメッセージ	児童発達支援、放課後等デイサービス、介護初任者、社会福祉法人理事、看護学校非常勤講師、日本初待機児学童創設、町会役員、2児の母です						履修上の注意	みなさんに伝えたいことがいっぱいあります。ぜひいらしてください。一緒に考えましょう。				
実務経験と科目の関連	放課後等デイサービス、町内会役員、社会福祉法人役員、市民団体活動関与、介護職初任者として、また母親としての経験を活かし、子どもや家族および地域や社会について説明することで、理論的、実践的な知識への理解も深める。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	初2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
9	体育実技	実技	1				■	○	○	○	会田秀樹・東海林孝	該当しない
科目区分		教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目 / 教養科目（体育）									担当形態	クラス分け
ディ・04 ホ・リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	教育者（保育者）にとって健康を維持するために必要な体力の保持増進や、各競技が社会性・協調性を育むことをねらいとして行う。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
かきゅう ホ・リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○		
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
体力の保持増進、及び社会性や協調性を身につける				○自分の体力を理解し、それに応じて運動に取り組むことができる ○各競技において作戦を考えたり、話し合ったり、試合前後の挨拶ができる								
授業回数	授業計画									授業外学習及び準備等		
①	ポッチャ（ルールの確認・基本動作）									越谷保育専門学校にて実施 パラリンピックの正式種目です。		
②	ポッチャ（ルールの確認・基本動作）									越谷保育専門学校にて実施 パラリンピックの正式種目です。		
③	卓球（ルールの確認・基本動作・簡易ゲーム）									越谷保育専門学校にて実施		
④	ビーチボールバレー（ルールの確認・基本動作・ゲーム）									吉川市の本学園付属施設で実施 2時間連続で実施		
⑤	ビーチボールバレー（基本動作・ゲーム）											
⑥	卓球（ルールの確認・基本動作・簡易ゲーム）									越谷保育専門学校にて実施		
⑦	ビーチボールバレー（基本動作・ゲーム）									吉川市の本学園付属施設で実施 2時間連続で実施		
⑧	ビーチボールバレー（基本動作・ゲーム）											
⑨	ビーチボールバレー（基本動作・ゲーム）									吉川市の本学園付属施設で実施 2時間連続で実施		
⑩	ビーチボールバレー（基本動作・ゲーム）											
⑪	卓球（ルールの確認・基本動作・ダブルスゲーム）									越谷保育専門学校にて実施		
⑫	バドミントン（ルールの確認・基本動作・簡易ゲーム）									吉川市の本学園付属施設で実施 2時間連続で実施 A組とB組隔週で行います。		
⑬	バドミントン（ルールの確認・基本動作・ダブルスゲーム）											
⑭	バドミントン（ルールの確認・基本動作・団体戦）									吉川市の本学園付属施設で実施 2時間連続で実施 A組とB組隔週で行います。		
⑮	バドミントン（ルールの確認・基本動作・団体戦）											
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	75%	25%						
使用教科書	なし						参考図書		なし			
学生へのメッセージ	心地よい疲労感を味わってください						履修上の注意		体育館シューズを必ず履くこと			
実務の経験と科目	会田秀樹											
	東海林孝											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒 業	幼 之 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
18	子どもの総合表現	演習	1			■		○	○	*	横関由紀	該当する	
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目（改正施行規則附則第7項）										担当形態	単独	
ディプロマ 取得との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。											《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	1年時に学んだ知識・技術をさらに高めるための実践的な授業を目指します。想像力を広げて感性豊かに表現をするための表現法を言葉、音楽、造形の観点から総合的に考え行動する力を養います。また自ら演じながら、保育者の視点で指導や援助を学ぶ機会にしていきます。	
カリキュラム 取得との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	オペレッタ・表現・演じる	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○		
《一般目標》							《到達目標（行動目標）》						
・オペレッタを体験することを通して、子どもの表現における発達を理解する。 ・音楽や詩を理解し、音楽的な表現を工夫して演奏、歌唱出来る。 ・オペレッタを通して様々な表現方法を探り、実際の指導に必要なことは何かを学ぶ。							・様々な楽器の奏法を考え、演奏することが出来る。 ・曲や話の内容に応じてセリフや歌唱・演奏表現を工夫し演じる事が出来る ・振り付け、演出、構成を考え実施する事が出来る。 ・舞台に必要な道具、衣装を考え制作することが出来る。 ・美しいものや心を動かす感動を共有し、協働して表現することが出来る。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	幼稚園の表現劇の事例から子どもの表現の芽生えの姿や発達を考える オペレッタについて 発表課題について 諸読み										配役・係分担を決める		
②	物語全体のイメージを共有する 豊かな表現のための効果音について考える 制作・材料申請について										振付、大道具、小道具、衣装イメージを考える		
③	物語に出てくる人物等のイメージを共有する 係ごと話し合い（計画） 子どもの歌課題曲1・2										振付、大道具、小道具、衣装の材料を考え材料を申請する		
④	物語に出てくる人物等のイメージを共有する 係ごと話し合い（他の係との意見交換） 子どもの歌課題曲3・4										振付、大道具、小道具、衣装作成開始追加台本（随時配布）		
⑤	子どもの身体機能の発達を理解した振り付けを考える 係ごとの話し合い（各係の進捗状況確認）												
⑥	オペレッタ発表を意識した舞台の使い方を考えながら、立ち位置や背景、舞台道具をイメージする										招待状材料申請		
⑦	幼児の表現の発達段階の理解 ①身体機能から動きを考える										招待状作成開始		
⑧	幼児の表現の発達段階の理解 ②言葉の抑揚や喜怒哀楽の感情表現法を考える										発表課題曲提出		
⑨	保育者としての表現の実践（子どもの歌発表）												
⑩	個の表現から集団の表現へつなげるために動きの構成を見直す 幼稚園の発表映像視聴を通して自身の表現を振り返る										レポート課題 舞台道具・衣装を完成させる		
⑪	表現援助について大道具・小道具を用いたり、舞台裏での舞台転換・照明を考える										衣装修正		
⑫	心情・情景・身の回りの音等のイメージを音に表現する 衣装を着用し演じる										招待状を完成させる		
⑬	通し練習（携帯等を用いて録画し、修正・改良する）										招待状配布 会場設定の確認		
⑭	ゲネプロ（本番と同じ状態で通す） 舞台における上演を通して子どもの心情について学ぶ												
⑮	オペレッタ発表										レポート提出		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考	オペレッタで使用する舞台道具や衣装、招待状の制作は、授業時間外となります。期日までに計画的に準備を進めていきましょう。					
	評価に加えず	評価に加えず	30%	40%	評価に加えず	30%							
使用教科書	2A/ピーター・パンのぼうけん物語（ドレミ楽譜出版社） 2B/アラジンとまほうのランプ（絶版のため授業で配布） Coola Parte（越谷保育専門学校）					参考図書		授業内で必要に応じて紹介します。					
学生への メッセージ	クラス全員で一つの作品を創作します。アイデアを出し合い協力して表現劇を創る楽しさを共に感じましょう。					履修上の注意		動きやすい服装で参加してください。					
実務経験と 科目の関連	幼稚園教諭の経験をもとに、保育における表現劇指導の実態について言及し、理論的、実践的知識を教授する。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
20	保育内容人間関係	演習	1			■		○	○	○	石河信雅	該当する
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び活用を含む）										担当形態	単独
ディパ ホリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											子どもたちの「人とかわる力」を育てるための方法論、実践論を事例及び情報機器を用いて学ぶ。幼児期のそれぞれの発達段階に基づき、「人とかわる力」が作られていく過程、集団と個の関係性、及び保育実践のあり方について学ぶ。
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	
かわら ホリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	《キーワード》
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	間主観性・子ども理解・共感・信頼関係・社会性・個と集団・葛藤
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》							《到達目標（行動目標）》					
・領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 ・ヒトが人となり人間になっていく過程を理解する。 ・人間関係と子どもの成長について理解する。							1.子どもの人間関係の成立にかかる保育者の役割について理解を深める。 2.人とかわる力を育てるための援助の在り方、および援助について理解する。 3.乳幼児の発達特性を踏まえた教材や環境構成の重要性を理解し、指導案を作成し、模擬保育やその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。					
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション 本授業の課題等について 「人間関係」の授業の必要性について										幼稚園教育要領解説等の人間関係部分について通読する	
②	子どもと保育者の信頼関係の築き1										保育者が子どもから信頼されるとはということについて考える。	
③	子どもと保育者の信頼関係の築き2										信頼関係とはどのような関係性かを考える。	
④	子どもとの信頼関係を通して人間関係を構築する方法について考察する。										信頼関係の始まりについて考える。	
⑤	教材研究・人間関係を理解するための教材（紙芝居、絵本などや情報機器など）についてその方法や可能性を考える。										人間関係を扱う身近な教材について調べ発表できるようにしておく。	
⑥	人間関係と言葉との関係・保育者の言葉かけや遊びが深まる言葉かけについて考える。ロールプレイをすることで子どもの育ちを支える言葉表現について学ぶ。										嬉しくなる言葉、悲しくなる言葉などを調べておく。	
⑦	保育場面における人間関係・園生活や遊びの場面で見られる友達関係、特にけんかや様々なトラブルを通して育つ子どもの姿や保育者の対応について学ぶ。										子どもの社会性の発達について調べておく。	
⑧	人間関係の育ち・4歳児の仲間関係に焦点を当てて、子どもの人間関係が育つ過程を学ぶ。										幼児の発達過程を予習しておく。	
⑨	遊びと人間関係・遊びから育つ様々な人間関係について学ぶ。										子どもたちが夢中になる遊びについて 考えてくる。	
⑩	子ども同士をつなぐ環境を通しての遊び（ルールのある遊び）の教材研究・指導案の立案を基に模擬実践を行う。										ルールのある遊びをどのように実践 するか計画案を考えてくる。	
⑪	模擬実践の省察をする。子どもたちの人間関係は、一様に育つものではない同じ遊びをしていても何に喜びを感じるかは一人一人違うなど集団と個の関係に焦点を当てて考える。										各自模擬実践について省察してくる。	
⑫	地域社会と人間関係の構築・家庭、地域、そして保育園、幼稚園という子どもを取り巻く社会的環境において三者構造の在り方について学ぶ。										現在の地域社会との関係について考察しておく。	
⑬	道徳性・規範意識の芽生えをはぐくむ保育についてディスカッションをしながら学ぶ。										道徳性・規範意識の芽生えについて事前に調べておく。	
⑭	ドキュメンテーションや学級だよりなどの作成の仕方、また意義について学ぶ。										学級だよりやドキュメンテーションについて考えておく。	
⑮	これまでの学びの振り返りを行う。										これまでの学びを振り返っておく。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考		試験期間に到達試験を行う。			
	50%	10%	20%	評価に加えず	評価に加えず	20%						
使用教科書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育解説						参考図書	授業内で必要に応じて紹介する。				
学生へのメッセージ	子どもの人間関係の育成は、保育者の資質・能力に大きくかわってきます。共に学び合い資質・能力を高めて行きましょう。						履修上の注意					
実務経験と科目の関連	小学校長、公立幼稚園長、教育委員会、カウンセリング実践・研究等の実績を踏まえ、人の成立から人間関係の在り方までを実践と理論に基づいて実践力が身に付くよう教授する。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1 年		2 年		卒 業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
23	保育内容表現（音楽）	演習	1			■		○	○	○	渋谷るり子	該当しない	
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目 保育内容の指導法（情報機器及び活用を含む）										担当形態	単独	
ディ グ リ ー との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											保育内容表現の領域を音楽の側面から、内容の理解と指導と援助の方法を学びます。1年次に学んだ基礎と発達や学びの過程を総合し、保育を構想していく力を身につけるために、あそびの実践・模擬保育・事例を通して主体的に学習します。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
かわ ら ぬ との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											領域表現・表現の特性と発達 ICTの活用 模擬保育と指導案	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										○		
《一般目標》 ○領域《表現》の「ねらい」と「内容」を理解する ○音楽に関する発達や学びの過程を理解する ○表現活動を中心とした保育の方法を身につける ○保育者として必要な表現力を身につける ○ICTの活用を理解する							《到達目標（行動目標）》 ①年齢ごとの表現あそびを通し指導上の留意点を理解する ②指導計画をふまえた年齢ごとの表現活動を知る ③指導案を作成する ④模擬保育を実践する ⑤模擬保育を自己評価・省察する ⑥情報機器の活用について知る						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	領域《表現》の目標、ねらいと内容について 乳児の音楽的発達 ～特性と表現あそびの実際～												
②	2歳児の音楽的発達 ～特性と表現あそびの実際～ 情報機器の活用について 【絵本】												
③	幼児の音楽的発達 ～特性と表現あそびの実際～ 【絵本をテーマにした指導案】										リズム室使用 (うごきやすい服装・上靴)		
④	わらべうたをつかった表現活動												
⑤	歌唱活動の指導法と模擬実践 年齢ごとの発達・身体をつかった歌唱活動												
⑥	オノマトペを使った表現あそび 実践と指導案												
⑦	身近な素材を使った表現あそび（音やストーリーを楽しむ） 実践と指導案 【ねずみくんのぼうけん】他										リズム室使用 (うごきやすい服装・上靴)		
⑧	身近な素材を使った表現あそび（形を楽しむ） 実践と指導案 【新聞紙であそぼう】										リズム室使用 (うごきやすい服装・上靴)		
⑨	集団で楽しむ表現あそび ～コミュニケーション～ 実践と指導案										リズム室使用 (うごきやすい服装・上靴)		
⑩	集団で楽しむ表現あそび ～リズムにあわせて、音楽にあわせて～ 実践と指導案										リズム室使用 (うごきやすい服装・上靴)		
⑪	指導案の作成と模擬保育を考える① 指導内容を考える										携帯など動画を撮影できる機器		
⑫	指導案の作成と模擬保育を考える② 模擬保育の準備												
⑬	指導案の作成と模擬保育を考える③ 中間発表												
⑭	指導案の作成と模擬保育を考える④ 模擬保育の練習												
⑮	模擬保育の発表 振り返り												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	評価に加えず	評価に加えず	55%	15%	15%	15%							
使用教科書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、 認定こども園教育・保育要領解説、 保育者養成のための音楽表現（大学図書出版）						参考図書	ユニバーサルデザインの音楽表現（朝文書林） 子どもの音感受の世界（朝文書林） 事例で学ぶ保育内容 領域表現（朝分書林）					
学生への メッセージ	自らが表現者である意識を持ち、心を開放して表現を楽しみましょう						履修上の注意	床に座ったりできる動きやすい服装で参加してください。 上履き持参・スカートは適さない					
実務経験と 科目の関連													

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
24	保育内容表現（造形）	演習	1			■		○	○	*	森高光広	該当する
科目区分	領域及び保育内容の指導法に関する科目		保育内容の指導法（情報機器及び活用を含む）						担当形態		単独	
ディプロマ の 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									乳幼児は自ら生きていくための力を様々な経験や行動を通して獲得していく。5領域の中でも「造形」の学びは大切である。子どもの感性を育み主体性を大切にして、自らの感性を駆使して楽しく制作する大切さを再確認し、具体的な手立てを身につけることを目的とする。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。								○			
カリキュラム の 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。								○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○	○子どもの表現の多様性を知る ○子どもの表現や活動には個人差がある ○育てたい力や学びが実現できる制作や活動を展開や保育環境も踏まえて保る。		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
乳幼児の行動は「人間としての営み」としての初め取り組むことである。生きることを自ら獲得していく行動そのものである。そうした視点から子どもたちとかわる学びの中に「ものとのかわり」とともに「人とのかわり」がある。そうしたかわりの中で子ども達は「人間」と育つ。その行為は「造形行動」やその活動の中で多く確認できる。制作を通してこの授業では学ぶ。情報機器の保育での活用も理解する。				大人の考えや方法を教えることが保育や教育ではなくて、子どもが主体的に感じ、考えて行動すること見守る大人が身近にいることは大切である。子どもが主体的な人間に育つために、子どもの造形活動でも主体性を踏まえて援助ができるように、制作や活動の具体的な手立ての基礎を学び、教育現場でも応用できるための力を身につける。								
授業回数	授業計画								授業外学習及び準備等			
①	子どもの育ちの理解と体験的学び ☆作品画像各自保存、随時確認します 造形・図画工作について テキストから考える								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
②	乳児期から幼児期の造形的育ちと行動の理解-1 〈みること・見立てること〉								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
③	乳児期から幼児期の造形的育ちと行動の理解-2 〈さわること〉紙粘土①								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
④	乳児期から幼児期の造形的育ちと行動の理解-3 〈さわること〉紙粘土②								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑤	乳児期から幼児期の育ちと行動の理解-3 〈材質の違い〉								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑥	乳児期から幼児期の育ちと行動の理解-4 〈絵の具遊びから①〉								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑦	乳児期から幼児期の育ちと行動の理解-5 〈絵の具遊びから②〉組み合わせ								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑧	乳児期から幼児期の育ちと造形活動-1 〈描画と発達の関係 指絵〉								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑨	乳児期から幼児期の育ちと造形活動-2 〈描画と発達の関係 見立て遊び、情報機器の活用〉								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑩	乳児期から幼児期の育ちと造形活動-3 〈ポップアップ①、情報機器の活用〉								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑪	乳児期から幼児期の育ちと造形活動-4 〈ポップアップ②、情報機器の活用〉								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑫	子どもの意欲を引き出す工夫-1 〈発達を踏まえ五感を駆使したミニ絵本作①〉								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑬	子どもの意欲を引き出す工夫-1 〈発達を踏まえ五感を駆使したミニ絵本作②〉								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑭	子どもの意欲を引き出す工夫-1 〈発達を踏まえ五感を駆使したミニ絵本作③〉								◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚れてもよい服装のこと。◆授業のまとめ			
⑮	まとめ 子どもの成長、発達や興味・関心を基に、造形を計画し実施できる資質をより高めるための手立て 発表 展開指導案例								保育現場や授業で感じた質問事項を1つ以上考えておく。			
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考		欠席の場合、当日の課題レポートと欠席回分の制作の提出で加点します。締め切りについては要相談			
	評価に加えず	評価に加えず	35%	15%	35%	15%						
使用教科書	表現教育にはそんなこともできるのか―教師たちのフレキシブルなアプローチに学ぶ 鈴木幹雄、森高光広、他編著、森高光広・他(著) あいり出版 価格2420 ISBN-13: 978-4865550139					参考図書		『造形表現』竹井史編著、森高光広・他(著)、一藝社、2200円 ISBN-13: 978-4-86359-155-4				
学生へのメッセージ	楽しく制作することを通して、子どもの目線で考えて具体的な造形活動の援助ができるように学びます。					履修上の注意		課題は時間内提出を基本とします。制作した作品などの画像は各自スマホで保存します。ICT活用は随時します。				
実務経験と科目の関連	幼稚園での園児に対する造形活動や小学校低学年の図画工作の指導経験を活かし、系統性も踏まえて、子どもの育ちと行動の理解及び発達に応じた造形活動とその展開について具体的に伝える											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
27	幼児教育経営学	講義	2			■		○	○		星野敦子	該当しない
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む）					担当形態	単独
ディ'04 ホ'19との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。								○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。								○	1.法規や答申などと関連付けながら、保育制度の成り立ち及び現状についての知識を学ぶ。2.保育現場における具体的な事例に基づき、制度の仕組みや課題について深く考察する。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											
加'24 ホ'19との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。								○	《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									幼児教育制度、保育制度、子ども子育て支援新制度、地域・家庭との連携・園評価		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。								○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。								○			
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
1. 我が国および諸外国の幼児教育制度・保育制度の概要を知る。 2. 保育現場におけるの安全・危機管理について理解する。 3. 開かれた教育課程に基づく地域や家庭との連携の重要性を知る。						1.教育行政制度並びに保育制度の仕組みを理解し、説明できる。 2.保育制度に関わる法規の歴史的経緯と現状について理解し、説明できる。 3.近年の保育政策の動向と課題、並びに家庭・学校・社会との連携について理解し、説明できる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	幼稚園・保育所・子ども園の制度										テキスト第2章1・2・3項を通読	
②	教育基本法・関連法規と幼児教育・保育制度										テキスト第1章を通読	
③	諸外国の幼児教育・保育制度の動向										テキスト第4章を通読	
④	子ども子育て支援制度の概要										テキスト第11章1項を通読	
⑤	幼児教育・保育無償化の意義										テキスト第11章2項を通読	
⑥	子ども子育て支援制度と地域との連携幼児教育・保育無償化の意義										テキスト第11章1項、第4回授業の復習	
⑦	【グループワーク】地域・家庭との連携を考える①企画づくり										第6回授業の復習・企画案を考える	
⑧	【グループワーク】地域・家庭との連携を考える②発表準備										発表資料の作成と発表練習	
⑨	【グループワーク】地域・家庭との連携を考える③発表										発表と振り返り	
⑩	子どもの安全と危機管理										テキスト第6章4項を通読	
⑪	保育者の職務（義務・権利・責任）										テキスト第5章4・6項を通読	
⑫	保育者の研修・園評価のあり方										テキスト第5章5・7項、第12章2項を通読	
⑬	社会に開かれた園・保育所										テキスト第10章2・3項を通読	
⑭	保幼小接続の現状と課題										テキスト第11章3項を通読	
⑮	まとめ・子どもに関わる今日の課題（子どもの貧困を考える）										テキスト第6章6項を通読	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	50%	評価に加えず	評価に加えず	20%	20%	10%						
使用教科書	『「共創の時代」の教育制度論 幼児教育・保育から生涯学習まで』（学文社） 星野敦子（編著）桶田ゆかり・近藤有紀子（著）						参考図書		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、認定こども園教育・保育要領解説、最新保育資料（ミネルヴァ書房）			
学生へのメッセージ	アクティブラーニングを取り入れた授業を行います。積極的に参加してください。						履修上の注意					
実務経験と科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	卒業	幼2種	保育士		
30	保育・教育課程論	講義	2				■	○	○	○	狩野浩二	該当しない
科目区分		教育の基礎的理解に関する科目		必要事項		教育課程の意義および編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）					担当形態	単独
ディパ リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										教育課程概念の成立と教育学における教育課程研究の全体像を把握する。講義では、受講生による協働学修を取り入れ、ICTの活用、プレゼンテーション技法の習熟など、教員として最小限必要となる資質能力の育成を図る。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	
かわら リ-との 関連	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										教育課程・カリキュラム・子ども・学習・問題解決	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
○教育の社会的意義を理解する。 ○教育課程の編成原理を理解する。 ○教育課程の歴史を概観し子どもの発達との関係を理解する。 ○教育課程の編成基盤となる今日的課題について理解する。 ○協働学修に意欲的に取り組む。						○教育の社会的意義を理解している。 ○教育課程の編成原理を理解し、自らの学修に活かしている。 ○教育課程の歴史を俯瞰し、子どもの発達について考えることができる。 ○教育課程の編成基盤となる今日的課題について理解している。 ○仲間とともに課題を発見し、追究することができる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	ガイダンスと協働学修の展開/協働学修班づくり/協働学修計画の立案/担当する課題と疑問点の析出										テキスト全体の目次に目を通す。 担当する班の発表項目を検討する。	
②	序章 カリキュラムをなぜ学ぶのか/学びの経験の総体/捉える視点/なぜ学ぶのか—学校の公共性と教師の役割										テキスト序章を読む。 教育課程の役割について考察する。	
③	第1章 カリキュラムを学ぶために—教育の思想/古代ギリシアと中世ヨーロッパ/宗教改革/国民国家/20世紀における教育課程/教育課程の批評と編み直し										テキスト第1章を読む。 教育思想の展開を考える。	
④	第2章 教育課程の構成要素/学校・園の教育目標/教育内容/教育内容の組織原理/履修原理/教材										テキスト第2章を読む。 教育課程の構成要素を検討する。	
⑤	第3章 日本における教育課程の歴史的展開/戦前・戦時期/経験カリキュラム/教科カリキュラム/量から質へ/コンテンツからコンピテンシーへの転換										テキスト第3章を読む。 日本の教育課程史を概観する。	
⑥	第4章 カリキュラムの現代的動向/カリキュラム自由化/国際化・情報化・少子高齢化と低成長への対応										テキスト第4章を読む。 カリキュラムの現代的課題を考える。	
⑦	第5章 教師によるカリキュラムづくり—授業の省察とデザイン/担い手としての教師/省察とデザイン										テキスト第5章を読む。 教師の役割を考える。	
⑧	第6章 教師の学び、教師の省察と成長/知識と省察/新任教師/中堅教師/ベテラン教師/専門家としての教師										テキスト第6章を読む。 教師の成長について考える。	
⑨	第7章 教育評価の課題と可能性/教育評価の種類/評価に関する諸問題/教育評価の思想と歴史/指導要録/新しい評価法										テキスト第7章を読む。 教育評価の課題を考える。	
⑩	第8章 教師と子どもたちによってつくられる単元学習/カリキュラム編成の類型/経験カリキュラム										テキスト第8章を読む。 問題解決学習の系譜を概観する。	
⑪	第9章 子どもたちの多様性と学校での学びの経験/子どもの多様性/家庭の階層的要素/文化的背景/セクシュアリティ/カリキュラムの公共性										テキスト第9章を読む。 子どもの多様性について考える。	
⑫	第10章 隠れたカリキュラム/学校・園に潜在する人間形成/隠れたカリキュラムの研究/学校・園批判/隠れたカリキュラム										テキスト第10章を読む。 隠れたカリキュラムについて考える。	
⑬	終章 カリキュラムの探究と今後の課題/探究の概観/これからの課題										テキスト終章を読む。 これからの教育課程のあり方考える。	
⑭	補章 各学校の特色あるカリキュラム編成とカリキュラム評価—大正新教育運動										講義ノートを整理する。 子ども主体の学びを考察する。	
⑮	まとめ これからの時代の教育課程										全学修内容を省察する。 省察内容を文庫化する。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	30%	60%	評価に加えず	10%						
使用教科書	今井香里、佐藤英二、岩田一正、高井良健『子どもと教師のためのカリキュラム論』成文堂、2019年、2、400円（＋消費税）。					参考図書		幼稚園教育要領解説 文部科学省 保育所保育指針解説 厚生労働省 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説				
学生への メッセージ	仲間とともに創り、学ぶ経験に積極的に参画しましょう。					履修上の注意		特になし。				
実務経験と 科目の関連												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
33	教育相談の理論及び方法	演習	2	前期	後期	前期	後期				○	○	
科目区分		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	必要事項		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法							担当形態	単独
ディベロッパーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。											《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											幼児期における教育相談の特徴を把握し、相談援助の基本姿勢や技法について学ぶ。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○	環境状況を含む幅広い視点からのアセスメントをふまえ、連携を含む支援的なかわりについて学ぶ。	
かわいみディベロッパーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	環境状況を含む幅広い視点からのアセスメントをふまえ、連携を含む支援的なかわりについて学ぶ。	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	カウンセリングマインド ストレスアセスメント 不適応 精神疾患 発達障害	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				ストレス									
○教育相談の意義と理論を理解する				→教育相談の意義と課題がわかる									
○カウンセリングに関する基礎的事項を含め、教育相談を進める際に必要な基礎知識を理解する				→教育相談にかかわる心理学の基礎的な理論・概念がわかる									
○教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する				→子どもが抱える問題に気づき、把握する方法やカウンセリングの基礎的な姿勢や技法がわかる									
				→教育相談の進め方、それぞれの課題に対する理解、外部機関との連携の意義や必要性がわかる									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	オリエンテーション、教育相談 とは何か												
②	精神医学と臨床心理学と学校心理学												
③	心理社会的ストレスとは何か										復習として自分のこれまでの人生の中で感じたストレスとその対処方法について振り返ってみる。		
④	不適応と精神疾患										復習として自分や家族や友人などの示す行動や態度を振り返ってみて不適応行動や精神疾患の前兆になりえるものがないか考えてみる。		
⑤	発達障害										復習として自分や家族及び友人・知人の行動や態度を振り返ってみて発達障害の内容と健常者の行動や態度が程度差の問題であることに気づけるようにする		
⑥	臨床心理学の基礎理論1 精神力動理論												
⑦	臨床心理学の基礎理論2 認知行動理論												
⑧	臨床心理学の基礎理論3 人間性心理学												
⑨	臨床心理学の基礎理論4 コミュニティアプローチ・家族療法・ブリーフセラピー										復習としてブリーフセラピー実践を家族や友人にしてみる		
⑩	ロジャーズの3つの態度要件とカウンセリングマインド										復習として家族や友人に対してカウンセリングマインドの実践をしてみる		
⑪	アセスメントとは何か												
⑫	アセスメントの方法1・行動観察法												
⑬	アセスメントの方法2・面接法												
⑭	アセスメントの方法3・心理検査法 質問紙・作業検査・投影法												
⑮	愛着の世代間連鎖と虐待・外傷体験・喪失体験との関連												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考						
	60%	評価に加えず	30%			10%							
使用教科書	教育相談（Next教科書シリーズ）第2版： 津川律子 山口義枝 北村世都 編 弘文堂						参考図書	特になし					
学生へのメッセージ	講義が中心になりますが適宜、描画法や質問紙などの心理テストを実施して自己理解や自己分析を進めていく機会をお提供します。また自分の考えを持ち、伝え、相手の考えを尊重し、意欲的に参加してください。						履修上の注意	毎回の授業中に板書したことを必ずノートに取る。その内容が成績評価の1つになる。					
実務経験と科目の関連	中学校での心理相談員やメンタルクリニックでのインターカーとしての心理アセスメントの経験に基づき、子どもや子どもを取り巻く環境の問題や課題について理論的かつ実践的知識を教授する												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
34	保育・教職実践演習	演習	2				■	○	○	○	元木 廉	該当する	
科目区分		教育実践に関する科目									担当形態	単独	
ディ・ア ・リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》 ①これまでの授業や各種活動を通して学んだ学習成果が定着しているかを確認し、各自の課題の発見と実践力の向上を図る。授業内容としては具体的な教材や行事、保育・教育方法等を取り上げる。 ②効果的な学習成果を得る方法として、グループセッションと発表、模擬指導、フィールドワーク等の授業形態を取り入れる。 ③学習成果を確認するため、履修カルテを活用する。		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。												
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
かかわ ・リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》 ①保育者に求められる資質能力の確認 （履修カルテ・学習成果） ②学び続ける保育者 ③グループ活動（チーム学校） ④サービス・ラーニング		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入し学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。												
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○				
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
①保育者になるためにこれまで養ってきた使命感や情熱、人間性、価値観等、及び各科目で学んできた知識・技能等を踏まえ、「学びの軌跡の集大成」の授業とする。 ②将来、保育者になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、保育・教職生活をより円滑にスタートできるようにする。				①カルテの記載内容を踏まえて、自己の学習達成状況を把握しつつ、保育者としての強みや課題を理解する。講義・グループセッション活動等から、生涯学び続ける保育者の姿勢を身に付ける。 ②個人の学習活動を踏まえたグループセッションや模擬指導、フィールドワーク等に積極的に参加する。 ③アクティブラーニング、講義における双方向性を大切にし、主体的に能動的に対話をおとした授業を展開する。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	授業概要及び授業計画説明・履修カルテを用いた自己評価										講義・履修カルテ記入		
②	越谷保育専門学校先輩から学ぶ（GT 十文字女子大学学生・本校卒業生）										講義・グループセッション・演習		
③	幼保小連携教育について ～研究発表発表資料・昨年度の実践から学ぶ～										講義・グループセッション・演習		
④	国際理解教育・版画教育（GT 日本語学校教員・日本版画院委員）										講義・グループセッション・演習		
⑤	幼児教育と宗教について ～ワタナベ学園の建学精神から学ぶ～（GT キリスト新聞社長）										講義・グループセッション・演習		
⑥	卒業に向けた行事を考える① 連風骨組づくり（GT 元公立小学校長）										講義・グループセッション・実習		
⑦	子ども理解と保育実践① ～テキストを活用してグループワークで学ぶ～										講義・グループセッション・演習		
⑧	乳幼児教育の重要性・漢字教育の実践（GT 元公立小学校長）										講義・グループセッション・演習		
⑨	保育者・教育者の労働環境と働き方改革について										講義・グループセッション・演習		
⑩	保育環境のICT推進について（GT NPO代表）										講義・グループセッション・演習		
⑪	子ども理解と保育実践② ～テキストを活用してグループワークで学ぶ～										講義・グループセッション・演習		
⑫	子どもの歯磨き講座（GT 歯科医師）										講義・グループセッション・演習		
⑬	話し方教室～コミュニケーション・電話の対応～（GT マナーインストラクター）										講義・グループセッション・実習		
⑭	0歳から100歳まで子ども達と共に～ちるいはの実践紹介～（GT こども園代表）										講義・グループセッション・演習		
⑮	健康講座 ～お笑いダイエットと健康～（GT ダイエットインストラクター）										講義・グループセッション・演習		
⑯	子どもの健康と安全 ～保育所の日常から～（GT 保育園長）										講義・グループセッション・演習		
⑰	子どもの貧困について（GT NPO法人代表）										講義・グループセッション・演習		
⑱	電話相談の現状と課題・児童相談所の役割（GT 臨床心理士）										講義・グループセッション・演習		
⑲	自分自身のキャリア教育・ジョハリの窓を知る										講義・グループセッション・演習		
⑳	子どもたちのキャリア教育 ～キッズニアから学ぶ～（GT キッズニア東京）										講義・グループセッション・演習		
㉑	保育者が知っておくべき年金及び家計管理の知識 ～イデコ・ニーサ・年金を知る～										講義・グループセッション・演習		
㉒	卒業に向けた行事を考える② 版画 版紙制作										講義・グループセッション・実習		
㉓	越境学習による教育の可能性（GT 教育関連企業）										講義・グループセッション・演習		
㉔	卒業に向けた行事を考える③ 版画 刷り										講義・グループセッション・実習		
㉕	防災教育について ～東日本大震災・能登地震から学ぶ～										講義・グループセッション・演習		
㉖	卒業に向けた行事を考える④ 連風準備・看板づくり										講義・グループセッション・実習		
㉗	卒業に向けた行事を考える⑤ 連風リハーサル										講義・模擬指導・実習		
㉘	卒業に向けた行事を考える⑥ 連風行事（サービ斯拉ーニングの視点を持った協力校訪問）										講義・フィールドワーク・実習		
㉙	指導要録について・連風行事の振り返り										講義・グループセッション・演習		
㉚	履修カルテ記入・学習の跡を残す ～学びの冊子づくり～										講義・履修カルテ記入		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考		①保育者としての専門的知識・実践力・発表力・事務能力・コミュニケーション能力等と講義中の主体的・対話的・積極的な態度を評価する。 ②幼保小連携等で協力校に訪問する際、身だしなみ等に配慮すること。 ③レポートは、授業の配布資料および履修カルテの作成を含む。				
	評価に加えず	評価に加えず	30%	30%	10%	30%							
使用教科書	保育・教職実践演習 実践力のある保育者を目指して 朝文書林					参考図書		幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 ※チームスで適宜情報を発信します。双方向のやり取りを期待しています。					
学生への メッセージ	今までの授業の集大成となります。授業をとおして各自の保育者像を確立する。ゲストティーチャーの関与で日程は変更になる可能性があります。					履修上の注意		15週で週2の30コマの授業。原則、2年次前期までに開講する「教職に関する科目」及び「保育実習ⅠA」の科目を履修しなければ、受講できません。					
実務経験と 科目の関連	隣接校種である小学校教諭として、幼保小連携教育を行った経験をもとに、接続カリキュラムや幼保小連携の実態について言及し、理論的・実践的知識を教授する。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
37	教育実習Ⅱ	実習	2			9月		○	○		渋谷るり子 ほか専任教員	ホームページ一覧表参照
科目区分		教育実践に関する科目										
ディグ リ アとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	幼稚園教諭として求められている知識・技術について、『観察と参加』を通して実践的に学びます。視点をもって観察し、省察しながら自らの保育者像を思い描き、今後の学びに結び付けていくことに実習の意義があります。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
かわい しとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○	《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	観察、参加、部分実習 補助的役割・実践	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。										部分実習指導案 幼稚園教諭の職務 自己評価	
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
○幼稚園教諭として必要な『知識・技術』について実践的に学ぶ。 ○保育者の指導を受け、実習内容の理解を深める。				実習の意義や目的を理解し、準備する。 幼稚園教諭としての職務を担当保育者の指導のもと、補助的、部分的に実践する。 実習について省察し、自己評価できる。 Ⅱ期の実習に向けた自己課題を見つける。								
実習内容											準備等	
《実習の観点》 ・保育の流れを理解する ・学校の授業等で学んだ理論と知識を実際の保育との結びつきを考え実践する ・子どもに親しみ、接し方になじむ ・一人ひとりの子どもの行動を観察しその子に合わせた援助を理解する ・指導計画案を立案し、部分実習及び責任実習を体験し、保育を総合的に理解する ・幼稚園教諭に求められる資質、能力、技術に照らし合わせ、自己課題を明確にする ・預かり保育への参加等により、地域における幼稚園の役割についても理解する											《実習までの事前学習》 ・オリエンテーションで知った園の方針を繰り返し読み、理解を深めておく ・自己管理として食生活の見直し、睡眠時間の確保を行い、体調を整えるようにする ・心の不安を取り除くため、学校の担当講師や友人と情報交換をする ・ピアノ楽譜や保育教材等は事前に練習や準備をしておく （ピアノの楽譜は必ず事前にいただき練習をしておくこと） ・保育教材の準備をする 手あそび、紙芝居、絵本などは自分の物として準備する ・部分実習や責任実習で実施したい活動内容をオリエンテーション時に伝えられるように準備する。	
《実習の形態》 部分実習および責任実習												
《教育実習Ⅱの評価》 ・実習園からの評価 60% ・実習記録の内容・態度・実習関係書類の提出状況等 40%として評価する。												
《事後指導》 実習終了後は、事後指導・個人面談を受け、実習で学んだ事、反省した事などを後期の学びにつなげる。												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	—	—	—	—	—	—						
使用教科書	なし						参考図書		実習の日誌と指導案 サポートブック（ナツメ社） 幼稚園教育要領解説 実習の手引き（学校作成）			
学生への メッセージ	自分はどんな保育者になりたいのか、何が足りないのかを自分自身に問いだし、決意を新たに今後の学習に繋げていきましょう						履修上の注意		教育実習Ⅰの単位を修得していない場合、教育実習Ⅱを実施する事はできない。			
実務経験と 科目の関連	幼稚園（幼保連携型認定こども園）に勤務する幼稚園教諭（保育教諭）が、これまでの実務経験を活かして、幼稚園で実習を指導する											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士				
				前期	後期	前期	後期							
41	子ども家庭支援論	講義	2			■		○		○	石河信雅			
科目区分	保育の本質・目的に関する科目											担当形態	単独	
ディパ ホリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。											○	《授業の概要》 現代の子育て家庭を取り巻く状況について知り、保育の専門性を背景とした子ども家庭支援について、その特性と展開を理解する。事例を通して、保護者の心情やニーズについて考え、具体的な方法についてアクティブラーニングやロールプレイを用いて実践的な技術を身に付けることを目指す。	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。													
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											○		
かきゅう ホリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。												《キーワード》 共感的理解、傾聴、受容、ラポート、虐待、特別な支援を要する子、多様なニーズ、コミュニケーションスキル	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。													
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											○		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》 ①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。								《到達目標（行動目標）》 1 現代の多様な家庭の在り方、様々な価値観を理解し、受け入れる姿勢を持つ 2 関係機関や支援体制等の社会資源を知り、必要に応じた連携の在り方を理解する 3 地域との関わり、保護者との関わりで何が出来るか自分なりに答えられる						
授業回数	授業計画											授業外学習及び準備等		
①	オリエンテーション 子ども家庭支援とは											自分自身が育った家庭について考えてみる		
②	子どもと家庭を取り巻く環境											少子高齢化・核家族化の進行が子育てへお影響を与えているか考える		
③	保育者が実践する子育て支援											保育所実習を振り返り、保育者と保護者との関わりについて復習する		
④	子育て家庭を支えるほ法、制度及び社会資源											子ども家庭福祉で学んだ子育て支援に関する事業について復習する		
⑤	保育者に求められる基本的態度及び基本技術1（理論及びアクティブラーニング）											自分自身のコミュニケーションにおける癖等について考えてみる		
⑥	保育者に求められる基本的態度及び基本技術2（ロールプレイ）											自分が困ったときに話したい人とはどのような人か考えておく		
⑦	保育者に求められる基本的態度及び基本技術3（アクティブラーニング・ロールプレイ）											幼児の発達過程を復習しておく。		
⑧	保育者に求められる基本的態度及び基本技術4（理論・ロールプレイ）											実習先の保育所で行われていた「子育て支援」を振り返ってみよう		
⑨	保育者が行う子ども家庭支援の実際											ひとり親家庭・ステップファミリー等予習で調べておく		
⑩	様々な子ども家庭支援の理解と支援											虐待・ネグレクト等子どもの生きづらさについて予習で調べておく		
⑪	発達に障害を抱えるこ、子どもの貧困等への理解と家庭支援											発達障害等について復習しておく		
⑫	私たち身近な子ども家庭支援											自分の住む街での子育て支援に関する資料を集める		
⑬	私の地域の子育て支援の実際（調べたことのプレゼンテーション）											プレゼンテーションの準備		
⑭	保育と子ども家庭支援											より良い支援をするために必要なことを考える		
⑮	これまでの学びの振り返りを行う。											これまでの学びを振り返っておく。		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考		試験期間に到達試験を行う。					
	50%	10%	20%	評価に加えず	評価に加えず	20%								
使用教科書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育解説：「あしたの君へ」 柚木裕子著						参考図書	授業内において適宜紹介する						
学生へのメッセージ	子ども家庭支援は、保育者の資質・能力に大きくかわってきます。共に学び合い資質・能力を高めて行きましよう。						履修上の注意	課題意識をもって授業に臨んで欲しい						
実務経験と科目の関連	小学校長、公立幼稚園長、教育委員会、カウンセリング実践・研究等の実績を踏まえ、人の成立から人間の在り方までを実践と理論に基づいて実践力が身に付くように授業を行う。													

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件				授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
42	社会的養護Ⅰ	講義	2			■		○		○	船澤修一	該当する	
科目区分		保育の本質・目的に関する科目									担当形態	単独	
ディ・ア ボ・リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										①現代社会の構造と養護問題講義②要支援児童と家庭問題解決③養護問題をライフデザインと関連させて解説する④社会的養護支援のありかたを解説⑤施設種別と概要⑥居宅支援講義⑦相談機関講義⑧支援プロセスと専門職講義⑨アセスメントと個別自立支援計画⑩家庭的養護支援講義⑪チームアプローチとネットワーキング・関係諸科学説明		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
かきゅう ボ・リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	社会的養護 家庭的養護 里親 施設 ネットワーク 自己実現 脱施設	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											チームアプローチ	
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》							
①現代社会の構造的課題を理解する。②自立におけるライフデザインの重要性について理解する。③社会的養護問題と支援の方法を理解する。④施設支援と地域生活支援の相違を理解する。⑤施設の種別を知る。⑥地域支援の概要を理解する。⑦家庭的養護支援の形態を理解する。⑧アセスメントと個別自立支援計画作成と活用の必要性を理解する。⑨専門職とその技術を理解する。⑩チームアプローチとネットワーキングを理解する。⑪権利擁護と仕組みを理解する。⑫関連諸科学を理解する。						①現代社会の構造的課題を説明できる。②社会的養護支援と支援のあり方を説明できる。③自立支援をライフデザインに関連付けて説明できる。④施設の種別を説明できる。⑤支援を形態別に説明できる。⑥アセスメントや個別自立支援計画の実施や活用ができる。⑦専門職とその役割を説明できる。⑧チームアプローチとネットワーキングについて説明できる。⑨権利擁護を理解し、仕組みを説明できる。⑩関連諸科学職種を説明できる。⑪里親推進などの今後の課題を説明できる。							
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	社会病理としての社会的養護問題Ⅰ子どもと家族のライフデザインと社会（講義、テキスト、スライド、資料）										第1講通読読子ども関係記事用意		
②	社会病理としての社会的養護問題Ⅱ子どもと家庭（講義、テキスト、資料）										第1講通読家庭関係記事用意		
③	社会的養護支援の目的：関連法から（講義、テキスト、資料）										第3講通読		
④	社会的養護支援の方法1：養護問題の発生と相談機関（講義、テキスト、資料）										第4章第3節通読		
⑤	社会的養護支援の方法2：相談支援の流れと対応機関・職種（講義、テキスト、資料）										第6・7講通読		
⑥	社会的養護支援の方法3：アセスメントと支援プログラム（講義、テキスト、資料）										第8講通読		
⑦	社会的養護支援の方法4：ライフデザインから 施設養護と家庭的養護（講義、テキスト、資料）										第4講通読		
⑧	支援の方法5：家庭的養護支援の実際（講義、テキスト、VTR、資料）										第10講通読		
⑨	社会的養護支援の方法6：施設種別と支援の実際（講義、テキスト、VTR、資料）										第9・10・13講通読		
⑩	社会的養護支援の方法7：施設種別と支援の実際②（講義、テキスト、VTR、資料）										第9・10・13講通読 レポート課題提示		
⑪	社会的養護支援の方法8：自立支援の実際（講義、テキスト、資料、VTR）										第10章通読		
⑫	社会的養護支援の方法9：ライフデザイン チームアプローチとネットワーキング（講義、資料）										第11講通読		
⑬	社会的養護支援の方法10：権利擁護（講義、テキスト、資料）										第3講通読		
⑭	社会的養護支援と関連諸科学（講義、資料）										第11・12通読		
⑮	社会的養護支援の今後の課題										第15講通読		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	70%	評価に加えず	20%	評価に加えず	評価に加えず	10%							
使用教科書	新・基本保育シリーズ6 社会的養護Ⅰ 中央法規					参考図書		適宜紹介します。					
学生への メッセージ	社会的養護支援の実際と支援のあり方について理解し、感染拡大 禍の課題も理解し、期待される支援者になろう。					履修上の注意		考えること、議論することを求めます。					
実務経験と 科目の関連	児童発達支援施設（早期療育）の相談、アセスメント、療育、ネットワーキングの経験から、対象者の思い、専門支援技術・方法（チームアプローチ）、連携を応用般化できるよう実践的、理論的に教授する。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
43	自立支援とライフデザイン	講義	2					■	選択		*	船澤修一	該当する
科目区分		保育の本質・目的に関する科目										担当形態	単独
ディ パ ボ リ タ - と の 関 連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										多様性、自己覚知、自己実現、自立を ライフデザインの前提として理解す る。学際的支援とライフデザインにつ いて理解する。当事者のライフデザ インについて理解し支援スキルを身に つける。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。												
かわ ら ボ リ タ - と の 関 連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										ライフデザイン 多様性 自立支援 自己実現 発達 アセスメント 家族 メンバーの自立と家族の自立 協働と 連携		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。												
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》							
①ライフデザインの意味・意義を理解する。②多様性社会について理解する。③自己覚知について理解する。④自立支援をライフデザインとして理解する。⑤協働、連携、必要な支援技術と自立支援について理解する。⑥当事者の思いと体験からライフデザインについて理解する。						①自立支援を、ライフデザインから理解できる。②多様性社会、自己実現、自己覚知とライフデザインの関連性を説明できる。③科学的アセスメントに基づく自立支援計画をライフデザインと関連付けて作成できる。④チームアプローチ、ネットワーキングを自立支援の方法として理解できる。⑤当事者の肯定的体験、困難体験をライフデザインの課題として理解できる。							
授業計画												授業外学習及び準備等	
①	誕生から死まで 発達・生活・人生 ライフヒストリー概観										レジュメ・資料参照		
②	子ども・親・家庭のライフデザイン										レジュメ・資料参照		
③	社会環境とライフデザイン										報道記事・資料参照		
④	保育ニーズとライフデザイン										資料参照		
⑤	社会的養護問題整理										社会的養護テキスト参照		
⑥	社会的養護問題とライフデザイン										資料参照		
⑦	子どもの発達とライフデザイン										レジュメ・資料参照		
⑧	子どもの発達評価とライフデザイン（実践体験）										資料通読		
⑨	子ども・家族のライフデザインと自立支援計画										資料通読		
⑩	チームアプローチと自立支援										子ども家庭福祉テキスト参照		
⑪	ネットワーキングと自立支援										子ども家庭福祉テキスト参照		
⑫	支援が必要な子どもと家族のニーズ1（当事者とのコミュニケーションを通じて）										資料通読		
⑬	支援が必要な子どもと家族のニーズ2（専門職とのコミュニケーションを通じて）										資料通読		
⑭	保育士の自己実現とライフデザイン										資料通読		
⑮	多様性と自分らしく自己実現のためのライフデザインまとめ										レポート通読		
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
		60%	評価に加えず	30%	評価に加えず	評価に加えず	10%						
使用教科書		子ども家庭福祉、社会的養護で使用したテキスト						参考図書		ライフデザイン学 ライフデザイン学第2版 誠信書房			
学生への メッセージ		多様性が尊重される社会において大切なのは「私らしく」「あなたらしく」、ライフデザインが描ける私、保育者目指してください。						履修上の注意		アクティブラーニングの授業です。			
実務経験と 科目の関連		多様性や自己実現、自立、学際的支援とライフデザインについて理解し、当事者のライフデザインについて支援スキルを身につけられるよう、事例を提示し、講義を通して教授する。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
				前期	後期	前期	後期					
46	子どもの食と栄養A	演習	1			■		○		○	佐々木優美	該当する
科目区分		保育の対象の理解に関する科目									担当形態	単独
ディパ リタとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										小児期の発達・成長に必要な栄養素や、適切な食事形態・内容について講じる。また、調理実習を行い、離乳食や幼児食の基本について具体的に説明をする。	
かわら りとの 関連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○	《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										食育 食生活 健康 発達 給食 調理実習	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○		
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
保育者として、子どもの成長や発達に必要な食生活に関する知識を身に付ける。子どもの発達段階に合わせた適切な食事内容を理解する。栄養教材の作成や調理実習を通じて、食育を実践するために必要な技術を習得する。						1.子どもの発達段階に合わせた食事形態、栄養計画を理解できる 2.食中毒やアレルギー、誤嚥などの課題に対し、衛生面・安全面へ配慮する必要性を理解し実践できる 3.子どもを取り巻く環境を理解し、保育者として適切な課題解決策を他者へ説明できる 4.食育の基本を理解し、わかりやすい栄養指導教材や媒体を作成できる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション、子どもの健康と食生活の意義										テキストp9-15を通読しておく	
②	栄養に関する基本的知識（5大栄養素）										主要栄養素の種類とその機能について復習する	
③	バランスの良い食事とは										小テスト実施（栄養素について） 各栄養素の代謝経路について整理する	
④	【食育実践活動】稲の植え付け										保育所給食の給与栄養目標量についてまとめる	
⑤	3色食品群の媒体作成（グループワーク）										稲の絵日記を描く	
⑥	3色食品群の媒体作成（グループワーク）、稲の観察1										3色食品群の媒体を完成させる	
⑦	妊娠・授乳期・乳児期の栄養（講義）										p.66を通読し、調乳操作を予習する	
⑧	【調理実習】調乳操作、離乳食の試食										レポートをまとめる	
⑨	乳児期の栄養（離乳食模型・調理器具の観察、動画鑑賞）、稲の観察2										レポートをまとめる	
⑩	幼児期の栄養と食生活（講義）										pp.77-81を通読する。	
⑪	幼児期の食生活における問題と対応を考える（AL）										pp.82-83を通読する。	
⑫	【調理実習】幼児期の栄養 カレーライス、野菜クッキー										エプロン・三角巾持参 レポート作成、次回提出	
⑬	食育活動の指導案作成、稲の観察3										授業内に終わらなかった場合、期日までに指導案を完成させる。	
⑭	学童期の栄養と食生活（講義）										pp.84-90を通読する。	
⑮	【食育実践活動】スイカ割り、流しそうめん										汚れても良い格好で参加すること。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	50%	10%	10%	10%	10%	10%						
使用教科書	新・子どもの食と栄養（教育情報出版） 編著 今津屋直子、久藤麻子						参考図書		赤ちゃんのための補完食入門 著 相川 晴 その他随時紹介します			
学生へのメッセージ	食は子どもの発達・成長と密接に関わる重要なものです。また、時にはアレルギーや誤嚥などの事故に繋がる場合もあります。時代とともに食に対する考えや形式が多様化していくなかで、保育者として必要な心構えや技術・知識を学びましょう。						履修上の注意		調理実習の際は衛生面に留意し、華美なメイクやマニキュアは避けてください。服装は肌の露出部分が少ない物、動きやすい格好を心がけましょう。			
実務経験と科目の関連	食育教室や乳幼児健診などにおける指導経験を活かして、保護者視点での悩みやニーズを汲み取り、乳幼児に必要な栄養素や適切な食事について、演習を通して教授する。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
47	子どもの食と栄養B	演習	1				■	○		○	佐々木優美	該当する
科目区分		保育の対象の理解に関する科目									担当形態	単独
ディ プロ マとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										食育の基本を踏まえたうえで、実践的な指導案を講じていく。発表や調理実習の計画作成を通じて考える力やコミュニケーション力を養います。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
カ リ ア パスとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○	《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										食育 食生活 健康 発達 給食 調理実習	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○		
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
保育者として、子どもの成長や発達に必要な食生活に関する知識を身に付ける。一般的な保育施設ばかりではなく、さまざまな児童福祉施設の給食について説明できる。栄養教材の作成や調理実習を通じて、食育を実践するために必要な技術を習得する。						1.食育教材の作成、食育指導の実践力を習得する 2.食中毒やアレルギー、誤嚥などの課題に対し、衛生面・安全面へ配慮する必要性を理解し実践できる 3.児童福祉施設について理解し、個別対応が必要な子どもに対する応用力を身に付ける 4.さまざまな食事の役割について理解を深め、食育を通じた教育効果について推察できる						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	埼玉県の郷土料理マップの製作①										ビッグマックス、色鉛筆持参 埼玉県の郷土料理を調べておく	
②	埼玉県の郷土料理マップの製作②										ビッグマックス、色鉛筆持参 作業が終わらなければ授業外で進める	
③	食育の基本と内容、食育計画の立て方、おやつレシピの作成										pp.109-119を通読しておく	
④	【食育実践活動】稲の収穫、脱穀										汚れても良い服装	
⑤	【調理実習】保育所の間食（グループ別献立）										エフロン・三角巾持参 レポート作成、次回提出	
⑥	食中毒の予防と衛生管理（講義）										pp.146-155を通読しておく	
⑦	【食育実践活動】廃材を利用した食育活動 草木染め、野菜スタンプ										クレヨン、色鉛筆など 汚れても良い服装	
⑧	食育だよりの作成										パソコン室使用 作業が終わらなければ授業外で進める	
⑨	児童福祉施設や家庭における食事と栄養（講義）										pp.132-143を通読しておく	
⑩	食育媒体の活用と実践、食育紙芝居の製作										ビッグマックス、色鉛筆持参	
⑪	食育紙芝居の製作										ビッグマックス、色鉛筆持参 作業が終わらなければ授業外で進める	
⑫	食育紙芝居の発表会										発表会の振り返り、相互評価表を完成させる	
⑬	クッキング体験計画書の作成										pp.122-125を通読しておく	
⑭	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（講義）										pp.158-175を通読しておく	
⑮	【調理実習】クッキング体験 調理実習										エフロン・三角巾持参 レポート作成	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	40%	評価に加えず	10%	10%	20%	20%						
使用教科書	新・子どもの食と栄養（教育情報出版） 編著 今津屋直子、久藤麻子						参考図書		赤ちゃんのための補完食入門 著 相川 晴 その他随時紹介します			
学生への メッセージ	食育に関する基本的な知識から実践力を身に付けることが目的です。食は命の大切さや喜び、美味しさを体感できるものですが、同時に衛生面や安全面への配慮が必要です。保育者に求められる資質や能力を伸ばしましょう。						履修上の注意		子どもの食と栄養Aの単位修得が履修の条件です。調理実習の際は衛生面に留意し、華美なメイクやマニキュアは避けてください。服装は肌の露出部分が少ない物、動きやすい格好を心がけましょう。			
実務経験と 科目の関連	食育教室や乳幼児健診などにおける指導経験を活かして、保護者視点での悩みやニーズを汲み取り、現場で活かせる実践力を伸ばしていきます。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士		
48	教育心理学	講義	2				■	選択		*	殿塚貴史	該当する
科目区分		保育の対象の理解に関する科目									担当形態	単独
ディパ ボリ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										乳幼児期を中心とした保育、教育に関係する心理学からの知見を概説する。さらに、子どもたちが生き生きと楽しく『知る』または『学ぶ』ための教育的なはたらきかけについて学習者と共に考察していく	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
かわら ボリ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ『専門教育科目』とに分け、編成する。									○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。											
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	学習 記憶 認知 パーソナリティ 知能 感情・欲求・動機付け	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
子どもが生活や遊びのなかで主体的に学ぶことを支えるために、心身の発達過程を理解し、学習のメカニズム等に関する基本的な知識を身につける。 また、クラス運営や個に応じた教育的対応を考察する力を身につける。				・子どもの発達過程や個性に即した教育的対応を考えられる。 ・学習行動のしくみについて説明できる。 ・保育、教育場面における評価について具体的に述べられる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション 教育心理学とは何か											
②	学習心理学とは何か① 条件づけ理論 古典的条件付け オペラント条件付け トールマンの認知説											
③	学習心理学とは何か② 観察学習と自己効力感											
④	学習心理学とは何か③ 回避と逃避 学習性無力感											
⑤	記憶の心理学① 記憶とは何か 感覚記憶 短期記憶 長期記憶											
⑥	記憶の心理学② 忘却 記憶の変容											
⑦	パーソナリティ心理学とは何か① 特性論と類型論											
⑧	パーソナリティ心理学とは何か② S.フロイトの理論 C.R.ロジャース野理論											
⑨	パーソナリティ心理学とは何か③ 性格検査											
⑩	知能とは何か 知能検査 発達検査											
⑪	感情・欲求とは何か											
⑫	動機づけとは何か											
⑬	感覚・知覚・認知とは何か											
⑭	社会心理学と教育との関連① 対人認知 ビグマリオン効果 ハロー効果											
⑮	社会心理学と教育との関連② 帰属理論 認知的整合性理論 心理的リアクタンス理論											
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	60%	評価に加えず	30%	評価に加えず	評価に加えず	10%						
使用教科書	未定					参考図書		特になし				
学生へのメッセージ	講義が中心になりますが適宜、描画法や質問紙などの心理テストを実施して自己理解や自己分析を進めていく機会をお聞かせします。また自分の考えを持ち、伝え、相手の考えを尊重し、意欲的に参加してください。					履修上の注意		毎回の授業中に板書したことを必ずノートに取る。その内容が成績評価の1つになる。				
実務経験と科目の関連	中学校での心理相談員やメンタルクリニックでのインターカーとしての心理アセスメントの経験に基づき、子どもや子どもを取り巻く環境の問題や課題について理論的かつ実践的知識を教授する											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
49	保育内容総論	演習	1					■	○		○	石河信雅	
科目区分	保育の内容・方法に関する科目											担当形態	単独
ディパ リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。												《授業の概要》
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											○	保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と「保育の内容」の関連を説明する。今まで学んできた理論及び実習体験、また現場での事例等を通して保育内容について総合的に理解できるよう説明する。
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。											○	
かわら り-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。											○	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。											1 保育所保育指針の重要性 2 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 3 各領域との相互関係	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》							
保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや・生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育場面で、各領域が統合して行われる実態を理解し、保育実践にいかにか臨むかを事例に基づきながら学んでいく。						1.保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園に関する基本事項を理解する。 2.子どもの発達と保育内容との関連について理解する。 3.各領域と教育・保育内容について理解し、実際の保育現場での在り方を理解する。 4.教育・保育の実態を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を見直すことができる。							
授業回数	授業計画											授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション：保育内容総論の学びの意義について											シラバスを読み授業への心構えを作っておく	
②	幼稚園教育要領を概観し、「論」と「実践」の在り方について。											幼稚園教育要領を読んでおく	
③	保育所保育指針を概観し、「論」と「実践」の在り方について											保育所保育指針を読んでおく	
④	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を概観し、「論」と「実践」の在り方について											教育・保育要領を読んでおく	
⑤	各年齢層の保育を遊びを通して学ぶ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を中心として											幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について、再考しておく	
⑥	幼児期の人間関係をコミュニケーションに着目して学ぶ											コミュニケーションとは何か調べる	
⑦	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ1											素話の作成について素案の資料収集をする	
⑧	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ2											素話の作成について素案の資料収集をする	
⑨	絵本・素話をグループワークを通して学ぶ・学びの成果を発表する3											発表方法のより良い方法について調べる	
⑩	望ましい保育者像について											目指すべき保育者像につて文献等で調べる	
⑪	保育をめぐる最近の動向について											保育をめぐる最近の動向について調べる	
⑫	多様性を重視した保育について											発達障害等について調べる	
⑬	幼児の発育・発達について											幼児の発育・発達について調べる	
⑭	保幼小の連携について											保幼小の連携について調べておく	
⑮	これからの保育に求められるものについて											これからの保育について調べる	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	50%	10%	評価に加えず	評価に加えず	20%	20%							
使用教科書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育解説						参考図書		授業内において適宜紹介する				
学生への メッセージ	保育内容総論は、これまでの学びの集約として保育者の資質・能力に大きくかわってきます。共に学び合い資質・能力を高めて行きましょう。						履修上の注意		課題意識をもって授業に臨んで欲しい				
実務経験と 科目の関連	小学校長、公立幼稚園長、教育委員会、カウンセリング実践・研究等の実績を踏まえ、人の成立から人間の在り方までを実践と理論に基づいて実践力が身に付くように授業を行う。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1 年		2 年		卒 業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
51	乳児保育Ⅱ	演習	1			■		○		○	百名真紀子	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独
ディ・ア ボ・リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	乳児保育の基礎知識を基に、さらに理解を深め実践力を身に付けるように実施する。発育や発達を踏まえた支援、関わり、配慮を理解し、生活・遊びを具体化するための知識・技能、計画の作成を明らかにする。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
かきう ボ・リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○	発育・発達の過程 特性を踏まえた援助や関わり 養護と教育の一体性 生活や遊び保育の方法及び環境 配慮の実践 計画の作成の具体化	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○		
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
①乳児保育の基本を理解する。				①乳児保育の基本を理解して、具体的に説明する事ができる。 ②乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際を知り、応用することができる。 ③乳児保育における配慮の実際について実施する事が出来る。 ④乳児保育における計画の実際を知り、応用することができる。								
②乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際を知る。												
③乳児保育における配慮の実際について知る。												
④乳児保育における計画の実際を知る。												
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	授業計画 学生の学習目標設定 保育実習を体験して感じた事を発表する										教科書通読	
②	だっこのしかた・おんぶのしかた・・・だっこの実習 蝶結び実習（60センチのリボン用意）										教科書（P130～133）通読	
③	だっこのしかた・おんぶのしかた・・・おんぶの実習										教科書（P134～135）通読	
④	乳児の衣服の基礎知識・・・衣服の着せ方・脱がせ方実習							小テスト			教科書（P136～139）通読	
⑤	おむつ替えと「おむつはずれ」・・・おむつを変える実習										教科書（P140～143）通読	
⑥	授乳のしかたとその準備・・・授乳の実習										教科書（P144～147）通読	
⑦	離乳食の基礎知識・・・離乳に向けた食事の進め方を知る							小テスト			教科書（P148～153）通読	
⑧	沐浴のしかた・清拭のしかた・・・沐浴の実習										教科書（P154～157）通読	
⑨	保育環境の衛生管理・・・子どもの生活の場を清潔に保つために（手の洗い方）										教科書（P158～159）通読	
⑩	かみつき・ひっかきへの対応・・・トラブルの背景と保護者との連携について 小テスト										教科書（P160～161）通読	
⑪	乳児発育における安全管理①・・・乳児期特有の病気とくすりの扱いを学ぶ 予約依頼表を書く										教科書（P162～165）通読	
⑫	乳児保育における安全管理②・・・乳児を事件・事故から守る方法を知る										教科書（P166～173）通読	
⑬	連絡帳の書き方・・・子どもの育ちを保護者とわかち合う							小テスト			教科書（P174～181）通読	
⑭	長期指導計画と短期指導計画・・・月案を実際に書いてみる										資料配布	
⑮	個別指導計画と集団の指導計画・・・週案を実際に書いてみる										資料配布	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
	50%	20%	15%	評価に加えず	評価に加えず	15%						
使用教科書	はじめて学ぶ乳児保育（同文書院）						参考図書		保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
学生への メッセージ	子どもが大好きという豊かな人間性と、子どもの行動を科学的に分析できる観察力と推論力を身につけてほしい。						履修上の注意		教科書の熟読・レポート提出期限の厳守			
実務経験と 科目の関連	保育所・福祉施設勤務を経験し、発達相談員である経験を基に乳児保育の実態について言及し、乳児保育の重要性と乳児保育を担う心と知識、技術を備えた保育者を育てていく為に理論的・実践的知識を教授する。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1 年		2 年		卒 業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
52	社会的養護Ⅱ	演習	1					■	○		○	木村康平	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独
ディパ リタとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											社会的養護における子どもの理解と支援の具体的方法を事例を通して講義をします。生活の中で子どもへのアセスメントと自立支援計画をどのように立てていくか、そして養育における専門的知識や子どもの見立てや援助技術の実践に関する理解を深め、養育者としての心構えや自己理解に関する講義も行います。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
かわい みとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○	《キーワード》	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											権利擁護、児童虐待、児童福祉施設、家庭的養護、生活の中での治療的養育、児童自立支援計画、アセスメント、アタッチメント、発達障がい。	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》							
①社会的養護における子どもの理解と権利擁護、養育者としての姿について理解する。②子どもの発達段階を理解し、生活の中での治療的養育について学ぶ。③社会的養護における計画・記録・自己評価の実践について理解する。④ソーシャルワークの方法及び技術について理解する。⑤社会的養護における児童虐待の防止と家庭支援について理解する。						①社会的養護の現状と子どもの入所に至る背景について説明ができる。②生活の中での子どもの現状把握をし、成育歴を含めた自立支援計画の立案ができるようになる。③子どもの権利擁護と養育者としての役割や子どもを育てるということについて説明できるとともに、実践に応用することができる。							
授業回数											授業外学習及び準備等		
①	・社会的養護とは ・様々な児童福祉施設を知る										教科書の該当箇所の通読		
②	・子どもを知る ・事例を知る										教科書の該当箇所の通読		
③	・児童養護施設を知る ・事例を知る										教科書の該当箇所の通読		
④	・社会的養護における養育者としての専門性 ・事例を知る										教科書の該当箇所の通読		
⑤	・子どもの理解と方法 ～子どもの基本的な発達段階を知る～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読		
⑥	・子どもの理解と方法 ～児童虐待について考える～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読		
⑦	・子どもの理解と方法 ～アタッチメントへの理解～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読		
⑧	・子どもの理解と方法 ～生活の中での治療的養育～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読		
⑨	・子どもの理解と方法 ～ライフストーリーワーク～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読		
⑩	・子どもの理解と方法 ～発達障がいへの理解～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読		
⑪	・子どもの理解と方法 ～家族への理解と支援の内容～ ・事例検討										教科書の該当箇所の通読		
⑫	・子どもの理解と方法 ～アセスメントと自立支援計画の作成～										教科書の該当箇所の通読		
⑬	・社会的養護における機関連携 ・施設内虐待、マルトリートメントについて ・職員間でのチーム養育について										教科書の該当箇所の通読		
⑭	・これからの社会的養護 ・里親制度について知る ・社会的養育ビジョンについて知る										教科書の該当箇所の通読		
⑮	・講義のまとめと振り返り										これまでの講義資料の通読		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	70%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	30%							
使用教科書	よりそい支える「社会的養護Ⅱ」 教育情報出版						参考図書	授業内で適宜紹介					
学生への メッセージ	「養育」という分野に触れ、子どもを育てるということはどういうことかを学んでいただきたいと思います。						履修上の注意	社会的養護の世界を知り、積極的に学び、考える姿勢を持っていた ください。					
実務経験と 科目の関連	児童養護施設での実務経験を踏まえ、子どもに関する社会的養護の基礎的な内容と実際について教授する。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
53	子育て支援	演習	1								○		○
科目区分	保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独	
ディグリーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	保育士の行う保育の専門性を活かした保護者に対する相談、助言、情報提供等について、その特性と展開を理解する。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
加わらぬホリーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。											《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	カウンセリングの基本的技法、カウンセリング・マインド、チームでの保育、環境調整、特別なニーズ	
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。													
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》							
カウンセリングの基本的な技法である、傾聴、受容、共感等を学んだうえで、日常的な子育てに関する支援の展開方法を演習を交えながら学習する。また、地域の資源を生かすことの重要性や連携の重要性について学ぶ。多様な様相を示す子どもについて、理解と援助・支援について事例をもとに学ぶ。						1、保育の専門性を背景とした保護者に対する支援の特性を理解し、説明できる。 2、保育士の行う相談、援助、情報提供等を事例に沿って理解し実践できる。 3、子どもの豊かな感性と表現力を育むための基礎的知識や技術を身に付ける。							
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	保育士の行う子育て支援の概要と必要性につて										保育士・幼稚園教諭・保育教諭となる心構えを再考しておく。		
②	保護者との相互理解と信頼関係の形成について										保育という行為を通してながら、保護者と信頼関係を築く方法を考えておく。		
③	子育て審に有効なカウンセリング技法について①理論面を学ぶ										関連教科との関係からカウンセリングの技法について調べておく		
④	子育て審に有効なカウンセリング技法について②カウンセリング場面の演習から学ぶ										自分は他者と対面した時にどのような癖や見方をするかなどを録画して省察しておく		
⑤	保護者の抱える子育てに関する様々なニーズへの対応①育児不安等										保護者は子育てについて様々な悩みを抱えているなどの様な悩みがあるか調べておく		
⑥	保護者の抱える子育てに関する様々なニーズへの対応②虐待・ネグレクト等										前時で様々な育児不安について学んだが、個別の事案について調べておく		
⑦	保護者の抱える子育てに関する様々なニーズへの対応③子育てに困難を抱える子										主に発達障害等について事前に調べておく		
⑧	保育者の行う子育て支援の実践について①事例を用いての相談演習										カウンセリングの技法について調べ録画等しながら自分の癖を把握しておく		
⑨	保育者の行う子育て支援の実践について②事例を用いての相談演習										前時で行ったカウンセリングの技法について復習しさらにブラッシュアップできるように予習しておく		
⑩	保育者の行う子育て支援の実践について③事例を用いての相談演習										前時で行ったカウンセリングの技法について復習しさらにブラッシュアップできるように予習しておく		
⑪	事例研究①グループワークにより様々な事例について学ぶ①										保護者の困ったにどの様に対応することが、子育て支援につながるかを考察しておく		
⑫	事例研究①グループワークにより様々な事例について学ぶ②										保護者の困ったにどの様に対応すれば子育て支援に繋がるかを考察しておく		
⑬	事例研究①グループワークにより様々な事例について学ぶ③										前時での事例研究をもとに、経験知を実践知として生かす方法について考察しておく		
⑭	記録の取り方と分析の方法、エピソード記録について										子育て支援において、記録は非常に重要となる実習記録などと重ねながら予習しておく		
⑮	地域の子育て審の活用について										地域資源は子育て支援において重要なファクターとなる事前に自分の住む地域の支援体制について調べておく		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度		備考					
	50%	10%	20%	評価に加えず	評価に加えず	20%							
使用教科書	幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育解説：「あしたの君へ」 柚木裕子著						参考図書		授業内において適宜紹介する				
学生へのメッセージ	子育て支援は、保育者の資質・能力に大きくかわってきます。共に学び合い資質・能力を高めて行きましょう。						履修上の注意		課題意識をもって授業に臨んで欲しい				
実務経験と科目の関連	小学校長、公立幼稚園長、教育委員会、カウンセリング実践・研究等の実績を踏まえ、人の成立から人間の在り方までを実践と理論に基づいて実践力が身に付くように授業を行う。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
54	子どもの健康と安全	演習	1			■		○		○	中村千景	該当する	
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独	
ディパ ボリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									《授業の概要》			
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									1年次の「子どもの保健」で学んだ知識を基に、子どもの健康を保持増進するために必要な技術や、疾病への対応、事故防止対策等について講義します。さらに、実践することができるように演習を行います。			
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○			
かきう ボリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○			
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									《キーワード》			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》					《到達目標（行動目標）》								
・子どもの保健に関する個別対応と、集団全体の健康及び安全管理について理解する。 ・子どもの体調不良等に対して、適切な応急処置等ができるように技術を身につける。 ・健康及び安全管理の実施するために関連機関との連携を理解する。					・子どもの健康管理を行うための技術を理解し、実施できる。 ・健康及び安全管理のあり方を理解し、実施できる。 ・保健活動の計画及び評価ができる。								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	保健的観点を踏まえた保育環境と援助 子どもの健康と保育の環境・子どもの養護の仕方 ＊おんぶひもの使い方演習										・テキストのpp1-10を読む。 ・pp2-3のガイドラインを確認する。		
②	保育における健康と安全管理① 衛生管理 ＊吐物処理演習										・テキストのpp11-26を読む。 ・学校環境衛生基準を調べる。		
③	保育における健康と安全管理② 事故防止と安全管理 ＊ワークシート①作成演習										・テキストのpp27-40を読む。 ・ワークシート②に取り組む。		
④	保育における健康と安全管理③ 危機管理・災害への備え										・テキストのpp41-51を読む。 ・地域のハザードマップを調べる。		
⑤	子どもの体調不良などへの対応① 体調不良や傷害が発生した場合の対応 ＊氷枕・氷嚢作成演習										・テキストのpp52-82を読む。 ・p70のガイドラインを調べる。		
⑥	子どもの体調不良などへの対応② 応急手当 ＊三角巾の使い方演習										・テキストのpp83-108を読む。 ・レジ袋を利用した三角巾を作成する。		
⑦	子どもの体調不良などへの対応③ 一次救命処置 ＊心肺蘇生法演習										・テキストのpp109-118を読む。 ・成人の心肺蘇生法を調べる。		
⑧	子どものかかりやすい感染症対策 感染症の集団発生の予防・感染症発生時と罹患後の対応 ＊手洗い実験演習										・テキストのpp119-148を読む。 ・予防接種について復習する。		
⑨	保育における保健的対応① 子どもの健康観察と健康診断 ＊バイタルサイン測定演習										・テキストのpp149-165を読む。 ・健康診断について復習する。		
⑩	保育における保健的対応② 身体計測の方法 ＊身体計測演習										・テキストのpp165-180を読む。 ・ワークシート④に取り組む。		
⑪	保育における保健的対応③ 3歳未満児の特徴と生活に対する援助 ＊おむつがえ演習										・テキストのpp180-198を読む。 ・3歳未満児の特徴について復習する。		
⑫	保育における保健的対応④ 3歳未満児の子どもの生活習慣										・テキストのpp198-213を読む。 ・SIDSについて復習をする。		
⑬	保育における保健的対応⑤ 個別的な配慮が必要な子どもへの対応										・テキストのpp214-232を読む。 ・食物アレルギーについて復習する。		
⑭	保育における保健的対応⑥ 障害のある子どもへの対応										・テキストのpp232-245を読む。 ・医療的ケアについて調べる。		
⑮	健康及び安全管理の実施体制 家庭・専門機関・地域の関係機関との連携										・テキストのpp246-259を読む。 ・保健活動について調べる。		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考						
	60%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	10%	30%							
使用教科書	「これだけはおさえて!! 保育者のための子どもの健康と安全[改訂版]」 鈴木美枝子 他著（株式会社 創成社）					参考図書		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、 その他適宜紹介します。					
学生への メッセージ	子どもの健康や病気・事故に関する話題があれば日頃から チェックする習慣を身につけよう。					履修上の注意		教科書を丁寧に読み、補足プリントとあわせて理解を深めるようにしましょう。また、配布物をその都度整理しておきましょう。					
実務経験と 科目の関連	保育園での勤務経験から、子どもの健康を守るために必要となる視点や、健康実態など、テキストだけでなく保育現場の実体験も織り交ぜながら講義を進めます。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目	
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士			
				前期	後期	前期	後期						
55	特別支援保育Ⅱ	演習	1			■		○		○	西原 彰宏	該当する	
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独	
ディパ ボリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										特別支援が必要な子どもについては障害の特性や心身の発達を理解し教育の内容や支援の方法を身につける。特別な教育的ニーズのある子どもについては子どもの姿を把握し活動や生活上の困難を理解して対応方法を工夫する。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○			
かき ボリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										特別の支援を必要とする子ども 特別の教育的ニーズのある子ども インクルーシブ教育		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○			
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
・特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達を理解した上で、教育の内容や支援の方法を理解する。 ・特別の教育的ニーズのある子どもについて把握し、活動または生活上の困難とそれに対応を理解する。 ・すべての子どもを包み込む教育（インクルーシブ教育）の意義と内容及び支援の方法を理解する。				・発達障害を始めとする様々な障害のある子どもについての基礎知識を持ち、支援の方法を理解している。 ・特別の教育的ニーズのある子どもについて把握し、支援の必要性を理解している。 ・子ども一人ひとりの集団生活における教育的ニーズに応えることが、子どもが生きる力を身につけていくことにつながっていることを理解している。									
授業目標		授業計画									授業外学習及び準備等		
①	特別な支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念1 障害の概念と障害児保育の歴史の変遷とノーマライゼーション									1回目の復習とP2～P9及び配布資料を通読する			
②	特別な支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念2 インクルーシブ教育理念と特別支援教育の制度									2回目の復習とテキストP10～P17を通読する			
③	特別な支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念3 障害のある子どもの地域社会への参加と包摂（インクルージョン、インフォームドコンセント）									3回目の復習とテキストP17～P25を通読する			
④	特別な支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念4 障害のある子どもの教育・保育の基本									4回目の復習とテキストP26～P33及び配布資料を通読する			
⑤	幼稚園・保育所における特別な支援を必要とする子どもの教育・保育の実際1 全体的な計画及び指導計画、個別の支援計画の作成									5回目の復習とテキストP154～P167を通読する			
⑥	幼稚園・保育所における特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際2 個別の支援計画の意義と活用									6回目の復習とテキストP167～P182を通読する			
⑦	幼稚園・保育所における特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際3 記録の記入と計画の評価									7回目の復習とテキストP178～P182を通読する			
⑧	幼稚園・保育所における特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際4 職員間の連携・協働									8回目の復習とテキストP195～P199を通読する			
⑨	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援体制1 「通級による指導」と「自立活動」、「個別の指導計画」と「個別的教育支援計画」									9回目の復習とテキストP204～P211及び配布資料を通読する			
⑩	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援体制2 「個別の指導計画」と「個別的教育支援計画」作成する意義と方法									10回目の復習とテキストP211～P218を通読する			
⑪	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援体制3 特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭との連携									11回目の復習とテキストP219～P228を通読する			
⑫	特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題1 保健・医療・福祉・教育における現状と課題									12回目の復習とテキストP254～P262、P235～P243を通読する			
⑬	特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題2 支援の場の広がりとながり									13回目の復習とテキストP263～P266を通読する			
⑭	特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題3 障害者の自立と就労支援									14回目の復習とテキストP266～P274を通読する			
⑮	まとめ：特別支援教育・保育の理念と支援体制を保育に活かす									15回目の復習			
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考					
		70%	10%	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	20%						
使用教科書		尾野明美他2名編著「特別支援教育・保育概論―特別な配慮を要する子どもの理解と支援」朝文書林2020年						参考図書		幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書、認定こども園教育・保育要領解説			
学生へのメッセージ		特別支援教育の理念と支援体制を保育の中で活かすには？という視点を忘れず、一步一步学びましょう。						履修上の注意					
実務経験と科目の関連		特別支援学校小学部と親子の療育通所施設で、乳幼児と児童の保育・教育を15年間行った。その後、ある地域の5つの保育所で発達相談と園内研修を10年担当した。現在は障害を持つ人たちの福祉作業所で指導を行っている。その経験をもとに、支援を必要とする園児や子どもの心身の発達、特性、支援の方法、その背景にある理念（大切な考え方）について教授する											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
57	子どもの発達と造形表現Ⅲ	演習	1					■	選択		*	森高光広	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目										担当形態	単独
ディ・ア ボ・リ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。											乳幼児は自ら生きていくための力を様々な行動を通して獲得していく。5領域の中で「造形」の学びは大切である。子どもの感性を育み、主体性を大切に、自らの感性を駆使して楽しく制作することの大切さを再確認し、3.4.5歳児向けの造形活動を踏まえて具体的な援助の手立てを身につけることを目的とする。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
かきう ボ・リ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。										○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	○子どもの表現の多様性を知る ○子どもの表現や活動には個人差がある ○育てたい力や学びが実現できる制作や活動を展開 や保育環境も踏まえて探る。	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》									
未就学児である幼児の造形活動行動は「人間としての営み」として、重要であるとともに、小学校の図画工作科での学びも踏まえて、その基板となる力を育むことが求められる。つくることの楽しさとともに手指の発達に即した造形制作、鑑賞、共同の制作など、小学校の図画工作での学びにつながる内容も含めて学ぶ。情報機器の保育・教育現場での活用を理解する。				表現領域の中にあって、子どもの造形制作やその活動、それを通して人との関わりは大切である。子どもの主体的な造形活動を展開・援助ができるように、実際の制作や活動を踏まえて具体的に学び、保育・教育現場でも応用できるための力を各年齢に応じた指導や手立ても考え、身につける。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	材料からの視点～紙以外 ☆作品画像各自保存、随時確認します										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
②	画材からの視点～組み合わせる1										◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
③	展開からの視点～場の設定① 季節感										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
④	展開からの視点～ 展開からの視点～場の設定② しくみを踏まえて										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑤	紙立体制作①～生き物をつくる①										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑥	紙立体制作②～生き物をつくる②										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑦	パペットの制作①～アイデアを考える ※材料各自自由										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑧	パペットの制作②～仕組みの試行・布材の活用										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑨	パペットの制作③制作②～制作完成・遊びと活用の構想										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑩	シアターの展開～見合いの場 動画撮影・パペット・絵本活用										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑪	グループワークを楽しむ～仲間作りを促す手立て										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑫	迷路の制作①～アイデアを練る										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑬	迷路の制作②～路作り・しかけ										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑭	迷路の制作③～転がすところの完成										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
⑮	迷路の制作④～装飾・見合いの場 まとめ										◆感想や疑問も含めしっかりと記録を取る。◆常に汚れても汚されてもよい服装のこと。◆授業のまとめ		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考		欠席の場合、当日の課題レポートと欠席回分の制作の提出で加算します。締め切りについては要相談				
	評価に加えず	評価に加えず	35%	15%	35%	15%							
使用教科書	表現教育にはそんなこともできるのか―教師たちのフレキシブルなアプローチに学ぶ 鈴木幹雄、森高光広、他編著、森高光広・他(著)あいり出版 価格2420 ISBN-13: 978-4865550139						参考図書		『造形表現』竹井史編著、森高光広・他(著)、一藝社、2200円 ISBN-13: 978-4-86359-155-4				
学生へのメッセージ	楽しく制作することを通して、子どもの目線で考えて具体的な造形活動の援助ができるように学びます。						履修上の注意		課題は時間内提出を基本とします。制作した作品などの画像は各自スマホで保存します。ICT活用は随時します。履修人数によって制作内容は変わります。				
実務経験と科目の関連	幼稚園での園児に対する造形活動や小学校全年の図画工作の指導経験を活かし、子どもの育ちと行動の理解及び発達に応じた造形活動とその展開について具体的に伝える												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒 業	初 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
60	子どもの弾き語り演習Ⅱ	演習	1			■		選択		*	横関由紀・永島晴美・ 渋谷り子・羽金恵子・ 川上由美・前田佳代	該当する
ディ・ ホルターとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										この授業では、弾き語りを中心としたピアノの技術の更なる習得をめざしながら、音楽にかかわる活動の工夫や、音楽に親しみ楽しめる環境を考え、ロールプレイやディスカッションを通して実践力を養っていく。また、幼児たちがさまざまな場面で心を動かしている事に共感できるように、授業内で色々な曲に触れながら自らの感性を磨いていく。実習への準備に向けた選曲が出来るので、積極的に取り組んでほしい。	
加藤ハム ホルターとの関 連	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○	導入から演奏 ロールプレイ ディスカッション	
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》				《到達目標（行動目標）》								
○季節に応じた歌の伴奏（弾き語り）を習得する。 ○幼児が音楽に親しみ、歌を歌ったりする心地良さを十分味わえるような音楽表現を身につける。 ○幼児の、音楽への興味を引き出すための方法について考察し、様々な導入があることを理解する。				①保育者らしい総合的な技術で発表する ②曲想を理解し、豊かな演奏表現を実践できる ③自分のレベルや目標に合った曲を選曲し習得する ④ディスカッションで自分の意見を述べ、レポートにまとめることができる ⑤弾き語りを用いて構想を組み立て、模擬保育を展開することができる								
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	授業課題・習得目標・授業計画の説明 担当者発表 練習計画 発表の課題 中間発表日決定				【グレードの目安】							
②	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導				mp ステップⅦが終了し 参考曲に進んでいる							
③	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認				mf 参考曲が概ね10曲習得 していること 簡易伴奏可							
④	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認				f 一人で譜読みが出来る レベル 簡易伴奏不可							
⑤	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認				ff 一人で完成させることが 出来るレベル						中間発表の講評用紙提出	
⑥	中間発表 及び グループディスカッション 発表後の事後指導 個人指導				【具体的な練習や取り組み】							
⑦	中間発表 及び グループディスカッション 発表後の事後指導 個人指導				*曲想に合った演奏技術を習得する							
⑧	中間発表 及び グループディスカッション 発表後の事後指導 個人指導				*導入の方法を工夫し発表で実践する。							
⑨	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導				*担当者と相談し、実習や就職試験を 想定した曲の習得。							
⑩	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導				*実践を想定し、導入から弾き語りま でのロールプレイの発表をする。						ディスカッションレポート提出	
⑪	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導				*それぞれの発表についてのディスカッ ションに参加し意見を述べると共に、 レポートの記述をする。							
⑫	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認				*責任実習を踏まえて選曲し、保育者 らしい総合的な技術で発表する。							
⑬	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認											
⑭	個々の練習計画に沿って実技練習 個人指導 発表曲の確認										期末発表の講評用紙提出	
⑮	期末発表 及び 講評（個人指導） 発表後の事後指導										受講カード提出	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	備考		授業終了時までに全ての曲が合格していること。2回の発表曲の合格、必修曲の習得が評価の条件となる。作品・課題の中に必修曲の習得（合格）及び伴奏の形態、発表態度も含む。			
	評価に加えず	評価に加えず	10%	30%	55%	5%						
使用教科書	2訂版 心を育む子どもの歌（教育芸術社） Colla Parte（越谷保育専門学校）・入学前講習会テキスト				参考図書		こどものうた200・続こどものうた200（チャイルド本社）					
学生への メッセージ	豊かな感性を持ち、音楽の美しさを子どもに伝えられるような技術を身につけていきたいと思います。				履修上の注意		音楽実技演習が再履修になった学生、また子どもの音楽基礎演習Ⅰを受講しなかった学生も受講可能です。					
実務 経験 と 科目 の 関連	横関由紀 幼稚園教諭の経験を活かし、保育現場におけるピアノの演奏の重要さと子どもの音楽活動の意義を学生に伝える。											
	永島晴美 音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。											
	渋谷り子 音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。											
	羽金恵子 音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。											
	川上由美 音楽教室で園児を対象にしたピアノを指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義をピアノの授業を通して学生に伝える。											
	前田佳代 幼稚園でピアノを正課外活動で園児に定期的に指導した経験を活かし、子どもの音楽活動の意義を学生に伝える。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1年		2年		卒 業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
61	子どもの運動あそび	演習	1			■		選択		*	東海林孝	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独
ディパ ホリとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									「幼児期運動指針」にある「幼児期に身に 着けたい36の動き」をあそびを通してどの 様に身に着けるのかを理解する。更にその 動きを簡単な器械運動に発展させる。また、 簡単なミニゲームをたくさん覚え幅広い 年齢層の子どもに実践できるようにする。		
かわら ホリとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									《キーワード》		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									幼児期運動指針、発育・発達、幼児体育、器械体操、ミニゲーム、		
行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
・36の基本動作を理解する。 ・遊びから始まる子どもの運動を理解する。 ・保育をするうえで、子どもに安全で楽しい運動あそびを紹介できる力を身に着ける。 ・ミニゲームのやり方を年齢別に実践できる指導力を身に着ける。 ・器械運動の補助、指導法を身に着ける。						・子どもに運動を教える際に必要な話す（説明）、見せる（見本）、触る（補助）を実践することができる。 ・運動あそびの基本である模倣について、どのような動きとの関連があるかを説明することができる。 ・各年齢層にあったミニゲームの指導ができる。 ・器械運動の正しい動きと補助指導方法ができる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	整列・列の増減 ～ アイスブレーキング（数で集まる、条件で集まる） ミニゲーム：大波、キャッチ										毎時間リズム室で行います。体操着、上履きで受講してください。	
②	器械運動 マットあそび（模倣からでんぐり回り⇒前転） ゲーム：森とりす											
③	器械運動 マットあそび（前転：模倣を使い分習法と補助） ゲーム：いらっしゃい											
④	器械運動 マットあそび（後転：模倣を使い分習法と補助） ゲーム：震源地											
⑤	器械運動 マットあそび実践 前転・後転の正しい補助の確認 ミニゲーム：横跳びじゃんけん①											
⑥	器械運動 平均台あそび（ドンチクタ、平均台の安全な歩き方、じゃんけん陣取りゲーム） ミニゲーム：横跳びじゃんけん②											
⑦	器械運動 平均台あそび（またいで歩く、振り返る。絵合わせゲーム）グループ発表打ち合わせ											
⑧	平均台 グループ発表											
⑨	器械運動 跳び箱（助走～踏み切りのやり方、開脚で跳び乗りの補助の方法） ゲーム：棒で遊ぼう①											
⑩	器械運動 跳び箱（跳び乗り、跳び越しの補助の方法） ゲーム：棒で遊ぼう②、命令ジャンプ											
⑪	器械運動 跳び箱（跳び乗り、跳び越しの補助の方法） ゲーム：棒で遊ぼう③、綱引き											
⑫	器械運動 跳び箱あそび実践 跳び乗り・跳び越しの指導方法と補助 ゲーム：グループ対抗じゃんけんゲーム											
⑬	新聞紙で遊ぼう、フープで遊ぼう											
⑭	ゲーム実践（グループ発表）、みんなで遊ぼう（好きなゲームで遊ぼう）											
⑮	教室で遊ぼう 器械運動の振り返り、ミニゲームの振り返り、しりとりパズル、反対語探し										教室で行います。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	40%	評価に加えず	60%						
使用教科書	なし					参考図書		幼児期運動指針				
学生への メッセージ	器械運動は自分が上手にやるのではなく、教え方を覚えます。 ゲームやミニゲームで思い切り体を動かしましょう。					履修上の注意		それほど激しい運動ではありませんが無理をせずに行ってください。				
実務経験と 科目の関連	幼稚園、スポーツクラブの幼児体育指導者としての経験から、幼児向けの器械運動の指導の仕方や安全で楽しい運動遊びを実践の仕方が身につくような授業を行う。											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
63	保育教材研究（バベット・エプロンシアター）	演習	1			■		選択		*	武田真理恵	該当する	
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独	
ディ・ア ボ・リウとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										《授業の概要》 授業を通して子どもとの関わりを豊かに実習における技能を高める。制作にあたっては、子どもの発達段階を考慮し、年齢や保育場面の設定をした上で制作に取りかかる。制作後は、模擬授業を行い学生発表とする。		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。												
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○			
かきう ボ・リウとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》 ・子どもの発達年齢 ・保育環境 ・作り方と演じ方		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。												
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。									○			
《一般目標》 ・手遊びや歌に合わせ制作した作品の活用方法、技能を身に付けることができる。 ・指導案作成に反映できるようにする。 ・実習先での様々な保育場面で活用、子どもの年齢等を理解し制作、演じる楽しさを共感する。				《到達目標（行動目標）》 ・身近な素材を使って、様々な保育教材が作れるようになる。 ・制作、演じる、活用方法について考察し理解を深める。 ・保育の実践にあたり、その方法及び技術に関する基礎知識を身につける。 ・子どもの発達年齢に考慮し、演じることを身につける。									
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	・保育の方法及び技術に関する基礎的な考え方とその重要性を理解する ・紙など身近な素材を使って指人形を作る										・はさみ のり 折り紙		
②	バベットの制作・バベットの制作① 基礎編教材の裁断、縫い方の説明（主に返し縫については練習）										・裁縫セット、刺繍糸、刺繍針、フエルト等の準備		
③	バベットの制作① ＊フエルトで制作1（裁断、布地とダーツまで）										・接着芯、裏布の準備 ・型紙、フエルトの裁断		
④	バベットの制作① ＊フエルトで制作2（頭部（目や鼻、頬など含））										・接着芯、裏布の準備 ・型紙、フエルトの裁断		
⑤	バベットの制作① ＊フエルトで制作3（頭部と胴体、裏地、手、リボン）										・裏布の準備 ・型紙、フエルトの裁断		
⑥	バベットの制作② ＊手袋で制作1（頭部と胴体、裏地、手、リボン）										・接着芯、裏布の準備 ・型紙、フエルトの裁断		
⑦	バベットの制作② ＊手袋で制作2（頭部（目や鼻、頬など含））										・接着芯、裏布の準備 ・型紙、フエルトの裁断		
⑧	バベットの制作② ＊手袋で制作3（胴体（手、リボン））										・接着芯、裏布の準備 ・型紙、フエルトの裁断		
⑨	バベットの制作② ＊手袋で制作4（頭部と胴体、裏地）										・裏布の準備 ・型紙、フエルトの裁断		
⑩	エプロンシアターの制作1 ＊構想、下書き、人形や背景の制作										・図案を考え、用紙に色付で描く ・必要な材料を準備、フエルトを裁断		
⑪	エプロンシアターの制作2 ＊人形や背景の制作										・図案を考え、用紙に色付で描く ・必要な材料を準備、フエルトを裁断		
⑫	エプロンシアターの制作3 ＊人形や背景の制作										・図案を考え、用紙に色付で描く ・必要な材料を準備、フエルトを裁断		
⑬	エプロンシアターの制作4 ＊人形や背景の制作										・図案を考え、用紙に色付で描く ・必要な材料を準備、フエルトを裁断		
⑭	エプロンシアターの制作5 ＊人形や背景の制作										作品を完成させる		
⑮	保育教材研究発表会 ＊学生発表（バベット、エプロンシアター）										・保育の場での活用を考え模擬保育を演じる。		
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
		評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	50%	40%	10%						
使用教科書		・使用教科書は特になし ・適宜使用プリントを配布						参考図書		・幼稚園教育要領解説 ・保育所保育指針解説			
学生へのメッセージ		保育現場で活用できる作品を制作する積極性と意識を持ち取り組みましょう。また他学生の作品や演じ方を観察し、保育技術を身に付けましょう。						履修上の注意		・欠席や遅刻はせず授業内で制作に取り組む。 制作物は全て評価対象とする。			
実務経験と科目の関連		保育にバベット人形を活用するための指導を行う。幼稚園等での長い現場経験から導き出したモノづくりのメソッドを学生に伝える											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単 位 数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある 教員による 授業科目
				1 年		2 年		卒 業	幼 2 種	保 育 士		
				前期	後期	前期	後期					
64	こどもとおもちゃ	演習	1			■		選択		*	武田真理恵	該当する
科目区分		保育の内容・方法に関する科目									担当形態	単独
ディ プロ マとの 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										子供の発達に合わせて適切におもちゃを選 ぶ事によって心の栄養を与えてくれます。 手作りおもちゃ、既製のおもちゃ、アナロ グゲームなど、作ったり遊んだりの繰り返し でアイデアの引き出しを増やしていきます。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○		
かわら ぬとの 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》 ・子どもの発達とおもちゃ ・保育環境の中でのおもちゃ ・応用力	
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○		
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入しに学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○		
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○		
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。											
《一般目標》						《到達目標（行動目標）》						
・子どもの発達に合わせたおもちゃの選び方を知る 技能を身に付けることができる。 ・指導案作成に反映できるようになる。 ・実習先での様々な保育場面で活用、子どもの年齢などを理解し製作の指導をできるようにする						・身近な素材を使って、様々な保育教材が作れるようになる。 ・保育の実践にあたり、その方法及び技術に関する基礎知識を身に付ける。 ・子どもの発達年齢に合わせたおもちゃ選びができるようになる						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等	
①	・おもちゃ概論 ・おもちゃインストラクター養成講座をふりかえる										・筆記用具、はさみ、のりなど	
②	1.子どもの発達とおもちゃ① 乳幼児のおもちゃ										・筆記用具、はさみ、のりなど	
③	1.子どもの発達とおもちゃ② 3～5歳児のおもちゃ										・筆記用具、はさみ、のりなど	
④	1.子どもの発達とおもちゃ③ 音の出るおもちゃ・言葉につながるおもちゃ										・筆記用具、はさみ、のりなど	
⑤	1.子どもの発達とおもちゃ④ 動きを楽しむおもちゃ										・筆記用具、はさみ、のりなど	
⑥	2.保育とゲーム① 世界のアナログゲームで遊ぼう										・筆記用具、はさみ、のりなど	
⑦	2.保育とゲーム② アナログゲームを作ろう										・筆記用具、はさみ、のりなど	
⑧	2.保育とゲーム③ 作ったゲーム、持ち寄ったゲームで遊ぼう										・筆記用具、はさみ、のりなど 作品	
⑨	3.おもちゃデザイン論① 構成玩具、積み木研究										・筆記用具、はさみ、のりなど	
⑩	3.おもちゃデザイン論② 手づくりおもちゃを作ろう										・筆記用具、はさみ、のりなど	
⑪	3.おもちゃデザイン論③ 手づくりおもちゃを指導しよう										・筆記用具、はさみ、のりなど	
⑫	3.おもちゃデザイン論④ オリジナルのおもちゃ製作 1										・筆記用具、はさみ、のりなど	
⑬	3.おもちゃデザイン論⑤ オリジナルのおもちゃ製作 2										・筆記用具、はさみ、のりなど	
⑭	3.おもちゃデザイン論⑥ オリジナルのおもちゃ製作 3										・筆記用具、はさみ、のりなど	
⑮	おもちゃ研究発表会 ＊学生発表 まとめ										・筆記用具、はさみ、のりなど	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 参加度	備考					
	評価に加えず	評価に加えず	評価に加えず	50%	40%	10%						
使用教科書	・使用教科書は特になし ・適宜使用プリントを配布						参考図書		・幼稚園教育要領解説 ・保育所保育指針解説			
学生への メッセージ	保育現場で活用できるおもちゃ（既製品・手づくりおもちゃ）の引き出しを増やし、保育技術を身に付けましょう。						履修上の注意		・欠席や遅刻はせず授業内で制作に取り組む。 制作物は全て評価対象とする。			
実務経験と 科目の関連	幼稚園などでの長い現場経験や、おもちゃコンサルタントとしての活動から導き出したモノづくりのメソッドや知識を学生に伝える											

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期						卒業・免許資格要件	授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種				保育士
				前期	後期	前期	後期						
67	保育実習Ⅱ	実習	2			8月	○		○	相川怜美 ほか専任教員	ホームページ発表参照		
科目区分	保育実習												
ディプロマポリシーとの関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。									○	《授業の概要》		
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。									○	保育実習Ⅰでの学びを踏まえて保育実践力をより確かなものにする。積極的に保育の場に参加し、子どもへの援助技術や知識を体験的に習得するとともに保護者支援についても学びを深める。		
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。									○			
カリキュラムポリシーとの関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。									○	《キーワード》 ・観察、参加、部分実習 ・子ども理解 ・職業倫理 ・保育技術の向上		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。									○			
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入に学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。									○			
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。									○			
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》 ・保育所(園)の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・既習の教科や保育実習Ⅰの経験をふまえ、子どもの保育および保護者支援について総合的に学ぶ。 ・保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。						《到達目標（行動目標）》 ・子どもと積極的にかかわり、援助・指導の仕方などを学んだ技術を部分・責任実習などの保育場面で実践する。 ・地域社会における子育て支援などを含めた多様な保育所(園)の機能や社会的役割とその意味について学ぶ。 ・プライバシーの保護や守秘義務についての実態を知る。							
実習内容												準備等	
《実習施設／実習期間》 私立保育所（一部公立保育所）／ 2年生 8月 《実習内容》 ・一日の保育の流れを把握し、子どもたちとのかかわりを通し、乳幼児理解を深める。 ・子どもの個人差について理解し、援助方法や対応方法を学ぶ。 特に発達遅れの遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 ・指導計画の立案および保育の実践を体験し、保育技術を習得するとともに、実践を通して反省・考察を行い新たな課題を見つける。 ・子どもとのかかわりの中で子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。 ・保育準備や環境構成・整備等、保育士としての心構えや態度を身に付け、自覚を深める。 ・地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。 ・保育士としての職業倫理を理解し、保育士に求められる資質、能力、技術を自己に照らし合わせ、課題を明確化させる。 ・保育所におけるさまざまな保育ニーズへの対応など、子育て支援の様子を学ぶ。												※ 事前の準備 ・子どもの心身の発達の理解 ・自作の保育教材の練習 ・ピアノ弾き歌い練習 ・手遊び、絵本、紙芝居の読み聞かせ練習 ・健康診断受診 ・腸内細菌検査受診 ・麻疹風疹抗体検査または麻疹風疹予防接種受診	
《実習計画》 ①授業で【保育実習指導Ⅱ】の受講 ②実習課題、心構えの設定 ③実習保育所(園)での事前オリエンテーション ④実習保育所(園)への提出物確認 ⑤実習記録、実習自己評価の提出 ⑥実習事後指導（個別面談）													
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考		実習保育所(園)における実習評価および実習態度、実習終了後の記録、自己評価の提出などを基に総合的に評価する。				
使用教科書	指定しない						参考図書		実習の手引き（学校作成） 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説				
学生へのメッセージ	保育士は子どもの成長において身近な人的環境になる大切な仕事です。意識しながら実習に取り組みましょう。						履修上の注意		保育実習指導Ⅱの単位が修得できていない場合は、保育実習Ⅱは実施できない。				
実務経験と科目の関連	保育所(園)（幼保連携型認定こども園・保育所型認定こども園を含む）に勤務する保育士（保育教諭）が、これまでの実務経験を活かして、認可保育所(園)での実習指導を行う。												

2024年度 幼稚園教諭保育士養成学科 教科目概要

番号	授業科目	形態	単位数	開講時期				卒業・免許資格要件			授業担当者	実務経験のある教員による授業科目	
				1年		2年		卒業	幼2種	保育士			
				前期	後期	前期	後期						
70	保育実習指導Ⅱ	演習	1			■		○		○	相川怜美	該当しない	
科目区分	保育実習										担当形態	単独	
ディパ ホリ-との 関連	愛情を持って共に学び、豊かな人間性を身につけている。										○	《授業の概要》	
	責任感を持って何事にも向き合い、規律ある態度を身につけている。										○	保育実習Ⅰの経験を活かし、保育実習の意義や目的を総合的に考え理解する。グループワークやプレゼンテーションを通して具体的な保育計画の作成を行う。また保育士として地域の子育て支援や保護者支援へのかかわり、職務内容についても考える。	
	保育への理解を深め、課題を持って実践することができる。										○		
かわあ ホリ-との 関連	広く深い教養と人間性豊かな保育者養成の目的を達成するために、「教養科目」と専門分野を体系的に学ぶ「専門教育科目」とに分け、編成する。										○		
	「育む・作る・動く・音を楽しむ」が基本となる現場で活かす「保育技術」を修得する。												
	実践力を総合的に学ぶことができる実習では、実習体験を導入にし学びと実践を融合させ、振り返りを通して自己の課題を見つけ保育を構築する力を育成する。										○	《キーワード》	
	学習評価は、成績評価基準をシラバスに示す。また、GPA等学びを振り返り客観的に自己点検することで、目標を持って継続的に取り組めるようにする。										○	・子ども理解 ・保育士の職務と専門性 ・保育実践力の向上	
	行事を通して共に学ぶ者同士が、切磋琢磨し協力して物事を解決する力と目標を持って取り組む力を育む。												
《一般目標》							《到達目標（行動目標）》						
・履修した講義内容や関連性を踏まえ、保育実践力を身に付ける。 ・実習に関する知識や技術の確認、実習関係書類の作成や実習先のオリエンテーション等、事前の手続きを進め準備を行う。							・実習先保育所(園)の特色および実習内容を理解し、説明することができる。 ・子どもの発達や興味関心、保育の目標等に応じた保育を構想し、指導案を作成することができる。 ・模擬保育を通して、自らの保育実践を評価・省察し、改善することができる。 ・保育所(園)における子育て支援の目的と方法を説明することができる。						
授業回数	授業計画										授業外学習及び準備等		
①	保育実習Ⅱの意義・目的（保育実習Ⅱにおける自己課題）										実習課題の提出		
②	保育所保育の理解を深める①（児童福祉施設としての保育所の役割）												
③	保育所保育の理解を深める②（子どもの保育と保護者支援）												
④	責任実習の実際（DVD視聴、立案する際の留意点について確認）												
⑤	責任実習の実際（子どもの生活と責任実習を行う際のポイント）												
⑥	指導計画の考え方・立て方										実習関係書類を作成		
⑦	実践的指導①（責任実習を想定した指導案の作成・保育教材研究）										保育教材の作成準備		
⑧	保育の計画と実践①（模擬保育）～乳幼児の子どもの姿～												
⑨	保育の計画と実践②（模擬保育）～ねらいと内容～												
⑩	保育の計画と実践③（模擬保育）～保育計画の作成～												
⑪	保育の計画と実践④（模擬保育）～日案の作成～												
⑫	保育の計画と実践⑤（模擬保育）～反省と考察～										指導案と保育教材の提出		
⑬	実習直前指導①（オリエンテーション時の留意事項と心構え）												
⑭	実習直前指導②（必要な書類の作成、事前訪問の確認等）												
⑮	実習に臨むにあたっての最終確認と実習後の流れ												
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度参加度	備考						
	評価に加えず	評価に加えず	30%	40%	20%	10%							
使用教科書	幼稚園・保育所・認定こども園パーフェクトガイド（わかば社）、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、実習の手引き						参考図書						
学生へのメッセージ	保育所の機能や役割について、家庭や地域との関係的な視点から、保育および子育て支援について理解を深めることができるような実習にしましょう。						履修上の注意		レポートや実習に関する書類等は提出期限を守りましょう。保育実習指導Ⅱの単位が修得できていない場合は、保育実習Ⅱは実施できない。				
実務経験と科目の関連													

2024年度 教科目概要

2024年4月1日発行

越谷保育専門学校

埼玉県越谷市東越谷3-10-2 〒343-0023
TEL. 048-965-4111 FAX. 048-962-6161

